別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基 本 計 画									
事項		記入欄							備考
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｾﾝｼｭｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　専修大学							
フリガナ 大学の名称		ｾﾝｼｭｳﾀﾞｲｶﾞｸ 専修大学（Senshu University）							
大学本部の位置		東京都千代田区神田神保町3丁目8番地1							
大学の目的		本大学は、社会現象に対する自由でとらわれない研究を基礎とし、旧い権威や強力に対してあくまで批判的であることを精神とし、人間の値打ちを尊重する平和的な良心と民主的な訓練を身に付けた若い日本人を創り上げることを目的とする。							
新設学部等の目的		文学部ジャーナリズム学科は、ジャーナリズムの分野における教育研究を行う学科として、国際化・情報化社会において氾濫する情報のなかから真実を見抜く眼を養い、実践的な知識や技術及び倫理観を身につけた、創造性と批判精神に富んだ人材の育成を目指す。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	文学部 ［School of Letters］ ジャーナリズム学科 ［Department of Journalism］	4 年	124 人	— 年次 人	496 人	学士（ジャーナリズム学）	平成31年4月 第1年次 年　月 第　年次	神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1	
	計		124	—	496				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	経営学部 ビジネスデザイン学科　（180） 文学部 ジャーナリズム学科　（124） 文学部 人文・ジャーナリズム学科　（廃止）（△93） ＊平成31年4月学生募集停止 経営学部 経営学科　〔定員減〕（△169）　（平成31年4月） 経済学部二部 経済学科　〔定員減〕（△14）　（平成31年4月） 法学部二部 法律学科　〔定員減〕（△14）　（平成31年4月） 商学部二部 マーケティング学科　〔定員減〕（△14）　（平成31年4月）							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	文学部ジャーナリズム学科	175 科目	192 科目	21 科目	388 科目	124 単位	

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設分	文学部　ジャーナリズム学科	人 11 (11)	人 1 (1)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 12 (12)	人 0 (0)	人 48 (48)	平成30年4月届出済み（予定）
		経営学部　ビジネスデザイン学科	9 (9)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	42 (42)	
		計	20 (20)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	—	
	既設分	経済学部　経済学科	29 (29)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	22 (22)	
		国際経済学科	13 (13)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	8 (8)	
		法学部　法律学科	26 (26)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	36 (36)	0 (0)	26 (26)	
		政治学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	11 (11)	
		経営学部　経営学科	16 (16)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	28 (28)	

教員組織の概要	既設分	商学部　マーケティング学科	23 (23)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	30 (30)	0 (0)	20 (20)
		会計学科	14 (14)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	6 (6)
		文学部　日本語学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	4 (4)
		日本文学文化学科	11 (11)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		英語英米文学科	14 (14)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	19 (19)
		哲学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	24 (24)
		歴史学科	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	25 (25)
		環境地理学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	18 (18)
		人文・ジャーナリズム学科	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	21 (21)
		ネットワーク情報学部　ネットワーク情報学科	10 (10)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	34 (34)
		人間科学部　心理学科	11 (11)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	44 (44)
		社会学科	13 (13)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)
		経済学部二部　経済学科	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	7 (7)
		法学部二部　法律学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	7 (7)
		商学部二部　マーケティング学科	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	7 (7)
		教養教育	34 (34)	11 (11)	5 (5)	0 (0)	50 (50)	0 (0)	337 (337)
		計	270 (270)	76 (76)	11 (11)	6 (6)	363 (363)	0 (0)	—
	合　計		290 (290)	79 (79)	12 (12)	6 (6)	387 (387)	0 (0)	—

教員以外の職員の概要	職　種	専　任	兼　任	計
		人	人	人
	事務職員	301 (301)	48 (48)	349 (349)
	技術職員	18 (18)	2 (2)	20 (20)
	図書館専門職員	23 (23)	8 (8)	31 (31)
	その他の職員	11 (11)	22 (22)	33 (33)
	計	353 (353)	80 (80)	433 (433)

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎敷地	125,786.17㎡	0.00㎡	0.00㎡	125,786.17㎡	
運動場用地	150,241.12㎡	0.00㎡	0.00㎡	150,241.12㎡	
小計	276,027.29㎡	0.00㎡	0.00㎡	276,027.29㎡	
その他	67.80㎡	0.00㎡	0.00㎡	67.80㎡	
合計	276,095.09㎡	0.00㎡	0.00㎡	276,095.09㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	168,484.66㎡ (168,484.66㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	168,484.66㎡ (168,484.66㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	174室	95室	103室	40室 (補助職員 12人)	7室 (補助職員 5人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	文学部ジャーナリズム学科	12室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	文学部ジャーナリズム学科	1,976,997〔695,003〕 (1,897,797〔676,391〕)	22,895〔8,529〕 (22,695〔8,525〕)	10,806〔10,152〕 (10,606〔9,919〕)	18,666 (17,866)	37,072 (37,072)	4 (4)	学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	1,976,997〔695,003〕 (1,897,797〔676,391〕)	22,895〔8,529〕 (22,695〔8,525〕)	10,806〔10,152〕 (10,606〔9,919〕)	18,666 (17,866)	37,072 (37,072)	4 (4)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	25,161.00㎡	1,930	2,359,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	17,628.35㎡	テニスコート 3面	多目的フィールド 1面	

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り 区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	教員１人当り研究費等		385千円	385千円	385千円	385千円	― 千円	― 千円	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費、電子ブックを含む。
	共同研究費等		6,775千円	6,811千円	6,811千円	6,811千円	― 千円	― 千円	
	図書購入費	1,187千円	1,187千円	2,375千円	3,562千円	4,750千円	― 千円	― 千円	
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	― 千円	― 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,257千円	997千円	997千円	997千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入　等

既設大学等の状況

大学の名称	専修大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次□人	人		倍			
経済学部一部						1.13			
経済学科	4	490	－	1,950	学士（経済学）	1.14	昭和24年度	神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1	平成28年度入学定員増（10人）
国際経済学科	4	205	－	815	学士（経済学）	1.13	平成8年度		平成28年度入学定員増（ 5人）
法学部一部						1.15			
法律学科	4	562	－	2,236	学士（法学）	1.16	昭和24年度	東京都千代田区神田神保町3丁目8番地1	平成28年度入学定員増（12人）
政治学科	4	153	－	609	学士（政治学）	1.14	平成18年度		平成28年度入学定員増（ 3人）
経営学部						1.12			
経営学科	4	542	－	2,156	学士（経営学）	1.12	昭和37年度		平成28年度入学定員増（12人）
商学部一部						1.12			
ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ学科	4	455	－	1,805	学士（商学）	1.14	昭和40年度		平成28年度入学定員増（15人）
会計学科	4	220	－	880	学士（商学）	1.09	昭和43年度		
文学部						1.16			
日本語学科	4	71	－	283	学士（文学）	1.16	平成22年度		平成28年度入学定員増（ 1人）
日本文学文化学科	4	114	－	452	学士（文学）	1.16	平成22年度		平成28年度入学定員増（ 4人）
英語英米文学科	4	142	－	566	学士（文学）	1.13	昭和41年度		平成28年度入学定員増（ 2人）
哲学科	4	71	－	283	学士（文学）	1.13	平成22年度		平成28年度入学定員増（ 1人）
歴史学科	4	132	－	526	学士（文学）	1.21	平成22年度		平成28年度入学定員増（ 2人）
環境地理学科	4	51	－	203	学士（文学）	1.18	平成22年度		平成28年度入学定員増（ 1人）
人文・ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾞﾑ学科	4	93	－	369	学士（文学）	1.14	平成22年度		平成28年度入学定員増（ 3人）
ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部						1.07			
ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学科	4	235	－	935	学士（情報学）	1.07	平成13年度		平成28年度入学定員増（ 5人）

既設大学等の状況	人間科学部						1.12			
	心理学科	4	72	―	286	学士（心理学）	1.06	平成22年度		平成28年度入学定員増（ 2人）
	社会学科	4	122	―	486	学士（社会学）	1.15	平成22年度		平成28年度入学定員増（ 2人）
	経済学部二部						0.97			
	経済学科	4	90	―	370	学士（経済学）	0.97	昭和24年度		平成28年度入学定員減（10人）
	法学部二部						0.97			
	法律学科	4	90	―	420	学士（法学）	0.97	昭和24年度		平成28年度入学定員減（60人）
	商学部二部						1.01			
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ学科	4	90	―	370	学士（商学）	1.01	昭和40年度		平成28年度入学定員減（10人）
	経済学研究科 修士課程						0.36			
	経済学専攻	2	30	―	60	修士（経済学）	0.36	昭和27年度		
	博士後期課程						0.11			
	経済学専攻	3	3	―	9	博士（経済学）	0.11	昭和30年度		
	法学研究科 修士課程						0.32			
	法学専攻	2	25	―	50	修士（法学）	0.32	平成16年度		
	博士後期課程						0.16			
	民事法学専攻	3	3	―	9	博士（法学）	0	昭和30年度		
	公法学専攻	3	3	―	9	博士（法学）	0.33	昭和49年度		
	文学研究科 修士課程						0.64			
	日本語日本文学専攻	2	10	―	20	修士（文学）	0.85	昭和46年度		
	英語英米文学専攻	2	5	―	10	修士（文学）	0.3	昭和46年度		
	哲学専攻	2	5	―	10	修士（哲学）	0.5	昭和46年度		
	歴史学専攻	2	10	―	20	修士（歴史学）	0.55	平成4年度		
	地理学専攻	2	5	―	10	修士（地理学）	0	平成4年度		
	社会学専攻	2	5	―	10	修士（社会学）	0.4	平成4年度		
	心理学専攻	2	10	―	20	修士（心理学）	1.2	平成4年度		
	博士後期課程						0.26			
	日本語日本文学専攻	3	3	―	9	博士（文学）	0.77	昭和48年度		
	英語英米文学専攻	3	2	―	6	博士（文学）	0.16	昭和48年度		
	哲学専攻	3	2	―	6	博士（哲学）	0	昭和48年度		
	歴史学専攻	3	5	―	15	博士（歴史学）	0.13	平成6年度		
	地理学専攻	3	3	―	9	博士（地理学）	0.11	平成6年度		
	社会学専攻	3	3	―	9	博士（社会学）	0.22	平成6年度		
	心理学専攻	3	3	―	9	博士（心理学）	0.44	平成6年度		
	経営学研究科 修士課程						0.3			
	経営学専攻	2	20	―	40	修士（経営学） 修士（情報管理）	0.3	昭和50年度		
	博士後期課程						0.44			
	経営学専攻	3	3	―	9	博士（経営学） 博士（情報管理）	0.44	昭和52年度		
	商学研究科 修士課程						0.88			
	商学専攻	2	10	―	20	修士（商学）	0.95	昭和50年度		
	会計学専攻	2	15	―	30	修士（商学）	0.83	平成22年度		

既設大学等の状況	博士後期課程						0.5			
	商学専攻	3	2	―	6	博士（商学）	0.16	昭和52年度		
	会計学専攻	3	2	―	6	博士（商学）	0.83	平成22年度		
	法務研究科 専門職学位課程						0.56			
	法務専攻	3	28	―	84	法務博士（専門職）	0.56	平成16年度		
	大　学　の　名　称	石巻専修大学								
	学　部　等　の　名　称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所　在　地	
		年	人	年次人	人		倍			
	理工学部						0.76			
	食環境学科	4	40	―	160	学士（工学）	0.48	平成25年度	宮城県石巻市南境新水戸1番地	
	生物科学科	4	55	―	205	学士（理学）	1.15	平成25年度		平成28年度入学定員増（15人）
	機械工学科	4	40	―	160	学士（工学）	0.58	平成元年度		
	情報電子工学科	4	35	―	145	学士（工学）	0.73	平成元年度		平成28年度入学定員減（ 5人）
	経営学部						0.62			
	経営学科	4	190	―	770	学士（経営学）	0.62	平成元年度		平成28年度入学定員減（10人）
	人間学部						0.79			
	人間文化学科	4	40	―	160	学士（人間文化学）	0.72	平成25年度		
	人間教育学科	4	40	―	160	学士（人間教育学）	0.86	平成25年度		
	理工学研究科 修士課程						0.23			
	物質工学専攻	2	5	―	10	修士（工学）	0.1	平成5年度		
	機械ｼｽﾃﾑ工学専攻	2	5	―	10	修士（工学）	0.1	平成5年度		
	生命科学専攻	2	5	―	10	修士（理学）	0.5	平成5年度		
	博士後期課程						0			
	生命環境科学専攻	3	3	―	9	博士（理学）	0	平成7年度		
	物質機能工学専攻	3	3	―	9	博士（工学）	0	平成7年度		
	経営学研究科 修士課程						0.4			
	経営学専攻	2	5	―	10	修士（経営学）	0.4	平成5年度		
	博士後期課程						0			
	経営学専攻	3	3	―	9	博士（経営学）	0	平成7年度		
附属施設の概要	該当なし									

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目	基礎科目	ジャーナリズム論	1前	2			○			1						
		情報表現実習（基礎）	1後	2					○						兼1	
		情報表現実習（応用）	2前	2					○						兼1	
		言論法	2前	2			○			1						
		メディア・コミュニケーション史	1・2・3前		2		○								兼1	
		ジャーナリズムの思想史	1・2・3後		2		○			1						
		現代社会とジャーナリズム	1・2・3後		2		○			1						
		ウエブジャーナリズム論	1・2・3前		2		○			1						
		新聞学	1・2・3前		2		○								兼1	
		放送学	1・2・3後		2		○								兼1	
		出版学	1・2・3前		2		○			1						
		パブリックメディア論	1・2・3前		2		○			1						
		テキストメディア論	1・2・3後		2		○			1						
		アーカイブ概論	1・2・3前		2		○			1						
		ジャーナリズムとアーカイブ	1・2・3後		2		○			1						
		アーカイブ発達史	1・2・3後		2		○			1						
		小計(16科目)	－	8	24	0		－		5	0	0	0	0	兼3	－
	基幹科目	市民とメディア	2・3・4前		2		○			1						
		娯楽とメディア	2・3・4後		2		○								兼1	
		言葉とメディア	2・3・4前		2		○			1						
		科学とメディア	2・3・4後		2		○								兼1	
		教育とメディア	2・3・4前		2		○			1						
		技術とメディア	2・3・4後		2		○			1						
		宗教とメディア	2・3・4前		2		○			1						
		映像ジャーナリズム論	2・3・4後		2		○			1						
		フォト・ジャーナリズム論	2・3・4後		2		○			1						
		雑誌ジャーナリズム論	2・3・4前		2		○			1						
		国際ジャーナリズム論	2・3・4後		2		○			1						
		経済ジャーナリズム論	2・3・4前		2		○				1					
		政治ジャーナリズム論	2・3・4前		2		○			1						
		戦争ジャーナリズム論	2・3・4後		2		○			1						
		沖縄ジャーナリズム論	2・3・4前		2				○	1						
		スポーツジャーナリズム論	2・3・4後		2		○			1						
		ジャーナリズムとメディア	2・3・4後		2		○			1						
		事件・災害とジャーナリズム	2・3・4前		2		○								兼1	
		憲法とジャーナリズム	2・3・4後		2		○								兼1	
		広告学	2・3・4前		2		○			1						
		PR論	2・3・4後		2		○			1						
		情報アクセシビリティ論	2・3・4後		2		○			1						
		コンテンツ産業論	2・3・4後		2		○			1						
		メディア技術の基礎	2・3・4後		2		○								兼1	
		メディア批評	2・3・4後		2		○								兼1	
		ジャーナリズムの倫理	2・3・4後		2		○			1						
		小計(26科目)	－	0	52	0		－		7	1	0	0	0	兼4	－
	発展・応用科目	応用実習	2後	2					○						兼2	
		プロジェクトA	3前		2			○		3					兼3	
		プロジェクトB	3後		2			○		2	1				兼3	
		ゼミナール1	3前	2				○		10	2				兼3	
		ゼミナール2	3後	2				○		10	2				兼3	
		ゼミナール3	4前	2				○		10	2				兼3	
		ゼミナール4	4後	2				○		10	2				兼3	
		卒業論文・制作	4通	6				○		10	2				兼3	
		世論調査	2・3・4後		2		○			1						
		メディアコンテンツ制作	2・3・4前		2				○	1						
		アニメーション論	2・3・4後		2		○								兼1	
		マンガ論	2・3・4前		2		○								兼1	
		調査報道論	2・3・4後		2		○								兼1	

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目	発展・応用科目	インタビュー論	2･3･4前		2				○						兼1	
		コンテンツプロデュース	2･3･4前		2		○			1						
		情報マーケティング	2･3･4後		2		○								兼1	
		スポーツ情報戦略	2･3･4前		2		○			1						
		スポーツ政策	2･3･4後		2		○			1						
		心理情報とメンタルマネジメント	2･3･4後		2		○			1						
		コンディショニングのための情報分析	2･3･4前		2		○			1						
		スポーツ心理の情報分析	2･3･4前		2		○			1						
		グラフィックデザイン	2･3･4前		2		○								兼1	
		ウエブデザイン	2･3･4後		2		○								兼1	
		知的財産権	2･3･4後		2		○								兼1	
		アーカイブ政策	2･3･4後		2		○								兼1	
		アーカイブ法制	2･3･4後		2		○								兼1	
		アーカイブマネジメント	2･3･4前		2		○			1						
		デジタルアーカイブ	2･3･4前		2		○			1						
		ライティング1	2･3･4前		2				○						兼1	
		ライティング2	2･3･4後		2				○						兼1	
		インターンシップ	3･4前		2				○	1						
		ジャーナリズム実習	3･4前		2				○						兼1	
		ジャーナリズム特講	3･4後		2		○								兼1	
		アーカイブ総合実習	3･4前		2				○	1						
		アーカイブ特講	3･4後		2		○								兼1	
		小計(35科目)	－	16	58	0	－			10	2	0	0	0	兼11	－
	関連科目	記録・史資料調査法	2･3･4前		2		○				1					
		記録・史資料調査実習	2･3･4後		2				○		1					
		スポーツインテリジェンス特講	2･3･4前		2		○			1						
		スポーツ医科学情報	2･3･4後		2		○			1						
		スポーツ栄養のイノベーション	2･3･4前		2		○								兼1	
		映像表現技法	2･3･4後		2		○								兼1	
		視覚表現論	2･3･4後		2		○								兼1	
		スポーツビジネス	2･3･4前		2		○								兼1	
		コーチング論	2･3･4後		2		○				1					
		コーチング実習	2･3･4前		2				○		1					
		文化情報資源論(図書館)	2･3･4後		2		○								兼1	
		文化情報資源論(博物館)	2･3･4前		2		○				1					
		スポーツ文化の国際比較研究	2･3･4前		2				○		1					
		スポーツと法	2･3･4前		2		○								兼1	
		ライフステージと健康情報	2･3･4後		2		○			1						
		スポーツの社会学	2･3･4後		2		○								兼1	
		情報とスポーツ	1･2･3･4後		2		○			1						
		現代社会とスポーツ	1･2･3･4前		2		○			1						
		中期留学プログラム1	2･3･4前・後		2			○			1					
		中期留学プログラム2	2･3･4前・後		2			○			1					
		中期留学プログラム3	2･3･4前・後		2			○			1					
		中期留学プログラム4	2･3･4前・後		2			○			1					
		中期留学プログラム5	2･3･4前・後		2			○			1					
		中期留学プログラム6	2･3･4前・後		2			○			1					
		中期留学プログラム7	2･3･4前・後		2			○			1					
		中期留学プログラム8	2･3･4前・後		2			○			1					
		映像特殊実習	3･4前		2				○						兼1	
		測定・調査実習	3･4後		2				○	1						
		シナリオライティング実習	3･4後		2				○						兼1	
		スポーツ総合実習	3･4前		2				○	1						
		小計(30科目)	－	0	60	0	－			4	2	0	0	0	兼7	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール	1前	2				○			1				兼1	
		小計(1科目)	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	－
	データリテラシー	データ分析入門	1前・後	2			○								兼1	
		小計(1科目)	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
	キャリア基礎科目	キャリア入門	1前・後		2			○							兼1	
		小計(1科目)	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
	基礎自然科学	あなたと自然科学	1前・後		2		○								兼1	
		小計(1科目)	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー	1前・後	1					○	1					兼1	
		スポーツウェルネス	1前・後	1					○	1					兼1	
		小計(2科目)	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	兼1	－
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化	1・2前		2		○								兼1	
		日本の文学	1・2前・後		2		○								兼1	
		世界の文学	1・2前		2		○								兼1	
		文学と現代世界	1・2後		2		○								兼1	
		英語圏文学への招待	1・2前		2		○								兼1	
		歴史の視点	1・2前		2		○								兼1	
		歴史と地域・民衆	1・2後		2		○								兼1	
		歴史と社会・文化	1・2前・後		2		○								兼1	
		基礎心理学入門	1・2前		2		○								兼1	
		応用心理学入門	1・2後		2		○								兼1	
		哲学	1・2前・後		2		○								兼1	
		倫理学	1・2前・後		2		○								兼1	
		論理学入門	1・2前・後		2		○								兼1	
		ことばと論理	1・2前・後		2		○								兼1	
		芸術学入門	1・2前		2		○								兼1	
		異文化理解の人類学	1・2前		2		○								兼1	
		小計(16科目)	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼12	－

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	社会科学基礎科目	日本国憲法	1･2前		2		○								兼1	
		法と社会	1･2後		2		○								兼1	
		政治学入門	1･2前		2		○								兼1	
		政治の世界	1･2後		2		○								兼1	
		経済と社会	1･2前		2		○								兼1	
		現代の経済	1･2後		2		○								兼1	
		地理学への招待	1･2前･後		2		○								兼1	
		社会学入門	1･2前･後		2		○								兼1	
		現代の社会学	1･2前･後		2		○								兼1	
		社会科学論	1･2前･後		2		○								兼1	
		社会思想	1･2前･後		2		○								兼1	
		教育学入門	1･2前		2		○								兼1	
		子どもと社会の教育学	1･2前･後		2		○								兼1	
		情報社会	1･2前		2		○								兼1	
		はじめての経営	1･2前		2		○								兼1	
		マーケティングベーシックス	1･2後		2		○								兼1	
		企業と会計	1･2前		2		○								兼1	
		小計(17科目)	－	0	34	0	－			0	0	0	0	0	兼15	－
	自然科学系科目	自然科学実験演習1	1･2･3･4後		2			○							兼1	
		自然科学実験演習2	1･2･3･4前		4			○							兼1	
		生物科学1a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生物科学1b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		生物科学2a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生物科学2b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		生物科学3a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		生物科学3b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		宇宙地球科学1a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		宇宙地球科学1b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		宇宙地球科学2a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		宇宙地球科学2b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		化学1a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		化学1b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		化学2a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		化学2b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		物理学1a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		物理学1b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		物理学2a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		物理学2b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		数理科学1a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		数理科学1b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		数理科学2a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		数理科学2b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		数理科学3a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		数理科学3b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学論1a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学論1b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学論2a	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		科学論2b	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(30科目)	－	0	62	0	－			0	0	0	0	0	兼11	－
	融合領域科目	学際科目1	2･3･4前		2		○								兼1	
		学際科目2	2･3･4後		2		○								兼1	
		学際科目3	2･3･4前		2		○								兼1	
		学際科目4	2･3･4後		2		○								兼1	
		学際科目5	2･3･4後		2		○								兼1	
		学際科目6	2･3･4前		2		○								兼1	
		学際科目7	2･3･4前		2		○								兼1	
		学際科目8	2･3･4前		2		○								兼1	
		学際科目9	2･3･4後		2		○								兼1	
		学際科目10	2･3･4後		2		○								兼1	

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養科目	融合領域科目	学際科目11	2･3･4後		4		○								兼1	
		学際科目12	2･3･4前		4		○			1						
		テーマ科目	2･3･4前･後		2		○								兼1	
		新領域科目1	2･3･4後		2		○								兼1	
		新領域科目2	2･3･4前		2		○								兼1	
		新領域科目3	2･3･4後		2		○								兼1	
		新領域科目4	2･3･4後		2		○								兼1	
		新領域科目5	2･3･4後		2		○								兼1	
		キャリア科目1	2･3･4前		2		○								兼1	
		キャリア科目2	2･3･4後		2		○								兼1	
		教養テーマゼミナール1	2通		4			○							兼1	
		教養テーマゼミナール2	3通		4			○							兼1	
		教養テーマゼミナール3	4通		4			○							兼1	
		教養テーマゼミナール論文	3･4通		2			○							兼1	
		小計(24科目)	－	0	58	0		－		1	0	0	0	0	兼16	－
	保健体育系科目	アドバンストスポーツ	2･3･4前･後		2				○	1					兼1	
		スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	2･3･4後		2		○			1						
		スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	2･3･4前･後		2		○								兼1	
		スポーツ論(スポーツコーチング)	2･3･4前･後		2		○								兼1	
		スポーツ論(スポーツライフデザイン論)	2･3･4前･後		2		○			1						
		スポーツ論(人類とスポーツ)	2･3･4前･後		2		○								兼1	
		スポーツ論(トレーニング科学)	2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(7科目)	－	0	14	0		－		2	0	0	0	0	兼4	－
外国語科目	英語	Basics of English (RL) 1a	1前		1			○							兼2	
		Basics of English (RL) 1b	1後		1			○							兼2	
		Intermediate English (RL) 1a	1前		1			○							兼2	
		Intermediate English (RL) 1b	1後		1			○							兼2	
		Basics of English (SW) 1a	1前		1			○							兼2	
		Basics of English (SW) 1b	1後		1			○							兼2	
		Intermediate English (SW) 1a	1前		1			○							兼2	
		Intermediate English (SW) 1b	1後		1			○							兼2	
		General English	2･3･4前･後		1			○							兼1	
		English Speaking a	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		English Speaking b	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		Computer Aided Instruction a	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		Computer Aided Instruction b	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		Computer Aided Instruction for TOEIC a	1･2･3･4前		1			○							兼1	
		Computer Aided Instruction for TOEIC b	1･2･3･4後		1			○							兼1	
		Advanced English a	2･3･4前		2			○							兼1	
		Advanced English b	2･3･4後		2			○							兼1	
		English Language and Cultures a	2･3･4前		2			○							兼1	
		English Language and Cultures b	2･3･4後		2			○							兼1	
		English Presentation a	2･3･4前		2			○							兼1	
		English Presentation b	2･3･4後		2			○							兼1	
		English Writing a	2･3･4前		2			○							兼1	
		English Writing b	2･3･4後		2			○							兼1	
		Screen English a	2･3･4前		2			○							兼1	
		Screen English b	2･3･4後		2			○							兼1	
		小計(25科目)	－	0	35	0		－		0	0	0	0	0	兼12	－
	英語以外の外国語	ドイツ語初級1a	1前		1			○							兼1	
		ドイツ語初級1b	1前･後		1			○							兼1	
		ドイツ語初級2a	1前		1			○							兼1	
		ドイツ語初級2b	1前･後		1			○							兼1	
		フランス語初級1a	1前		1			○							兼1	
		フランス語初級1b	1前･後		1			○							兼1	
		フランス語初級2a	1前		1			○							兼1	
		フランス語初級2b	1前･後		1			○							兼1	
		中国語初級1a	1前		1			○							兼1	
		中国語初級1b	1前･後		1			○							兼1	

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
外国語科目	英語以外の外国語	中国語初級2a	1前		1			○							兼1
		中国語初級2b	1前・後		1			○							兼1
		スペイン語初級1a	1前		1			○							兼1
		スペイン語初級1b	1前・後		1			○							兼1
		スペイン語初級2a	1前		1			○							兼1
		スペイン語初級2b	1前・後		1			○							兼1
		ロシア語初級1a	1前		1			○							兼1
		ロシア語初級1b	1後		1			○							兼1
		ロシア語初級2a	1前		1			○							兼1
		ロシア語初級2b	1後		1			○							兼1
		インドネシア語初級1a	1前		1			○							兼1
		インドネシア語初級1b	1後		1			○							兼1
		インドネシア語初級2a	1前		1			○							兼1
		インドネシア語初級2b	1後		1			○							兼1
		コリア語初級1a	1前		1			○							兼1
		コリア語初級1b	1前・後		1			○							兼1
		コリア語初級2a	1前		1			○							兼1
		コリア語初級2b	1前・後		1			○							兼1
		ドイツ語中級1a	2・3・4前		1			○							兼1
		ドイツ語中級1b	2・3・4後		1			○							兼1
		ドイツ語中級2a	2・3・4前		1			○							兼1
		ドイツ語中級2b	2・3・4後		1			○							兼1
		フランス語中級1a	2・3・4前		1			○							兼1
		フランス語中級1b	2・3・4後		1			○							兼1
		フランス語中級2a	2・3・4前		1			○							兼1
		フランス語中級2b	2・3・4後		1			○							兼1
		中国語中級1a	2・3・4前		1			○							兼1
		中国語中級1b	2・3・4後		1			○							兼1
		中国語中級2a	2・3・4前		1			○							兼1
		中国語中級2b	2・3・4後		1			○							兼1
		スペイン語中級1a	2・3・4前		1			○							兼1
		スペイン語中級1b	2・3・4後		1			○							兼1
		スペイン語中級2a	2・3・4前		1			○							兼1
		スペイン語中級2b	2・3・4後		1			○							兼1
		ロシア語中級1a	2・3・4前		1			○							兼1
		ロシア語中級1b	2・3・4後		1			○							兼1
		ロシア語中級2a	2・3・4前		1			○							兼1
		ロシア語中級2b	2・3・4後		1			○							兼1
		インドネシア語中級1a	2・3・4前		1			○							兼1
		インドネシア語中級1b	2・3・4後		1			○							兼1
		インドネシア語中級2a	2・3・4前		1			○							兼1
		インドネシア語中級2b	2・3・4後		1			○							兼1
		コリア語中級1a	2・3・4前		1			○							兼1
		コリア語中級1b	2・3・4後		1			○							兼1
		コリア語中級2a	2・3・4前		1			○							兼1
		コリア語中級2b	2・3・4後		1			○							兼1
		ドイツ語上級1a	3・4前		1			○							兼1
		ドイツ語上級1b	3・4後		1			○							兼1
		フランス語上級1a	3・4前		1			○							兼1
		フランス語上級1b	3・4後		1			○							兼1
		中国語上級1a	3・4前		1			○							兼1
		中国語上級1b	3・4後		1			○							兼1
		スペイン語上級1a	3・4前		1			○							兼1
		スペイン語上級1b	3・4後		1			○							兼1
		ロシア語上級1a	3・4前		1			○							兼1
		ロシア語上級1b	3・4後		1			○							兼1
		インドネシア語上級1a	3・4前		1			○							兼1
		インドネシア語上級1b	3・4後		1			○							兼1
		コリア語上級1a	3・4前		1			○							兼1

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
外国語科目	英語以外の外国語	コリア語上級1b	3･4後		1			○							兼1	
		選択ドイツ語1a	2･3･4前		1			○							兼1	
		選択ドイツ語1b	2･3･4後		1			○							兼1	
		選択フランス語1a	2･3･4前		1			○							兼1	
		選択フランス語1b	2･3･4後		1			○							兼1	
		選択中国語1a	2･3･4前		1			○							兼1	
		選択中国語1b	2･3･4後		1			○							兼1	
		選択スペイン語1a	2･3･4前		1			○							兼1	
		選択スペイン語1b	2･3･4後		1			○							兼1	
		選択コリア語1a	2･3･4前		1			○							兼1	
		選択コリア語1b	2･3･4後		1			○							兼1	
		選択アラビア語1a	2･3･4前		1			○							兼1	
		選択アラビア語1b	2･3･4後		1			○							兼1	
		選択イタリア語1a	2･3･4前		1			○							兼1	
		選択イタリア語1b	2･3･4後		1			○							兼1	
		世界の言語と文化(ドイツ語)	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		世界の言語と文化(フランス語)	1･2･3･4前･後		2		○								兼1	
		世界の言語と文化(中国語)	1･2･3･4前･後		2		○								兼1	
		世界の言語と文化(スペイン語)	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		世界の言語と文化(ロシア語)	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		世界の言語と文化(インドネシア語)	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		世界の言語と文化(コリア語)	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		言語文化研究(ヨーロッパ)1	2･3･4前		2		○								兼1	
		言語文化研究(ヨーロッパ)2	2･3･4後		2		○								兼1	
		言語文化研究(アジア)1	2･3･4前･後		2		○								兼1	
		言語文化研究(アジア)2	2･3･4後		2		○								兼1	
		言語文化研究(アメリカ)	2･3･4前･後		2		○								兼1	
		小計(96科目)	―	0	108	0	―			0	0	0	0	0	兼33	―
	海外語学研修	海外語学短期研修1(英語)	1･2･3前		2			○							兼1	
		海外語学短期研修2(英語)	1･2･3後		2			○							兼1	
		海外語学短期研修1(ドイツ語)	1･2･3前		2			○							兼1	
		海外語学短期研修2(ドイツ語)	1･2･3後		2			○							兼1	
		海外語学短期研修1(フランス語)	1･2･3前		2			○							兼1	
		海外語学短期研修2(フランス語)	1･2･3後		2			○							兼1	
		海外語学短期研修1(中国語)	1･2･3前		2			○							兼1	
		海外語学短期研修2(中国語)	1･2･3後		2			○							兼1	
		海外語学短期研修1(スペイン語)	1･2･3前		2			○							兼1	
		海外語学短期研修2(スペイン語)	1･2･3後		2			○							兼1	
		海外語学短期研修1(コリア語)	1･2･3前		2			○							兼1	
		海外語学短期研修2(コリア語)	1･2･3後		2			○							兼1	
		海外語学中期研修1(英語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修2(英語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修3(英語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修4(英語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修5(英語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修6(英語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修7(英語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修8(英語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修1(ドイツ語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修2(ドイツ語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修3(ドイツ語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修4(ドイツ語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修5(ドイツ語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修6(ドイツ語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修7(ドイツ語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修8(ドイツ語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修1(フランス語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修2(フランス語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修3(フランス語)	2･3･4通		2			○							兼1	

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
外国語科目	海外語学研修	海外語学中期研修4(フランス語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修5(フランス語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修6(フランス語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修7(フランス語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修8(フランス語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修1(中国語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修2(中国語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修3(中国語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修4(中国語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修5(中国語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修6(中国語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修7(中国語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修8(中国語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修1(スペイン語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修2(スペイン語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修3(スペイン語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修4(スペイン語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修5(スペイン語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修6(スペイン語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修7(スペイン語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修8(スペイン語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修1(コリア語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修2(コリア語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修3(コリア語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修4(コリア語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修5(コリア語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修6(コリア語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修7(コリア語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修8(コリア語)	2･3･4通		2			○							兼1	
		小計(60科目)	－	0	120	0	－			0	0	0	0	0	兼7	－
合計(388科目)			－	30	661	0	－			10	2	0	0	0	兼118	－

学位又は称号	学士(ジャーナリズム学)	学位又は学科の分野	文学関係、社会学･社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
専門必修科目24単位、専門選択科目58単位、転換･導入科目6単位、教養科目6単位、外国語科目8単位以上を修得し、計124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限:48単位(年間)）	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部人文・ジャーナリズム学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	東西文化論	1･2･3･4前		2		○			1					
	海が結ぶ世界	2･3･4後		2		○			1					
	生涯学習論	1･2･3･4前		2		○			1					
	マス･コミュニケーション概論	1･2･3･4前		2		○			1					
	ジャーナリズム論	1･2･3･4後		2		○			1					
	日本の中の世界	1･2･3･4後		2		○			1					
	多文化社会と共生	1･2･3･4後		2		○								兼1
	文化の衝突と融合1	1･2･3･4後		2		○								兼1
	文化の衝突と融合2	1･2･3･4後		2		○				1				
	中国の文化と歴史	2･3･4前		2		○			1					
	コリアの文化と歴史	2･3･4前		2		○				1				
	ヨーロッパの文化と歴史	2･3･4前		2		○			1					
	中南米の文化と歴史	2･3･4後		2		○			1					
	世界から見た日本1	2･3･4前		2		○								兼1
	世界から見た日本2	2･3･4後		2		○								兼1
	「交易の文化・文化の交易」論1	2･3･4前		2		○				1				
	「交易の文化・文化の交易」論2	2･3･4後		2		○				1				
	中国文化論	2･3･4前		2		○			1					
	アジア文化論1	2･3･4後		2		○			1					
	コリア文化論	2･3･4後		2		○				1				
	アジア文化論2	2･3･4前		2		○				1				
	西欧文化論1	2･3･4前		2		○								兼1
	西欧文化論2	2･3･4後		2		○								兼1
	中・東欧文化論1	2･3･4前		2		○			1					
	中・東欧文化論2	2･3･4後		2		○			1					
	ラテンアメリカ文化論1	2･3･4前		2		○			1					
	ラテンアメリカ文化論2	2･3･4後		2		○			1					
	イスラムの歴史1	2･3･4前		2		○								兼1
	イスラムの歴史2	2･3･4後		2		○								兼1
	生涯教育・学習思想	1･2･3･4後		2		○			1					
	学習ファシリテーション論	1･2･3･4後		2		○			1					
	ジェンダー教育論	1･2･3･4後		2		○			1					
	生涯スポーツ学	1･2･3･4後		2		○				1				
	生涯学習調査実習1	2･3･4前		2				○						兼1
	生涯学習調査実習2	2･3･4後		2				○						兼1
	生涯スポーツ演習1	2･3･4前		2				○	1					
	生涯スポーツ演習2	2･3･4後		2				○		1				
	スポーツの心理学	2･3･4前		2		○			1					
	生涯学習心理学	2･3･4後		2		○								兼1
	生涯学習政策論	2･3･4前		2		○			1					
	生涯学習施設論	2･3･4前		2		○			1					
	ワークショップ演習ベーシック	2･3･4前		2				○	1					
	ワークショップ演習アドバンス	2･3･4後		2				○	1					
	スポーツ政策	2･3･4後		2		○								兼1
	ライフサイクル論	2･3･4前		2		○								兼1
	スポーツサイエンス論	2･3･4前		2		○				1				
	スポーツの社会学	2･3･4前		2		○								兼1
	スポーツビジネス	2･3･4前		2		○								兼1
	教育史1	2･3･4前		2		○								兼1
	教育史2	2･3･4後		2		○								兼1
	スポーツメンタルトレーニング演習	2･3･4後		2		○			1					
	スポーツ情報戦略論	2･3･4前		2		○								兼1
	スポーツライフマネジメント論	2･3･4前		2		○								兼1
	子ども・若者支援演習	2･3･4前		2		○			1					
	人権学習論	2･3･4後		2		○								兼1
	世代育成のポリティクス	2･3･4後		2		○			1					
	教育・学習支援NPO論	2･3･4後		2		○								兼1
	国際ジャーナリズム論	1･2･3･4後		2		○			1					
	政治ジャーナリズム論	1･2･3･4後		2		○			1					
	スポーツジャーナリズム論	1･2･3･4後		2		○			1					
	放送学1	2･3･4前		2		○			1					
	放送学2	2･3･4後		2		○			1					
	新聞学1	2･3･4前		2		○			1					
	新聞学2	2･3･4後		2		○			1					
	出版学1	2･3･4前		2		○			1					
	出版学2	2･3･4後		2		○			1					
	広告学1	2･3･4前		2		○								兼1
	広告学2	2･3･4後		2		○								兼1
	言論法1	2･3･4前		2		○			1					
	言論法2	2･3･4後		2		○			1					

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部人文・ジャーナリズム学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目	言葉とメディア	2・3・4前		2		○			1						
	教育とメディア	2・3・4後		2		○			1						
	技術とメディア	2・3・4後		2		○			1						
	市民とメディア	2・3・4前		2		○			1						
	科学とメディア	2・3・4前		2		○			1						
	娯楽とメディア	2・3・4後		2		○								兼1	
	ジャーナリズム研究1	2・3・4前		2		○			1						
	ジャーナリズム研究2	2・3・4後		2		○			1						
	報道写真論	2・3・4前		2		○			1						
	戦争ジャーナリズム論	2・3・4後		2		○			1						
	沖縄ジャーナリズム論	2・3・4前		2				○	1						
	メディアビジネス論	2・3・4前		2		○			1						
	メディア批評特講	3・4前		2		○			1						
	インターンシップ	3・4前		2				○	1						
	アーカイブ論1	1・2・3・4前		2		○			1						
	アーカイブ論2	1・2・3・4後		2		○			1						
	図書館概論	1・2・3・4前		2		○			1						
	博物館概論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	情報メディア発達史	2・3・4前		2		○			1						
	学習情報資源論	2・3・4後		2		○			1						
	博物館資料調査法	2・3・4前		2				○		1					
	情報アクセシビリティ論	2・3・4後		2		○								兼1	
	アーカイブ特講	3・4後		2		○								兼1	
	中国語文化演習1	3・4前		2				○						兼1	
	中国語文化演習2	3・4後		2				○						兼1	
	コリア語文化演習1	3・4前		2				○						兼1	
	コリア語文化演習2	3・4後		2				○						兼1	
	フランス語文化演習1	3・4前		2				○						兼1	
	フランス語文化演習2	3・4後		2				○						兼1	
	ドイツ語文化演習1	3・4前		2				○						兼1	
	ドイツ語文化演習2	3・4後		2				○						兼1	
	スペイン語文化演習1	3・4前		2				○						兼1	
	スペイン語文化演習2	3・4後		2				○						兼1	
	中期留学プログラム1	2・3・4通		2				○	1						
	中期留学プログラム2	2・3・4通		2				○	1						
	中期留学プログラム3	2・3・4通		2				○	1						
	中期留学プログラム4	2・3・4通		2				○	1						
	中期留学プログラム5	2・3・4通		2				○	1						
	中期留学プログラム6	2・3・4通		2				○	1						
	中期留学プログラム7	2・3・4通		2				○	1						
	中期留学プログラム8	2・3・4通		2				○	1						
	社会学原論1	1前		2		○								兼2	
	社会学原論2	1後		2		○								兼2	
	現代社会論1	2・3・4前		2		○								兼1	
	現代社会論2	2・3・4後		2		○								兼1	
	現代文化論1	2・3・4前		2		○								兼1	
	現代文化論2	2・3・4後		2		○								兼1	
	家族の社会学1	2・3・4前		2		○								兼1	
	家族の社会学2	2・3・4後		2		○								兼1	
	経済学概論1	2・3前		2		○								兼3	
	経済学概論2	2・3後		2		○								兼3	
	憲法1	2・3前		2		○								兼1	
	憲法2	2・3後		2		○								兼1	
	民法1	2・3前		2		○								兼1	
	民法2	2・3後		2		○								兼1	
	ゼミナール1	2前	2				○		13	3				兼2	
	ゼミナール2	2後	2				○		13	3				兼2	
	ゼミナール3	3前	2				○		13	3				兼2	
	ゼミナール4	3後	2				○		13	3				兼2	
	ゼミナール5	4前	2				○		13	3				兼2	
	ゼミナール6	4後	2				○		13	3				兼2	
	卒業論文	4通	8				○		13	3				兼2	
	小計（ 132 科目）	―	20	250	0	―			13	3	0	0	0	兼41	―

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部人文・ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール	1前	2				○		1	1					
		小計（　1　科目）	—	2	0	0	—			1	1	0	0	0	兼	—
専修大学基礎科目	基礎統計学	データ分析入門	1前・後		2		○								兼1	
		小計（　1　科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
	キャリア教育関連科目	キャリア入門	1前・後		2			○							兼1	
		小計（　1　科目）	—	0	2	0	-			0	0	0	0	0	兼1	—
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ	1前・後		2				○						兼1	
		情報入門Ⅱ	1前・後		2				○						兼1	
		小計（　2　科目）	-	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
	基礎自然科学	あなたと自然科学	1前・後		2		○								兼1	
		小計（　1　科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
	外国語基礎科目	Basics of English (RL) 1a	1前		1			○							兼2	
		Basics of English (RL) 1b	1後		1			○							兼2	
		Intermediate English (RL) 1a	1前		1			○							兼2	
		Intermediate English (RL) 1b	1後		1			○							兼2	
		Basics of English (SW) 1a	1前		1			○							兼2	
		Basics of English (SW) 1b	1後		1			○							兼2	
		Intermediate English (SW) 1a	1前		1			○							兼2	
		Intermediate English (SW) 1b	1後		1			○							兼2	
		General English 1	2・3・4前・後		1			○							兼1	
		ドイツ語初級101a	1前		1			○							兼1	
		ドイツ語初級101b	1前・後		1			○							兼1	
		ドイツ語初級102a	1前		1			○							兼1	
		ドイツ語初級102b	1前・後		1			○							兼1	
		フランス語初級101a	1前		1			○							兼1	
		フランス語初級101b	1前・後		1			○							兼1	
		フランス語初級102a	1前		1			○							兼1	
		フランス語初級102b	1前・後		1			○							兼1	
		中国語初級101a	1前		1			○							兼1	
		中国語初級101b	1前・後		1			○							兼1	
		中国語初級102a	1前		1			○		1						
		中国語初級102b	1前・後		1			○		1						
		スペイン語初級101a	1前		1			○							兼1	
		スペイン語初級101b	1前・後		1			○							兼1	
		スペイン語初級102a	1前		1			○		1						
		スペイン語初級102b	1前・後		1			○		1						
		ロシア語初級101a	1前		1			○		1						
		ロシア語初級101b	1後		1			○		1						
		ロシア語初級102a	1前		1			○							兼1	
		ロシア語初級102b	1後		1			○							兼1	

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部人文・ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専修大学基礎科目	外国語基礎科目	インドネシア語初級101a	1前		1			○							兼1	
		インドネシア語初級101b	1後		1			○							兼1	
		インドネシア語初級102a	1前		1			○							兼1	
		インドネシア語初級102b	1後		1			○							兼1	
		コリア語初級101a	1前		1			○							兼1	
		コリア語初級101b	1前・後		1			○							兼1	
		コリア語初級102a	1前		1			○							兼1	
		コリア語初級102b	1前・後		1			○							兼1	
		小計（　37　科目）	—	0	37	0		—		3	0	0	0	0	兼16	—
	スポーツリテラシー	スポーツリテラシー	1前・後	1					○	1	1					
		小計（　1　科目）	—	1	0	0		—		1	1	0	0	0	兼	—
教養科目	人文科学基礎関連科目	作品を創る1	1・2前		2		○								兼1	
		作品を創る2	1・2後		2		○								兼1	
		日本の文学	1・2前・後		2		○								兼1	
		世界の文学を読む	1・2前		2		○								兼1	
		越境する文学	1・2後		2		○								兼1	
		英語圏文学への招待	1・2前		2		○								兼1	
		歴史の視点	1・2前		2		○								兼1	
		歴史と地域・民衆	1・2後		2		○								兼1	
		歴史と社会・文化	1・2前・後		2		○								兼1	
		基礎心理学入門	1・2前・後		2		○								兼1	
		応用心理学入門	1・2前・後		2		○								兼1	
		哲学入門	1・2前・後		2		○								兼1	
		哲学の歴史	1・2後		2		○								兼1	
		日本思想入門	1・2前		2		○								兼1	
		倫理とは何か	1・2前・後		2		○								兼1	
		倫理学のあゆみ	1・2前・後		2		○								兼1	
		論理学入門	1・2前・後		2		○								兼1	
		ことばと論理	1・2前・後		2		○								兼1	
		芸術学入門1	1・2前		2		○								兼1	
		芸術の歴史1	1・2前		2		○								兼1	
		芸術学入門2	1・2後		2		○								兼1	
		芸術の歴史2	1・2後		2		○								兼1	
		芸術学を学ぶ	1・2後		2		○								兼1	
		異文化理解の人類学	1・2前		2		○				1					
		異文化の現場から	1・2後		2		○								兼1	
		人類の暮らしと自然	1・2前		2		○								兼1	
		現代社会と人類学	1・2後		2		○				1					
		小計（　27　科目）	—	0	54	0		—		0	1	0	0	0	兼15	—
	社会科学基礎関連科目	日本国憲法	1・2前		2		○								兼1	
		法と社会	1・2後		2		○								兼1	
		政治学入門	1・2前		2		○								兼1	
		経済と社会	1・2前		2		○								兼1	
		地理学への招待	1・2前・後		2		○								兼1	
		自然環境の地理学	1・2前・後		2		○								兼1	
		人文・社会環境の地理学	1・2前・後		2		○								兼1	
		社会学入門	1・2前・後		2		○								兼1	
		現代の社会学	1・2前・後		2		○								兼1	
		社会科学の方法	1・2前・後		2		○								兼1	
		社会思想の歴史	1・2前		2		○								兼1	
		社会思想と現代	1・2前・後		2		○								兼1	
		学びの場の教育学	1・2後		2		○								兼1	
		教育と社会のダイナミズム	1・2前・後		2		○			1						
		情報社会と人間（環境と認知）	1・2前		2		○								兼1	
		情報社会と人間（情報デザイン）	1・2後		2		○								兼1	
		はじめての経営	1・2前		2		○								兼1	
		マーケティングベーシックス	1・2後		2		○								兼1	
		小計（　18　科目）	—	0	36	0		—		1	0	0	0	0	兼15	—
	自然科学系科目	基礎自然科学実験	1・2・3・4後		1				○						兼2	
		基礎自然科学実験	1・2・3・4前		2				○						兼2	
		生物科学101	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		生物科学102	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		生物科学201	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		生物科学202	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		生物科学301	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		生物科学302	1・2・3・4後		2		○								兼1	

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部人文・ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養科目	自然科学系科目	宇宙地球科学101	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		宇宙地球科学102	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		宇宙地球科学201	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		宇宙地球科学202	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		化学101	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		化学102	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		化学201	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		化学202	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		化学301	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		化学302	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		物理学101	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		物理学102	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		物理学201	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		物理学202	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		物理学301	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		物理学302	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		数理科学101	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		数理科学102	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		数理科学201	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		数理科学202	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		数理科学301	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		数理科学302	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		科学論・科学史101	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		科学論・科学史102	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		科学論・科学史201	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		科学論・科学史202	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		小計（　34　科目）	―	0	67	0	―			0	0	0	0	0	兼12	―
	融合領域科目	教養テーマゼミナールⅠ	2通		4			○							兼1	
		教養テーマゼミナールⅡ	3通		4			○							兼1	
		教養テーマゼミナールⅢ	4通		4			○							兼1	
		教養テーマゼミナール論文	3・4通		2			○							兼1	
		学際科目101	2・3・4前		2		○								兼1	
		学際科目102	2・3・4後		2		○								兼1	
		学際科目103	2・3・4前		2		○								兼1	
		学際科目104	2・3・4後		2		○								兼1	
		学際科目105	2・3・4後		2		○								兼1	
		学際科目106	2・3・4前		2		○			1						
		学際科目107	2・3・4前		2		○								兼1	
		学際科目108	2・3・4前		2		○								兼1	
		学際科目109	2・3・4後		2		○								兼1	
		学際科目110	2・3・4後		2		○								兼1	
		学際科目111	2・3・4後		4		○								兼1	
		学際科目112	2・3・4前		4		○								兼1	
		学際科目113	2・3・4後		4		○								兼1	
		学際科目114	2・3・4前		4		○								兼1	
		学際科目115	2・3・4前		4		○								兼1	
		テーマ科目201	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		テーマ科目202	2・3・4前		2		○								兼1	
		テーマ科目203	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		テーマ科目204	2・3・4前		2		○								兼1	
		テーマ科目205	2・3・4前		2		○								兼1	
		テーマ科目206	2・3・4前		2		○								兼1	
		テーマ科目207	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		テーマ科目208	2・3・4前		2		○								兼1	
		新領域科目301	2・3・4後		2		○								兼1	
		新領域科目302	2・3・4前		2		○								兼1	
		新領域科目303	2・3・4後		2		○								兼1	
		新領域科目304	2・3・4後		2		○								兼1	
		新領域科目305	2・3・4後		2		○								兼1	
		小計（　32　科目）	―	0	80	0	―			1	0	0	0	0	兼18	―
	外国語系科目	Advanced English a	2・3・4前		2			○							兼1	
		Advanced English b	2・3・4後		2			○							兼1	
		English Language and Cultures a	2・3・4前		2			○							兼1	
		English Language and Cultures b	2・3・4後		2			○							兼1	
		English Presentation a	2・3・4前		2			○							兼1	
		English Presentation b	2・3・4後		2			○							兼1	
		English Speaking a	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		English Speaking b	1・2・3・4後		1			○							兼1	
		Computer Aided Instruction a	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		Computer Aided Instruction b	1・2・3・4後		1			○							兼1	
		Computer Aided Instruction for TOEIC a	1・2・3・4前		1			○							兼1	
		Computer Aided Instruction for TOEIC b	1・2・3・4後		1			○							兼1	

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部人文・ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	外国語系科目	English Writing a	2・3・4前		2			○							兼1
		English Writing b	2・3・4後		2			○							兼1
		Screen English a	2・3・4前		2			○							兼1
		Screen English b	2・3・4後		2			○							兼1
		海外語学短期研修1（英語）	1・2・3前		2			○							兼1
		海外語学短期研修2（英語）	1・2・3後		2			○							兼1
		海外語学中期研修1（英語）	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修2（英語）	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修3（英語）	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修4（英語）	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修5（英語）	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修6（英語）	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修7（英語）	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修8（英語）	2・3・4通		2			○							兼1
		ドイツ語中級201a	2・3・4前		1			○							兼1
		ドイツ語中級201b	2・3・4後		1			○							兼1
		ドイツ語中級202a	2・3・4前		1			○							兼1
		ドイツ語中級202b	2・3・4後		1			○							兼1
		ドイツ語中級プラス201a	2・3・4前		2			○							兼1
		ドイツ語中級プラス201b	2・3・4後		2			○							兼1
		ドイツ語中級プラス202a	2・3・4前		2			○							兼1
		ドイツ語中級プラス202b	2・3・4後		2			○							兼1
		ドイツ語上級301a	3・4前		2			○							兼1
		ドイツ語上級301b	3・4後		2			○							兼1
		フランス語中級201a	2・3・4前		1			○							兼1
		フランス語中級201b	2・3・4後		1			○							兼1
		フランス語中級202a	2・3・4前		1			○							兼1
		フランス語中級202b	2・3・4後		1			○							兼1
		フランス語中級プラス201a	2・3・4前		2			○							兼1
		フランス語中級プラス201b	2・3・4後		2			○							兼1
		フランス語中級プラス202a	2・3・4前		2			○							兼1
		フランス語中級プラス202b	2・3・4後		2			○							兼1
		フランス語上級301a	3・4前		2			○							兼1
		フランス語上級301b	3・4後		2			○							兼1
		中国語中級201a	2・3・4前		1			○							兼1
		中国語中級201b	2・3・4後		1			○							兼1
		中国語中級202a	2・3・4前		1			○							兼1
		中国語中級202b	2・3・4後		1			○							兼1
		中国語中級プラス201a	2・3・4前		2			○							兼1
		中国語中級プラス201b	2・3・4後		2			○							兼1
		中国語中級プラス202a	2・3・4前		2			○							兼1
		中国語中級プラス202b	2・3・4後		2			○							兼1
		中国語上級301a	3・4前		2			○							兼1
		中国語上級301b	3・4後		2			○							兼1
		スペイン語中級201a	2・3・4前		1			○							兼1
		スペイン語中級201b	2・3・4後		1			○							兼1
		スペイン語中級202a	2・3・4前		1			○							兼1
		スペイン語中級202b	2・3・4後		1			○							兼1
		スペイン語中級プラス201a	2・3・4前		2			○							兼1
		スペイン語中級プラス201b	2・3・4後		2			○							兼1
		スペイン語中級プラス202a	2・3・4前		2			○							兼1
		スペイン語中級プラス202b	2・3・4後		2			○							兼1
		スペイン語上級301a	3・4前		2			○							兼1
		スペイン語上級301b	3・4後		2			○							兼1
		ロシア語中級201a	2・3・4前		1			○							兼1
		ロシア語中級201b	2・3・4後		1			○							兼1
		ロシア語中級202a	2・3・4前		1			○							兼1
		ロシア語中級202b	2・3・4後		1			○							兼1
		ロシア語上級301a	3・4前		2			○		1					
		ロシア語上級301b	3・4後		2			○		1					
		インドネシア語中級201a	2・3・4前		1			○							兼1
		インドネシア語中級201b	2・3・4後		1			○							兼1
		インドネシア語中級202a	2・3・4前		1			○							兼1
		インドネシア語中級202b	2・3・4後		1			○							兼1
		インドネシア語上級301a	3・4前		2			○							兼1
		インドネシア語上級301b	3・4後		2			○							兼1
		コリア語中級201a	2・3・4前		1			○							兼1
		コリア語中級201b	2・3・4後		1			○							兼1
		コリア語中級202a	2・3・4前		1			○							兼1
		コリア語中級202b	2・3・4後		1			○							兼1

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部人文・ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
教養科目	外国語系科目	コリア語中級プラス201a	2・3・4前		2			○							兼1
		コリア語中級プラス201b	2・3・4後		2			○							兼1
		コリア語中級プラス202a	2・3・4前		2			○							兼1
		コリア語中級プラス202b	2・3・4後		2			○							兼1
		コリア語上級301a	3・4前		2			○							兼1
		コリア語上級301b	3・4後		2			○							兼1
		選択ドイツ語101a	2・3・4前		1			○							兼1
		選択ドイツ語101b	2・3・4後		1			○							兼1
		選択フランス語101a	2・3・4前		1			○							兼1
		選択フランス語101b	2・3・4後		1			○							兼1
		選択中国語101a	2・3・4前		1			○							兼1
		選択中国語101b	2・3・4後		1			○							兼1
		選択スペイン語101a	2・3・4前		1			○							兼1
		選択スペイン語101b	2・3・4後		1			○							兼1
		選択コリア語101a	2・3・4前		1			○							兼1
		選択コリア語101b	2・3・4後		1			○							兼1
		選択アラビア語101a	2・3・4前		1			○							兼1
		選択アラビア語101b	2・3・4後		1			○							兼1
		選択イタリア語101a	2・3・4前		1			○							兼1
		選択イタリア語101b	2・3・4後		1			○							兼1
		世界の言語と文化(ドイツ語)	1・2・3・4後		2		○								兼1
		世界の言語と文化(フランス語)	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		世界の言語と文化(中国語)	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		世界の言語と文化(スペイン語)	1・2・3・4後		2		○								兼1
		世界の言語と文化(ロシア語)	1・2・3・4後		2		○								兼1
		世界の言語と文化(インドネシア語)	1・2・3・4後		2		○								兼1
		世界の言語と文化(コリア語)	1・2・3・4前		2		○								兼1
		言語文化研究(ヨーロッパ)1	2・3・4前		2		○								兼1
		言語文化研究(ヨーロッパ)2	2・3・4後		2		○								兼1
		言語文化研究(アジア)1	2・3・4前・後		2		○								兼1
		言語文化研究(アジア)2	2・3・4後		2		○								兼1
		言語文化研究(アメリカ)	2・3・4前・後		2		○			1					
		海外語学短期研修1(ドイツ語)	1・2・3通		2			○							兼1
		海外語学短期研修2(フランス語)	1・2・3通		2			○							兼1
		海外語学短期研修2(中国語)	1・2・3通		2			○							兼1
		海外語学短期研修2(スペイン語)	1・2・3通		2			○		1					
		海外語学短期研修2(コリア語)	1・2・3通		2			○							兼1
		海外語学中期研修1(ドイツ語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修2(ドイツ語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修3(ドイツ語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修4(ドイツ語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修5(ドイツ語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修6(ドイツ語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修7(ドイツ語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修8(ドイツ語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修1(フランス語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修2(フランス語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修3(フランス語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修4(フランス語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修5(フランス語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修6(フランス語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修7(フランス語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修8(フランス語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修1(中国語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修2(中国語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修3(中国語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修4(中国語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修5(中国語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修6(中国語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修7(中国語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修8(中国語)	2・3・4通		2			○							兼1
		海外語学中期研修1(スペイン語)	2・3・4通		2			○		1					
		海外語学中期研修2(スペイン語)	2・3・4通		2			○		1					
		海外語学中期研修3(スペイン語)	2・3・4通		2			○		1					
		海外語学中期研修4(スペイン語)	2・3・4通		2			○		1					
		海外語学中期研修5(スペイン語)	2・3・4通		2			○		1					
		海外語学中期研修6(スペイン語)	2・3・4通		2			○		1					
		海外語学中期研修7(スペイン語)	2・3・4通		2			○		1					
		海外語学中期研修8(スペイン語)	2・3・4通		2			○		1					

教　育　課　程　等　の　概　要

（文学部人文・ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養科目	外国語系科目	海外語学中期研修1（コリア語）	2・3・4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修2（コリア語）	2・3・4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修3（コリア語）	2・3・4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修4（コリア語）	2・3・4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修5（コリア語）	2・3・4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修6（コリア語）	2・3・4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修7（コリア語）	2・3・4通		2			○							兼1	
		海外語学中期研修8（コリア語）	2・3・4通		2			○							兼1	
		小計（　159　科目）	―	0	270	0	―			2	0	0	0	0	兼42	―
	保健体育系科目	健康と生涯スポーツ	2・3・4後		2		○								兼1	
		スポーツと発育発達	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		オリンピックとスポーツ	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		トレーニング科学	2・3・4後		2		○								兼1	
		スポーツコーチング	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		人類とスポーツ	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		スポーツウェルネス	1前・後	1					○	1	1					
		アドバンストスポーツ	2・3・4前・後		2				○						兼2	
		小計（　8　科目）	―	1	14	0	―			1	1	0	0	0	兼6	―
合計（　454　科目）			―	24	818	0	―			13	3	0	0	0	兼151	―

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係、社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
専門必修科目20単位、専門選択科目52単位、転換・導入教育課程11単位、教養教育課程9単位以上を修得し、計124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）））	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	ジャーナリズム論	デジタル・ネットワーク化の進展によってメディアが多様化し、同時に取材や報道といったジャーナリズムのありようも大きく変化してきている。本学科の専門教育の基礎科目と位置づける本科目では、こうした全体状況をできるだけ具体的に紹介していく。そのうえで、ジャーナリズムの観点から国内外に流れる情報の中身を分析・整理するとともに、取材・報道の実態を概説する。	
		情報表現実習（基礎）	メディアを通した表現活動を始めるにあたって、演習を通じて、必要なツールの利用方法を理解するとともに、メッセージを効果的に伝えるための表現手法についても習得する。ワードプロセッシングソフトによる簡単なDTP、プレゼンテーションのスライドの作成、簡単な画像処理と合成、イラストレーションや図表の制作、簡易なWeb制作などコンテンツ制作の基本を学ぶ。最終的には、著作権と情報倫理を理解した上で、各自のウェブサイト制作と公開を到達点とした各種スキルを習得する。	
		情報表現実習（応用）	表現実習の応用編として、写真・動画の撮影、編集、音声の録音、編集、映像合成、DTP技術によるパンフレットの制作、基礎的なCG処理、アニメーション、Web制作について学ぶ。基本的にCreative Cloudに含まれるソフトの操作を通して、具体的なテーマを持った制作実習を行なう。各課題は、映像、印刷物、Webなどの成果物となる。	
		言論法	ジャーナリズム活動を支え、メディアを取り巻く法制度についての概論である。言論法では、表現の自由の歴史に始まり、民主主義社会における表現の自由の意義を概説する。そのうえで、表現の自由が制約を受ける場面として、国家的利益、社会的利益、個人的利益の3つの大別し、それぞれにおける法・社会的規制の枠組みを学習する。講義の特色としては、理論とともに実態を意識しつつ、報道や制作の現場で実際に「使える」制度論を学習する。	
		メディア・コミュニケーション史	コミュニケーション理論の展開と、印刷及び電気情報通信技術の発展を踏まえ、メディア、とりわけ出版、新聞、ラジオ、テレビなどのマスメディアがどのように成立し、発展してきたのか、歴史的経緯の中で振り返っていく。そして、マスメディアが担う文化的社会的役割や、重要な機能であるジャーナリズム活動を捉え直す。	
		ジャーナリズムの思想史	本学科で学ぶ者すべてにとって身につけるべき、基礎的知識を伝える専門基礎科目である。ジャーナリズムの実践的活動を歴史的に振り返り、ジャーナリストたちがいかなる思想の持ち主で、どのような言論活動を展開したのか、社会的政治的背景とあわせて学ぶ。なかでも明治以降、日本の論壇や新聞を舞台に活動した言論人や、戦前・戦時中の言論統制と、その下で戦った言論人の活動を取り上げて、ジャーナリズムが果たしてきた役割について理解し、民主主義社会において果たすべき機能について再確認する。	
		現代社会とジャーナリズム	本学科で学ぶ者すべてにとって身につけるべき、基礎的知識を伝える専門教育の基礎科目である。デジタル・ネットワーク化の進展によってメディアが多様化し、同時に取材や報道といったジャーナリズムのありようも大きく変化してきている。本科目では、新聞・出版・放送・通信・広告等の媒体・産業別に、メディアの特性と産業構造を概説するなど、こうした全体状況をできるだけ具体的に紹介していく。	
		ウエブジャーナリズム論	新聞、放送、出版のメディアに新たにインターネット・メディアが加わり、ジャーナリズムの世界にもデジタル革命が起きた。本学科の専門教育の基礎科目と位置づける本科目では、従来のジャーナリズム組織のデジタル対応や、新しいプレイヤーによる挑戦の事例を取り上げ、変容しつつあるジャーナリズムの姿を整理・分析する。情報の発信や更新が随時可能であり、報道の分量、「尺」についても自由度が高いウエブを発信のプラットフォームとし、更にソーシャルメディアによる双方向性をも手に入れて、従来の歴史的・物理的制約の中で定められていたジャーナリズムの各種規範についても見直しが要請される。これからのジャーナリズムはどうあるべきか、その未来の発信者、受信者となる学生たちの当事者意識を引き出しつつ共に考えてゆく。	
		新聞学	最も伝統的なメディアである「新聞」を理解するための専門科目である。具体的には大きく、ジャーナリズムとしての新聞と、メディアとしての新聞社の両側面から新聞を解説する。それらを、日本の場合でいえば140年の歴史という縦軸と、発行規模や報道内容等の差異といった横軸、取材・報道といった編集面と、企業活動としての経営面から読み解く。本科目では、専門基礎科目である点を考慮し、具体的な事例を挙げながらの分かりやすい講義スタイルを採用する。	
		放送学	最も社会的影響力のあるメディアである「放送」を理解するための専門科目である。具体的には大きく、ジャーナリズムとしての放送（テレビ・ラジオ）と、メディアとしての放送局の両側面から放送を解説する。とりわけ、公共放送と民間放送の2元体制などの制度的特徴と、報道と娯楽・教養・情報等の多様な放送内容の実情と課題を浮き彫りにする。本科目では、専門基礎科目である点を考慮し、具体的な事例を挙げながらの分かりやすい講義スタイルを採用する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	出版学	最も古いメディアである「出版」を理解するための専門科目である。具体的には大きく、ジャーナリズムとしての出版と、メディアとしての出版社の両側面から出版を解説する。とりわけ、国際的な視点から日本の特殊な出版状況の問題点を考察することで、日本の出版状況の概要とおかれている立場を読み解く。本科目では、専門基礎科目である点を考慮し、具体的な事例を挙げながらの分かりやすい講義スタイルを採用する。	
		パブリックメディア論	デジタル技術とネットワークの進展により、これまでにマスメディア中心に担われてきたコミュニケーションの公共性は、地域、市民社会、政府、産業、国際機関、非営利組織など多くのアクターによる広範なメディアコミュニケーションに代補されつつある。本科目では、市民メディア、パブリックアクセス、ソーシャルメディア、地域メディア、ミニコミ、企業広報（PR）、政府広報、情報公開、災害情報など、メディアとパブリック（公共）を巡る動向を追いながら、現代社会の情報の「公共性」について講義で明らかにしていく。	
		テキストメディア論	短文のストレートニュースや短詩文、中程度の長さの評論文やエッセー、長編のルポルタージュや小説などを例に各種文字テキストの特徴を分析。更にそれらを主なコンテンツとして伝達する各種メディアの特徴やメディア産業の実態も視野に入れ、テキストメディアにおける表現の可能性と限界について議論する。自らテキストコンテンツの発信者になるための技術を修め、テキストメディアをプロデュースしたり、テキストコンテンツを流通させたりする作業の必要性について理解し、学科上級科目で実践的に学んでゆく基礎固めをする。	
		アーカイブ概論	紙の書籍や新聞、各種の文書などの有体物として生み出されてきた情報や記録は、これまでも図書館、博物館、公文書館などにアーカイブされ、必要とする人々の利用に供されてきた。加えて、近年のデジタル化の進展やインターネットの急速な普及は、無体物の情報や記録を膨大に生み出しており、これらのアーカイブの必要性も高まっている。そもそも、なぜ、情報や記録をアーカイブするのだろうか。アーカイブの制度やマネジメントの現状はどうなっているのだろうか。この科目では、こうしたアーカイブに関する基礎的事項を取り上げ、学んでいく。	
		ジャーナリズムとアーカイブ	アーカイブは、今日の情報知識基盤を構築し、多方面での活用が期待されている。そして誰でもが真実追究のためにアーカイブを利活用できることは、民主主義のための前提条件でもある。一方で、「偽ニュース」が氾濫し、真実よりも共感が優先させる「ポスト・トゥルース」が問題視されている中で、真実を伝え、公益に奉仕するジャーナリズムは今まで以上に重要な役割を担っている。この科目では、個人の表現活動やマスコミ活動を支えるアーカイブのあり方について、主にジャーナリズムとの関係で学んでいく。	
		アーカイブ発達史	人類の知的生産活動によって生み出されてきた文化情報資源は、必要に応じて、図書館、博物館、公文書館などの公的組織や個人によって保存・蓄積・提供されてきた。さらに近年のデジタル技術とネットワークの発展を受けて、無体物としての文化情報資源が劇的な速度と量をもって増え続けている。この科目では、アーカイブを歴史的な時間軸に沿って振り返り、社会背景の中で果たしてきた文化的役割を見直すことで、これからのアーカイブのあり方についても考察する。	
	基幹科目	市民とメディア	メディア媒体・ジャーナリズム活動を学ぶための専門教育の基幹科目である。ジャーナリズムは常に受け手である「市民」との関係で存在する。しかも現在は、インターネットの登場もあって技術的可能性が拡大するなかで、よりメディアと市民の間の双方向性が重要視され、そのなかではじめて言論公共空間としてのジャーナリズム活動も存在しうる。本科目は、こうした市民とメディアの関わりを歴史と現状から解説する。	
		娯楽とメディア	メディア媒体・ジャーナリズム活動を学ぶための専門教育の基幹科目である。放送にせよインターネットにせよ、はたまた出版や新聞にせよ、その情報量の多くは「娯楽」が占める実態がある。それはまた、現在に続く大衆新聞の出自をみても明らかなことであって、こうしたエンターテインメントが、現在のメディアをどう形作ってきたのか、あるいは影響を与えてきたのかを知る必要がある。	
		言葉とメディア	メディア媒体・ジャーナリズム活動を学ぶための専門教育の基幹科目である。いうまでもなくコミュニケーションは送り手と受け手の間のメッセージのやりとりであって、その中心的なツールは「言葉」である。その言葉の持つ意味や力を、活字や音声媒体の実例をもって探る。それはまた、自らが受け手である場合のみならず、送り手である場合における貴重な経験と知識の基盤である。	
		科学とメディア	メディア媒体・ジャーナリズム活動を学ぶための専門教育の基幹科目である。地球環境問題や先端医療技術など、科学は私たちの生活と密接である。しかし、科学の専門化の進行やコミュニケーション不全が、市民の科学不信を招くこともある。この科目では、科学報道の具体例を取り上げながら、今日のメディアが科学とどう向き合い、どう報道しているのかを検討し、これからの科学ジャーナリズムのあり方を探る。朝日新聞社との協力講座である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目	教育とメディア	メディア媒体・ジャーナリズム活動を学ぶための専門教育の基幹科目である。今日の「教育」、とりわけ学校教育には各種メディアが活用されている。それは、教科書の内容をより深く理解するために、また、児童生徒の主体的な学びを促すために、各種メディアが有用だからである。この科目では、特にメディアとの関わりの深いNIE（教育に新聞を）、視聴覚教育、図書館教育、放送教育、情報教育を取り上げ、それぞれの理論と方法、日本における現状と課題について具体的事例を紹介する。	
		技術とメディア	メディア媒体・ジャーナリズム活動を学ぶための専門教育の基幹科目である。メディアはその技術的発明と市場妥当性、受け手である市民の受容能力等によって使用され普及する。その根幹である「技術」に着目し、メディアの有り様を整理し直すのがこの科目である。とりわけ、インターネットをはじめとするデジタル革命によって、新聞、出版などの伝統的なメディアはどのような変貌を遂げるのか。その技術的変容と文化的な影響を学ぶ。	
		宗教とメディア	メディア媒体・ジャーナリズム活動を学ぶための専門教育の基幹科目である。私たち人間の生活や文化にとって宗教は深い関わりがある。国内外にはさまざまな宗教があるが、無理解やコミュニケーション不全などから、ときに宗教間での対立が生じることがある。対立が拡大し、テロや戦争に至ってしまうことさえある。メディアは、こうした宗教をめぐる諸事象とどう向き合い、どう報道してきたのだろうか。本科目では、具体的な事例を紹介しながら、宗教とメディアの関係について学ぶ。	
		映像ジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。映像はこれまで、日本にとどまることなく世界の諸相をまさに映し撮ってきた。この科目では、国内のさまざまな現場を経験したビデオジャーナリストを招き、映像の力を深く追及する。また今日では、手元のスマートフォンで誰でもが簡単にどこからでも映像を送れる世界が実現している。そうしたなかで、映像ジャーナリズムとは何か、何が求められているのか、そのあり方を考える。	
		フォト・ジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。写真は古今東西、いつの時代も日本にとどまることなく世界中の諸相を、まさに写し出し切り撮ってきた。本科目では、国内のさまざまな現場を経験した有名写真家をゲストに招き、1枚の報道写真が持つ意味を深く追及する。そこから、フォト・ジャーナリズムの可能性・面白さ・難しさを学ぶとともに、社会と時代を見据える眼を鍛える。日本写真家協会との協力講座である。	
		雑誌ジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。雑誌は長く、日本のいわば大衆・娯楽ジャーナリズムを支えてきたし、同時に時代の変わり目において、その批判精神が社会的影響力を行使してきた。しかし今日、総体的な部数減の中で「紙」雑誌の力は急激に減少している一方、いまでもそのスクープ力は大きな社会的インパクトを保っている。本科目では、国内のさまざまな現場を経験した雑誌編集者や書き手をゲストに招き、雑誌が持つ力や社会的存在意味を追及する。そこから、雑誌ジャーナリズムの可能性・面白さ・難しさを学ぶとともに、社会と時代を見据える眼を鍛える。講談社との協力講座である。	
		国際ジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。国際報道にあたっている内外メディアの活動を紹介するとともに、最新の国際ニュースを材料として、各事象の背景や報道の客観性、問題点の有無などを検証するとともに、これらを通じて、世界各国の歴史家、宗教観、文化的背景を知り、その多様な価値観についての理解を深め、社会を見据える眼を鍛える。また、本科目では国際報道を通じて、通信社（ニュース・エージェント）全般の役割と実態についても学習する。毎日新聞社との協力講座である。	
		経済ジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。マクロ・ミクロの経済報道にあたっている内外メディアの活動を紹介するとともに、最新の経済ニュースを材料として、各事象の背景や報道の客観性、問題点の有無などを検証するとともに、これらを通じ国内外の経済メカニズムについての理解を深め、社会を見据える眼を鍛える。また、本科目では経済報道を通じて、経済の仕組み全般の役割と実態についても学習する。日本経済新聞社との協力講座である。	
		政治ジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。今日においても、国内外のジャーナリズム活動の中心課題は政治である。その歴史的な経緯、国内外の政治報道の差異、政治ジャーナリズム・政治記者の生態と内実を、現場の記者をゲストに招き紹介する。さらに現在の政治報道の問題点を摘出し、課題について討議をすることで、国内外の政治構造（システム）そのものについても考察を進め、社会と時代を見据える眼を鍛える。読売新聞社との協力講座である。	
		戦争ジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。今日の日本のジャーナリズムの出発点は戦争にある。日清・日露戦争にはじまり太平洋戦争に至る間、なぜジャーナリズムは戦争を止められなかったのか、むしろ加担をしていったのか、その歴史的検証を踏まえ、ジャーナリズムの意義と役割を学ぶ。また、湾岸戦争ほか海外も含め、戦時の政府とメディアの関係を、「国益」をキーワードに考える。そこから同時に、社会と時代を見据える眼を鍛える。在広島報道機関との協力講座である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目	沖縄ジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。日本のジャーナリズムの長所や短所を凝縮したものが沖縄のジャーナリズムにはある。それは、沖縄が日本の社会の縮図でもあるからだ。本科目では、沖縄メディアの歴史と現在の取材・報道実態とその分析を、現地の現職ジャーナリストによって行うことで、沖縄ジャーナリズムを通して日本のジャーナリズムを学ぶ。それによって同時に、社会と時代を見据える眼を鍛える。沖縄タイムス社との協力講座である。	
		スポーツジャーナリズム論	テーマ別のメディア研究専門講義である。スポーツ報道・番組あるいはスポーツそれ自体は、現在の私たちの生活と切っても切れない関係にある。こうしたスポーツ報道の歴史や現状、一方でアスリート側から見た情報管理のあり方を学ぶ。また、オリンピックをはじめスポーツは、国家・ナショナリズムと切り離せない関係にあることも検証・紹介する。これらを通じ、社会と時代を見据える眼を鍛える。中日新聞社（東京新聞、東京中日スポーツ）との協力講座である。	
		ジャーナリズムとメディア	現代社会におけるジャーナリズム活動は一般に私企業によって成立している。そうした前提に立って、伝達媒体を運営する企業のビジネスとしての「メディア」と、その伝達内容であるコンテンツとしての「ジャーナリズム」は、車の両輪であり、その両方が健全さを保っていてはじめて、様々な放送番組や新聞・出版の誌紙面、さらにはインターネット上の表現活動が成立する。この経営と編集の関係を考察しつつ、社会におけるジャーナリズムのあり方を学ぶ。	
		事件・災害とジャーナリズム	殺人やテロなどの人為的事件と、地震や台風などの自然災害は性格が異なるが、突発的で、深刻な被害を生み、人々に大きな影響を与える点で、ともに瓦版の昔から報道の重要な対象であった。危険情報の共有、原因探究と再発防止策、当事者の人権と報道のあり方など、共通する現代ジャーナリズム上の課題も多い。福島原子力発電所事故のように「人為と自然災害が重なった」とも言われる災害も増えている。過失が絡む事故も含め、事件・事故・災害におけるジャーナリズムを講じる。	
		憲法とジャーナリズム	憲法思想とジャーナリズムは、近代市民社会の形成過程でともに発展してきた。両者の基本的な考え方は何か、現代社会でそれらはどのような関わりにあるのかを、主に2つの側面から考える。一つはジャーナリズム活動と憲法の関係である。憲法の「表現の自由（知る権利）」は取材・報道の自由を保障するが、他方、名誉やプライバシーなどの「基本的人権」と報道は時に矛盾せざるをえない。二つ目は、憲法自体を報じるジャーナリズムのあり方である。現実に生起する多種多様な憲法事象に関する報道や、改憲論・護憲論とメディアのフォーラム性などについて、近代立憲主義などの憲法思想とも照らし合わせつつ、現実の事案に即して議論し考究する。	
		広告学	最も身近なメディアであり表現である「広告」を理解するための専門科目である。ここでは広義の広告として、広報や宣伝（プロパガンダ）、さらには世論も含めて扱うこととし、その歴史的経緯から理論、手法や具体的な制作実態までを概論する。ただし本科目は、2年次生のための専門基幹科目である点を考慮し、具体的な事例を挙げながらの分かりやすい講義スタイルを採用する。	
		PR論	現代社会において、政府においても一般の企業活動においても、PR(パブリック・リレーションズ)は、その活動の根幹をなすともいわれる重要な業務である。ここでは広義のPRとして、広報や宣伝（プロパガンダ）、さらには世論も含めて扱うこととし、その歴史的経緯から理論、手法や具体的な制作実態までを概論する。ただし本科目では、2年次生のための専門基幹科目である点を考慮し、具体的な事例を挙げながらの分かりやすい講義スタイルを採用する。	
		情報アクセシビリティ論	情報社会といわれる今日にあっても、すべての市民が恵まれた情報環境のもとに暮らしているわけではない。デジタルデバイド（情報格差）が地方には厳然として存在しており、また、心身の障害等により通常の情報環境が有効でない人たちも少なくない。この科目では、こうした環境下にいる人たち、いわゆる情報弱者に対する情報へのアクセシビリティを高めるための支援の考え方と方法について具体的事例を通して学ぶ。	
		コンテンツ産業論	メディアコンテンツについて、学生の消費者としての関心は高いが、その知識は表現や制作の部分に偏っており、これらを成立させている産業・市場、事業の設計と運用（製作）、具体的な制作工程や技術などを含めた、包括的な理解には欠けている。しかし、卒業後これら産業への従事を希望する本学生も少なくない。本科目では、表現・制作、製作・事業プロデュース、産業・市場、政策、技術などの視点からのアプローチを通して学習していく。	
		メディア技術の基礎	デジタル技術が導入されているメディアの世界で、発信側に立つために必要なメディア関連技術について、基本から学んでいく。文学部生の志向や特性も鑑みて、基本的な技術の理解を主眼に講義を組み立てる。主に、映像関、音響関連、放送関連、デジタル出版関連などの製作におけるプロセスと技術処理の理解を中心に学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目	メディア批評	メディア研究の専門特殊講義である。ジャーナリズムを支える重要な要因の1つに、適切で建設的なメディア批評の存在がある。メディア批評の歴史と手法といった基礎的な学習に始まり、実際のニュースや番組・記事等の批評の実習を通じて、リテラシーの習得をめざす。同時に、その具体的な批評活動の実践の場として、メディア批評誌等の刊行物の編集作業を経験させることで、批評活動の具体的手法を身につける。	
		ジャーナリズムの倫理	ジャーナリズム活動を支え、メディアを取り巻く倫理制度についての概論である。本科目では、日常的なジャーナリズム活動における報道倫理のありようについて概観する。さらに、活字・映像・通信といった基礎的メディア法体系について、それぞれの産業構造とジャーナリズム活動を支える制度について理解を進める。そのうえで、報道による被害やケータイやネットの問題など、「いま」起こっているジャーナリズム活動を取り巻く様々な事象を通じ、報道倫理がどのように機能しているのかを学習する。	
	発展・応用科目	応用実習	グループ実習形式の科目である。設定テーマや外部連携テーマに基づいた実際の課題を、専門知識、スキル・技能の習得とグループワークによって解決し、実装することを目指す。ジャーナリズム領域の応用実習では取材・執筆・編集を通して、Webや紙媒体での記事制作と媒体発行を、アーカイブ領域の応用実習では、情報アーカイブの方法に基づいた、具体的なアーカイブにおける手法の開拓や実装を行なう。メディア領域の応用実習では、外部連携のテーマによるWeb、紙媒体、映像の制作・公開を行い、スポーツ領域の応用実習では、スポーツサイエンスに基づく、競技、競技者に関する調査・分析を通し、設定課題の解決を目指す。	
		プロジェクトA	本科目は、演習形式として実施される独自の成果を生み出すためのグループ活動である。学生または教員が提案したテーマに基づいてグループを形成し、学生自ら具体的な計画を立て、制作や研究に取り組み、最終的に成果を公開し、批評を受け、活動を振り返ることとする。2年次応用演習で取得した様々なスキルと経験を元に、共同作業を通して、コミュニケーション力を高め、テーマに関連する知識・技能を習得する。	
		プロジェクトB	本科目は、演習形式として実施される独自の成果を生み出すためのグループ活動である。学生または教員が提案したテーマに基づいてグループを形成し、学生自ら具体的な計画を立て、制作や研究に取り組み、最終的に成果を公開し、批評を受け、活動を振り返ることとする。2年次応用演習で取得した様々なスキルと経験を元に、共同作業を通して、コミュニケーション力を高め、テーマに関連する知識・技能を習得する。	
		ゼミナール1	このゼミナールは、テーマとする研究・制作課題についての学問的な接近の方法や専門的な制作の方法を身につけることを第一の目的にする。そのため、担当教員が選定したテキストや作品を受講生が分担して分析・報告し論議することや、実制作を行なうことを中心に運営する。それぞれのゼミナールの専門とテーマに応じ、受講生の研究発表、制作物公開、学内外の施設・機関の訪問・見学や関係者からの取材・聞き取り、他のゼミとの合同ゼミなども実施する。	
		ゼミナール2	このゼミナールでは、ゼミナール1に引き続いてテーマとする研究課題、制作テーマについて、学問的な接近の方法や専門的な制作の方法を身につけると共に、それを活用し実際に研究し、論文を書いたり、具体的な制作物を実装できることを目指す。そのため、テキスト、作品を受講生が分担して分析・報告し論議することと併せて、各人が自分の研究・制作テーマを設定し、研究・制作した結果を報告することに重点を置き、最後にはゼミの論文集または作品集を作成する。	
		ゼミナール3	このゼミナールでは、研究方法・制作技法の高度化を図ると共に、受講者各人が卒業論文・制作のテーマを選定し、論文・制作物の作成に必要な研究・制作活動を進められるよう指導・援助する。具体的には、各人が交代で卒業論文・制作へ向けての研究の中間発表を行い、テーマ、研究対象、研究・制作方法、使用する文献・資料・データ、技法・技術などが適切か否かなどについて、全員で討議することを中心に運営する。	
		ゼミナール4	このゼミナールでは、ゼミナール3に続いて、受講者が卒業論文・制作のための研究と技法・技術の研鑽をさらに進め、要求されているボリュームと質の論文・制作物を執筆・制作できるよう指導、援助する。具体的には、各人が交代で卒業論文・制作の中間報告を行い、論文の構成、論理の進め方、使用する使用する文献・資料・データ及びその示し方などが適切か否か、制作のための知識、表現方法、技法、技術が適切か否か、全員で討議することを中心に運営する。	
		卒業論文・制作	卒業論文・卒業制作物を作成している学生に対して、より完成された論文・制作物を執筆・制作できるよう、研究内容・方法と論文の構成や執筆方法、制作物のテーマ設定・表現・技法・技術などを個別に指導する。担当者と学生の都合に合わせて、決まった曜日・時間に実施したり、適宜実施したりする。教員と学生が一対一で実施するか、学生をグループ分けして実施するかなどについては、学生の数、論文テーマの多様性などに応じて決める。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展・応用科目	世論調査	客観報道、事実報道に不可欠な世論調査について、その方法的な特徴と実施の実態について学ぶ。導入として統計学の基本を理解し、自らも小規模な定量調査を設計、実施できる能力を習得する。並行して国勢調査やSSM調査など日本の大規模調査やアメリカのギャラップ調査など代表的な社会調査の実例や歴史について学び、個別訪問面接聴取法、出口調査法、RDD法、インターネット世論調査、討論型世論調査など世論調査方法についてそれぞれの特性を理解する。マス・メディア機関や付属研究施設における世論調査実施の実態と、特に選挙結果予測や市場需要調査など、利用の現状についても検証する。	
		メディアコンテンツ制作	テーマ別のメディア研究専門講義である。映画撮影所を中心にメディアコンテンツの現場で活動する表現者、技術者によるオムニバス形式の講義。映画の撮影、美術、照明、音響、衣装、編集、宣伝、製作などの各プロセスの理解の他、テレビ番組、ゲームなど周辺分野での製作と制作の工程について明らかにしていく。日活株式会社との協力講座である。	
		アニメーション論	日本及び海外のアニメーションの作品の歴史とその文化的意義、産業の生成、社会課題などについて、具体的な国内外、古今の作品の理解を通して学習する。また現在のアニメーションのビジネスや職業としてのアニメーション制作についてもとり上げ、日本を代表するポップカルチャーであるアニメーションへの理解が、国際化の中での教養・知識として、重要になりつつあるという認識の元、講義を行なう。	
		マンガ論	日本のマンガやアニメがなぜ世界に注目されているようになったか、50年のスパンで分析し、日本のマンガ業界が構築してきたビジネスモデルと成功のポイントを理解する。またマンガ出版の市場縮小の原因をさぐり、電子コミックビジネスの現状と課題について分析を行ない、未来のマンガ業界のビジネスモデルを構築するための基礎を理解する。	
		調査報道論	目の前に起きたことを伝えるだけではなく、隠された真実を追い求め、様々な手法を駆使して事実を探り当てる「調査報道」は、単にジャーナリズムの手法であるだけでなく、物事の本質を見抜く目を養うためには最適な学習法でもある。本科目は、過去の調査報道を学びつつ、さらに情報公開制度やデータ・ジャーナリズムの具体的活用法などを学ぶことで、ジャーナリズム活動の実践に結びつけるための技能を身につける。	
		インタビュー論	取材・研究に有用なオーラルメソッドによる調査方法について学ぶ。テーマの設定、インタビュイーの選択や的確な質問項目を用意する前提となる文献等調査に始まり、対面インタビュー実施におけるノウハウと注意点、取得したオーラルデータの適正な取り扱い、正確なテープスクライビング（反訳）の方法、エスノメソドロジーを応用したデータ分析から作品化の各種技法までを一貫して扱い、学術的にも利用可能な精度を備えたオーラル調査を行うための能力習得をめざす。また再検証が可能なかたちで音声データをアーカイブ化する整理方法や法的な各種条件、調査被害を避ける倫理規範についても学ぶ。	
		コンテンツプロデュース	コンテンツのプロデュース、制作から事業化にいたるプロセスと業務運営に必要な基本的な事柄を学んでいく。放送、パッケージ、拠点型、ネットワークのメディアコンテンツのマネジメントに触れながら、それらに共通する企画立案、事業モデル、ファイナンス、人材と工程の管理、著作権処理および法務、配信・配給・販売、マーケティングなど、プロデュースに必要な要素を横断的・総合的に理解できることが学習の目標となる。	
		情報マーケティング	情報社会におけるマーケティングの基本的な原理とアプローチについて学ぶ。もっとも基本的なWebアクセス解析の方法を中心に、広告、企業PRの運用や、コマースなどのWebディレクションにおいて、データに基づいた効果測定と、それを元にした事業の改善を行なうための知識と技能を、可能な限り実践的に学んでいく。	
		スポーツ情報戦略	情報とは、ある特定の目的について適切な判断を下し、行動の意志決定をするために役立つ資料や知識のことである。一方、戦略とは、目的達成のためのシナリオ、である。これらのことから、競技スポーツにおける情報戦略とは、競技力向上に有用な情報を戦略的に活用しようとする営み、ということができる。スポーツではさまざまな階層で意志決定が行われており、扱われる情報の範囲は広い。本科目では、競技スポーツにおける情報戦略について、その必要性と役割について学ぶ。そこでは、実例や具体的なケースをもとにスポーツにおける情報戦略のプロセスについて、情報の収集から加工、提供と活用までの範囲について学習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展・応用科目	スポーツ政策	現在、日本のスポーツ界は大きな変革の最中にある。2001年度のスポーツ振興基本計画に始まった初期の変革は、10年後のスポーツ基本計画へと引き継がれ、2015年にはスポーツ庁が文部科学省の外局として設置されるに至っている。その間、国の施設として国立スポーツ科学センターやナショナルトレーニングセンターが稼働し、また呼応するように地域においてもスポーツの変革が始まっている。本講義ではこれらのスポーツ政策立案過程にまつわる動きについて多大に影響を与えた情報（インテリジェンス）の役割を中心に講義を展開し、スポーツ界と政界の在るべき姿について考えていく。	
		心理情報とメンタルマネジメント	近年、スポーツ競技において、精神的な能力の発揮が競技成績を左右する重要な鍵となっている。これらはスポーツ心理学の分野で研究され実践された知見をもとに問題の本質を特定し、その特性を理解することが重要である。本科目では、スポーツをする人にとっての心理的な課題の具体的な解決方法について実際に体験し、心をマネジメントするための手段を探る。こうした心の自己管理は、スポーツ分野にかかわらず、多くの市民生活の局面において、役立つものである。	
		コンディショニングのための情報分析	ジャーナリズム活動の基礎も当然ながら、心と身体を健全に保つことから始まる。それは、健康で豊かな生活を送るためには、運動・栄養・休養のバランスのよい生活習慣を若いうちに獲得して健康の保持・増進に努めること、体力値を高めることにほかならない。そのためにはまず現時点での自分の身体の「状態（コンディション）」を知ること、そして自分がイメージする理想的な状態に近づくための「方策（トレーニング）」を学び、良い方向に向かっていく「コンディショニング」が大切である。本科目では、自分自身を客観的な指標に基づいて「知る」ことからスタートし、環境や運動の刺激に対する人体の適応性を利用し、自分の「心」と「身体」の変化に気づき、「運動」を組み込んだよりよい生活習慣を獲得、継続することを目的とする。	
		スポーツ心理の情報分析	人間が行動を起こす際には「心」が深く関わる。その典型例として、スポーツにおいても「心」の動きによって、成績が大きく変化してしまうことがある。本科目では、スポーツにおける人の行動を心の面から探り分析していくことで、人間行動を探求する。心を人の動きなどから探ったり、技術が向上する過程を様々な角度から科学的・客観的に分析・評価することによって、「心」と「身体」との関連を深く理解することを学ぶ。	
		グラフィックデザイン	印刷メディアにはじまり、平面、パッケージ、デジタルメディアにたる現在の視覚伝達のための原理とデザインに対する基本的な考え方を学ぶ。講義では、実際に課題を制作するが、そのためにアプリケーション（illustratorやPhotoshop）を駆使して、基礎的な平面デザインとDTPやデジタルパブリッシングの技能を習得する事を目標とする。	
		ウエブデザイン	Webサイトを構築する上で必要な要素（情報デザイン、インターフェイスデザイン、インタラクションデザイン等）を、現代のネットワーク社会の中で、どのように活用するかを考え、必要な理論や、企画書作成における実践的な理論を元に、そのアウトプットのための方法論や企画立案を実践的に学ぶ。また基本的なコーディングや技術についても、習得できることを目標とする。	
		知的財産権	著作権法を中心に、工業所有権（特許権、実用新案権、意匠権、商標権）、そのほかの権利保護対象（パブリシティ権、肖像権、原産地表示etc.）など、主にメディア環境とそれから派生するコンテンツ領域における、知的財産権について、それぞれの法理、課題、具体的な業務処理などを、可能な限り具体的な実例を通して、講義で明らかにしていく。	
		アーカイブ政策	日本では、明治初期に国立の図書館、博物館が設置されて以降、近年の公文書管理制度、情報公開制度などの整備に至るまで、アーカイブに関するさまざまな政策が打ち出され、実施されてきた。こうした政策が、現行のアーカイブに関する法律や制度として結実している。この科目では、明治時代以降の日本のアーカイブ政策について、歴史的な変遷をたどりながら、各々の政策が打ち出された背景、政策の内容と特色、現状と課題などについて学び、法律や制度との関わりを考える。	
		アーカイブ法制	アーカイブ政策の進展とともに、公文書管理法、公文書館法、図書館法、博物館法、著作権法など、情報や記録のアーカイブに関する多くの法律や制度が作られてきた。これら法律や制度の理解なくして、アーカイブの適切なマネジメントは行えない。この科目では、アーカイブに関する各種の法律や制度の目的、内容、効果と課題、相互の関係性などについて学び、アーカイブマネジメントとの関わりを考える。	
		アーカイブマネジメント	アーカイブをマネジメントするには、それを支える法律や制度の理解が前提となる。同時に、経営管理論などマネジメントの基礎理論、MLA連携などのアーカイブをめぐる国際動向をふまえることも不可欠である。この科目では、図書館、博物館、公文書館、デジタルアーカイブなどにおけるマネジメントの具体的な事例を通して、アーカイブマネジメントの実際を学んでいく。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展・応用科目	デジタルアーカイブ	図書館、博物館、公文書館などにアーカイブされ、必要に応じて提供されてきた有形・無形の文化情報資源は、情報技術の発展を受けて、デジタルデータとして保存が可能となった。公開、展示による損傷を免れるとともに、ネットワークを通じて時間的、地理的制約を超えた利用が容易となっている。この科目では、デジタルアーカイブの技術や構築方法、メタデータ、情報資源としての活用方法、社会的制度設計など多岐にわたる問題について学んでいく。	
		ライティング1	本科目では、ジャーナリズムに求められる、事実をわかりやすく、正しく伝えることを基本としたレポートや記事などの文章作法を学ぶ。その際、他の文献を利用するための正しい引用や適切な文献参照の方法を習得する。さらに意見を述べ、考察するために、文章の組み立て方や理論的展開に注目し、総合的な日本語能力の向上を図る。その他、エッセイや手紙・挨拶状・メールなどの書き方に加え、最終的には、各自、テーマを決めて専門分野のレポートや論文にも取り組む。	
		ライティング2	本科目では、ジャーナリズムに求められる、事実をわかりやすく、正しく伝えることを基本としたレポートや記事などの文章作法を学ぶ。その際、他の文献を利用するための正しい引用や適切な文献参照の方法を習得する。さらに意見を述べ、考察するために、文章の組み立て方や理論的展開に注目し、総合的な日本語能力の向上を図る。その他、エッセイや手紙・挨拶状・メールなどの書き方に加え、最終的には、各自、テーマを決めて専門分野のレポートや論文にも取り組む。	
		インターンシップ	一定期間にわたって、学生が企業等で実際の仕事内容を体験する科目である。インターンシップを通して、本学の学習で身につけた知識をさらに発展させるとともに、社会人としての心構えや自覚の涵養をめざす。インターンシップ受け入れ機関としては、新聞・放送・出版・広告等のメディア企業の編集・制作・営業現場、情報管理部門、情報提供施設（図書館、博物館、文書館）などでのインターンを行う。	
		ジャーナリズム実習	実際に学生自らが、現場に足を運び、目と耳と鼻で事実を追及するといった取材活動を実践することで、職業としてのジャーナリズムへの理解をめざす。また同時に、取材手法や記事の書き方などを、具体的実践の中で身につけることをめざす演習科目としての「ジャーナリズム実践講座」である。本科目は、基礎的な知識とライティング能力を有していることを前提に、プロジャーナリストをめざす者のための専門的教育を行う。	
		ジャーナリズム特講	今日の国内外のジャーナズム活動は多くの問題を包含している。とりわけ近年は、「嘘つきメディア」との批判を受けたり、「フェイクニュース」呼ばわりすることさえあるのが現実だ。具体的な事例を通じ、そうしたジャーナリズムが抱える問題解決のための考察を行う。本科目は、メディア・ジャーナリズムに関する基礎的な知識を有していることを前提に、プロジャーナリストをめざす者のための専門的教育を行う。	
		アーカイブ総合実習	アーカイブに関する実習科目である。アーカイブに関する各専門科目での学びを基礎として、図書館、博物館、公文書館などのアーカイブに関する施設や機関において実際に見学や実習を行い、その具体的な実践例、課題などを体験することを通じ、社会的・文化的資源として知識・情報を市民社会としていかに次世代に継承していくのかを実地に学び、理解を深める。	
		アーカイブ特講	アーカイブに関する特殊講義である。具体的には、アーカイブと深い制度である情報公開制度と個人情報保護制度を掘り下げる。両者の理解は、市民の「知る権利」を保障するアーカイブのマネジメントやサービスのあり方を考える上で不可欠である。情報公開制度と個人情報保護制度は、ときに対立することもあるが、それはなぜなのだろうか。それぞれの仕組みや課題について、いくつかのケースを通して学ぶ。	
	関連科目	記録・史資料調査法	各種のアーカイブを構築するうえで、重要な核ともいえる記録・史資料について、基本的な知識を修得し、その本質を理解するための専門科目である。この科目では記録・史資料の収集、整理、保管、活用、および調査、研究の多くの具体的事例を提示していくことで、それぞれの特性について深く学ぶ。さらに博物館施設等の見学実習を実施し、常に新しい現場の状況を把握しながら、個々の記録・史資料がどのようにアーカイブ化されていくのか、具体的に理解する。	
		記録・史資料調査実習	各種のアーカイブを構築するうえで、重要な核ともいえる記録・史資料について、その本質を理解するために必要な調査の技術を、実習形式で修得する。具体的には、学内で保管されている実物資料を対象として、実測図の作成、写真撮影、報告のためのテキストの作成、編集など、記録・史資料についての調書作成の基礎と実際を学ぶ。また合わせて学外の博物館施設等での資料調査実習を実施することで、調査を計画、運営することのできる実践力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	スポーツインテリジェンス特講	「インテリジェンス」は、「情報」の意味と「知性や知能、理解力」の意味を持つ。現代においてスポーツ情報を入手することは容易になり、テキストから映像までのコンテンツは巷に溢れているが、重要なのはその情報に対するリテラシーとそれを適切且つ的確に活用できる能力である。このことをスポーツインテリジェンスと定義したい。スポーツインテリジェンス特講では、無数に存在するスポーツ情報（インフォメーション）を取捨選択し、自らのスポーツライフに活かしてきたトップアスリートや国際競技大会に挑んだチーム、スポーツに関する施策や政策などの事例を取り上げ、スポーツ医・科学、社会学、測定評価学、教育学など、様々な領域から調査・検証を行い、スポーツ情報へのリテラシーとその活用能力の醸成を図る。	
		スポーツ医科学情報	現代におけるスポーツ医科学の研究範囲は拡大し進歩し続けている。アスリート対象の研究として近年では競技分析やスキル分析、戦術・戦略分析の分野の研究が盛んに行われるようになり、スポーツ医科学の活用が競技成績を大きく左右する要因となっている。その一方、健康の維持・増進としてのスポーツについても同様に研究が進んでおり、実際に住民の医療費削減や生活の質的向上といった成果につながっていることが報告されている。本科目では、スポーツ医科学の最前線の情報を、スポーツ医学、ライフサイエンス、スポーツサイエンスの切り口から紹介する。	
		スポーツ栄養のイノベーション	人が生活を維持していくうえで、いかにコンディションを整えるかが重要であるかは言うまでもない。その究極の一例がアスリートで、トレーニングや試合でベストコンディションを維持するためには、栄養・食事に対する意識を高め、運動量や目的に合わせた食事の調整を身につける必要がある。本科目では、日常の栄養補給の理論とそれに基づく食事の知識、また栄養に関するイノベーションについて情報提供を行う。食生活における自己管理とは何か、栄養がヒトの何を変えるのか、実際の国際競技会などを例に、どのような栄養摂取戦略がなされているのかなど栄養のイノベーションについて学習する。	
		映像表現技法	デジタルコンテンツを読み解くリテラシーの向上と、自らがメディアに関わりコンテンツを制作するための基礎的な考え方、ワークフローを概観できるようにする。デジタル表現、CG、VFX、合成、特撮、ノンリニア編集　などの技術、演出、表現、デザインに関する基本的知識を身につける。映像を取り巻く環境と映像技術、映像表現を俯瞰し、理解をできることを目標とする。	
		視覚表現論	図、絵画、写真、映像など主にグラフィカルなビジュアル表現を対象として視覚表現の様々な方法、形態、機能を概観する。ビジュアル表現の歴史、広告やファッション業界が開拓しつつある先端的な視覚表現スタイルの方向性、インターネットの登場で変化した視覚表現状況についても学ぶ。広告ポスターや写真集、グラフ雑誌の編集などの実態を学び、視覚表現がテキストを通じたコミュニケーションといかに異なる意味伝達作用を発揮するか、テキストのメッセージ伝達といかなる相補的な役割を採るべきかなどを考察しながら、自らも視覚表現活動を実践できる知識と能力を身につける。	
		スポーツビジネス	現在、国内外のプロスポーツは、野球をはじめサッカー、ゴルフ、バスケットボールなど一般的にプロフェッショナルと呼ばれている選手に加え、オリンピックに出場するような選手の中にも自分の競技以外に職を持たずに生活をしている人々をも対象としている。また、アスリート自身のみでなく、指導者やトレーナーにもプロフェッショナルが生まれている。本科目では、最新の国内外のスポーツビジネス情報や、ユニークな取り組み情報などを提供しスポーツビジネスに関する基礎から応用まで幅広く取り上げて講義を展開していく。	
		コーチング論	コーチングはあらゆる分野において、目的を達成するための手段の一つであり、人々が充実し満足した生活を送ることを手助けするものである。近年、様々な分野でコーチングが注目されており、教育現場や社会人教育に活用されている場面も多く見られる。本科目では、スポーツ現場に着目したコーチングの事例を参照にして授業を展開し、コーチングについて基本的な考え方を理解し、また国内外のスポーツの現場でのさまざまな応用・実践事例を取り上げてコーチングについて考察を進める。	
		コーチング実習	一人ひとり異なる選手の能力・性格を見極め、本人が持つ潜在能力や可能性を引き出す「コーチング」について、実習を用いてチャレンジする。本科目では、指導計画、準備方法など、現場で必要なことについて学習し、実際に実践できる能力を身につけることを狙いとする。さらに、チームビルディング、思考力、問題解決力、自発的行動、コミュニケーションなどのスキルと、コーチングの考え方を実践より学び、より優れた各種プランの立案と、そのプランをマネジメントできるスキルを身につけることを狙う。	
		文化情報資源論（図書館）	文化情報資源としての図書館と出版物・出版文化をテーマとする専門科目である。図書館では、さまざまな出版物をアーカイブし、出版文化の発展に寄与してきた。その一方で、図書館に対して新刊出版物の「貸出猶予」を求める意見が出版界の一部から出されたり、図書館の対応が電子書籍などの電子出版物の増大に追いついていないなど、両者間をめぐっては新たな課題も登場し、関係は必ずしも良好とばかりはいえない。この科目では、図書館、出版物・出版文化それぞれの現状を紹介し、両者間をめぐる課題の背景を探る。そして、これらの課題の解決と、図書館と出版物・出版文化の良好な関係性の構築に向けて、様々な問題提起を行なっていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	文化情報資源論（博物館）	文化情報資源としての博物館と文化遺産(文化財)をテーマとする専門科目である。博物館では館内において文化遺産(記録・史資料)を収蔵すると同時に、周辺地域の文化遺産(遺跡、史跡、歴史的建造物等)の保護、整備等の活動も行なっている。さらに近年では国際的な視野においても、文化遺産の活用が大きな問題となっている。この科目では文化遺産についての現状を紹介し、その保護、整備、活用の実例を挙げていく。そして地域社会の中で文化遺産に関する課題を抽出し、それぞれの良好な関係性の構築に向けて、様々な問題提起を行なっていく。	
		スポーツ文化の国際比較研究	グローバル化が進展する21世紀において国際文化を比較・研究することは、「異文化理解」と「共生・共存」の意識の醸成に繋がる一つの条件と言える。スポーツは人類共通の文化であるが、スポーツ分野においては、その国の事情や歴史、そしてスポーツに対する自国民の意識など、国ごとに大きな差異が見られる。そこで本科目では、異国のスポーツに対する文化的背景を実際に現地に赴いて体験をすることによって、異文化（他者、異国の価値観）の理解を高め、グローバル時代に相応しいジャーナリズムの視野の拡大を図ることを目的とする。	
		スポーツと法	スポーツ法学は、日本ではスポーツ活動中の事故をめぐる責任問題を中心に発展してきた。しかし、スポーツが世界的メインカルチャーに成長してきた昨今、差別や人権問題、肖像権、選手選考、プロ・スポーツ選手の契約、スポーツビジネスにおける権利、紛争解決など多様な法的問題が発生するようになった。そのために、そのようなスポーツと法の関わりに対して関心が高まっている。本科目では、スポーツ法学全体像を把握するために、まず、スポーツ法とは何か、スポーツ法学の対象等について理解し、次に、スポーツ界で起きているさまざまな事例を通じて、学校体育・スポーツ、地域スポーツからオリンピックやプロ・スポーツにいたるあらゆるスポーツの場面においてスポーツが直面している法的問題について学習する。	
		ライフステージと健康情報	生涯にわたる健康の保持・増進に人々の関心が集まり、メディア等で見聞きする機会が多くなっている。身体活動や運動が健康に良い影響を及ぼすという科学的根拠も数多く発表され、スポーツが心、身体、文化的側面にもたらす効果への期待も高まっている。健康的な生活を実現するためには、人々の体験談やメディアなどから溢れる「健康」にまつわる正しい情報をライフステージにあわせて身につけ実践する必要がある。本科目では多様で広範な科学の諸分野から健康に関する情報を整理し、身近で優先度の高い課題を取り上げて理論と組み合わせて実践を試み、「健康」という言葉をキーワードとして過去、現在、そして未来の自分自身の健康について考えていく。	
		スポーツの社会学	現代において、スポーツは社会現象あるいは文化現象となるほど多大な影響力を有するメインカルチャーとなっている。スポーツは現在では社会経済への貢献や政治的機能の遂行、地域社会の活性化や社会統合など多くの社会的機能までも求められ、実際にそれらの機能を果たしている。本講義では現代スポーツの持つ社会的機能や役割について体系的に学修するとともに、スポーツを巡る様々な社会的問題点や課題について事例を紹介し、スポーツが社会の発展に寄与するためにどうあるべきかについて議論する。	
		情報とスポーツ	スポーツ界における「情報」の組織的な活用は、この十数年で急速な広まりを見せている。その背景には、国際競技力向上を図るためのグローバルな拮抗した競争がある。選手間、チーム間のわずかの差を埋めていこうとする営みにおいて、情報は欠かすことのできない資源であり、資源の差がその後の戦略に大きな差を生じさせることに繋がっていく。本科目では、スポーツ界における情報の種類とその活用方法について整理するとともに、競技団体、統括組織の活動、研究・サポート機関に焦点をあて、実際の事例から情報が生み出す様々な価値について学んでいく。	
		現代社会とスポーツ	現代社会において、スポーツは著しい発展を遂げている。テレビや新聞などのメディアでスポーツが報道されない日はなく、更にはインターネット・メディアにおいてもスポーツに関する膨大な映像コンテンツが配信されており、スポーツは今やメディアが注目する最大のコンテンツに成長した。また、スポーツはアスリートの華やかな活躍のみならず、健康の維持・増進、スポーツが有する公共性や求心力、地域住民のコミュニティ推進など、現代社会に欠かすことのできない文化でもあり、市民生活の中でもその価値は高まっている。本講義はジャーナリズム活動を行うための基礎教養として、様々な事例をもとに市民社会におけるスポーツが有するポテンシャルについて理解を進め、スポーツの価値をジャーナリズムの観点から深く考察する。	
		中期留学プログラム1	中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4箇月ないし5箇月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの文法を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標とする。またその能力を踏まえて、新聞や雑誌などの日常触れることの多い文章について困難なく読解する能力を身に付けることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	中期留学プログラム2	中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4箇月ないし5箇月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに初級レベルの会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ会話能力を身に付けることを目標とする。その際、特に日常交わされる会話について、困難がないレベルまで聴解力を涵養することに重きを置く。	
		中期留学プログラム3	中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4箇月ないし5箇月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに初級レベルの会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ会話能力を身に付けることを目標とする。その際、特に日常交わされる会話について、困難がないレベルまで発話能力を涵養することに重きを置く。	
		中期留学プログラム4	中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4箇月ないし5箇月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの文法を習得している学生が、さらに高度な文法を理解し、実用的な構文を習得することで、簡単な作文ができる能力の涵養をめざす。作文は、センテンス単位の作文に始まり、一定の意味のまとまりを持つ文章の作成までを目標に入れる。	
		中期留学プログラム5	中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4箇月ないし5箇月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、中級レベルの会話力・作文力の習得を踏まえて、所定の時間に、用意した内容を効果的に発表するプレゼンテーション能力の涵養をめざす。その際、口頭による発話、文章の配布など様々な媒体を組み合わせた綜合的な外国語の運用能力が重視される。	
		中期留学プログラム6	中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4箇月ないし5箇月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、留学地域についての歴史・文化・環境・社会活動などについて多面的に理解を深めることを目標とする。教室における講義以外に、大学ならびに地域の図書館・博物館・美術館などを活用することで、文化が地域社会によってどのように保護育成されているかを実地に体験理解することも、重要な目標である。	
		中期留学プログラム7	中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4箇月ないし5箇月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、留学地域についての歴史・文化・環境・社会活動などについて多面的に理解を深めることを目標とする。なかでも講義以外の時間を有効に使い、問題意識をもって大学や地域の図書館・博物館・美術館などで行われるセミナーや講演会、さらにボランティア活動に参加し、文化が地域社会によってどのように保護育成されているかを実地に体験理解することも、重要な目標である。	
		中期留学プログラム8	中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4箇月ないし5箇月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、帰国後に、留学中の体験や留学によって得た知見について、当該の外国語を用いて報告書の作成することを指導する。また、報告の場となる集会を設定して上記の内容をプレゼンテーションできるよう指導する。留学体験が、学生個人の中に完結するのではなく、異文化理解の重要性が本人を含めた大学全体の場で共有されることを目標とする。	
		映像特殊実習	映像を保存し編集する環境はデジタル技術の進展によって急速に且つ十分に整ってきている。しかし、映像を扱う道具の一般化に比して映像の表現や記述の手法、理論などが一般に知られているとは言えない。本科目では、グループでの映像作品の制作を体験しながら、映像で記述・表現を行うための理論・方法を実例を上げて示していく。今後社会のあらゆる場面で映像を使って何かを伝えることが求められてくると予想されるが、その基本となる事項を本科目で習得することを目標とする。	
		測定・調査実習	身体情報に関わる数多くの情報を取捨選択し、正しい判断を行うには主としていままでの経験に基づく「主観的」な情報とあわせて、測定・調査から得られる「客観的」な情報・評価が求められる。本実習では、身体情報に関する測定・調査を、(1)体力・運動能力に関わる領域、(2)身体活動に関わる領域、(3)形態計測に関わる領域の3群に分け、それぞれの群の実習を行う。測定機器は日々進化し、測定項目も多岐に渡っている事から、ウェアラブル機器やアプリを使用した測定や競技種目特有の測定項目やテスト開発についても実習を行う。	
		シナリオライティング実習	主に映像表現の基礎となる脚本、シナリオの基礎的な構造と執筆の方法を学ぶ。学生は実際に脚本を書きあげることを通じて、表現と制作上のルール、方法などを学んでいく。実践的でより効果的な脚本を仕上げていく過程を通じて、脚本による自己表現を身に付けることが本科目のゴールとなる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	スポーツ総合実習	スポーツを実際に「する人」だけでなく、スポーツを「観る人」や指導者やボランティアといったスポーツを「支える（育てる）人」の視点からスポーツの持つ多様な意義や価値について学ぶ。「する」では様々なスポーツを経験する。「観る」ではプロスポーツやトップレベルの競技大会だけでなく、大学スポーツなどを観戦する。「支える」では、スポーツボランティアへの参加やスポーツ指導、試合の審判や運営の補助などを経験する。これらスポーツを総合的に実際に経験することにより自分のライフスタイルに応じたスポーツへの関わり方を探求していく。	
転換・導入科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール	大学における学修では、講義を聴くことや教科書など基礎文献を読むことに加え、自らの問題関心や勉学の目的に沿って、自主的に勉強に取り組まなければならない。そのためには、必要な資料を収集し、その内容をまとめ、教員や他の学生に報告し、議論を重ね、勉学の成果を論文やレポートにまとめることなど、積極的な姿勢でのぞむことが求められる。本科目は、専修大学の学生としての自覚を持つために専修大学の歴史を学ぶとともに、少人数のゼミナール形式の授業における実践的な作業を通して、大学で学ぶことの意義や、「講義でのノートのとり方」、「資料の収集方法」、「報告の方法」、「討論の方法」、「論文・レポートの書き方」など、大学で学ぶための基本的な技法、すなわち大学における学修方法の習得を目的としている。	
	データリテラシー	データ分析入門	情報化社会における問題をデータに基づいて解決するために、データをまとめた表やグラフおよびデータの特徴を表す基本的な指標を読み取って、分析するための基礎的な力を身に付けることを目標とする。また、他者が分析した結果を批判的に評価して、だまされないようになることも目標である。まずは、目的に応じたグラフの特徴や見やすいグラフの描き方について学ぶ。その後、平均値・中央値などの代表値や分散・標準偏差などの散布度が持つ特徴を扱う。さらに、カテゴリカルデータのクロス集計の連関係数や、量的な変数の間の相関係数といった、変数と変数の関係を示す指標も取り上げる。理解を深めるために、実際に自分でデータから指標を計算してみる。さらに、公表されたり報道されたりしているデータに基づく分析結果を批判的に見直すことも行う。授業形態は講義とするが、講義中に簡単なデータの例について計算の演習を行う。	
	キャリア基礎科目	キャリア入門	本科目は「キャリアを理解するための基礎知識」「自分を知る」「環境を理解する」「キャリアデザインに必要な力」を学び、ゲストスピーカーの話を関連付けることを通じて、大学生活における様々な選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動することを目的とする。ここでは「キャリアデザイン＝自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練ること」と捉え、学生生活で何をするかを明確にし（考える）、多くの経験をして自分の可能性を探り（試す）、なりたい自分になるために挑戦し（挑む）、具体的目標に向けて活動する（磨く）というサイクルを身につける。さらに講義での学びを、他の正課科目をはじめ、課外講座やインターンシップ、部活動、留学などに反映し、目的意識を持った学生生活とその延長線上にあるキャリアの実現に向けて踏み出す後押しをする。	
	基礎自然科学	あなたと自然科学	教養教育科目自然科学系科目の導入科目として、「科学」とは何か、「科学的な」思考法とは何か、「科学的に」問題を解決すること、社会に貢献することとはどういうことかを、「あなた（受講生）」の身の回りの自然現象や「あなた」の生活を便利にしている技術などに触れながら講義形式で論じる。「あなた」の身の回り、あるいは「あなた」自身にも自然科学が密接に関わっていることを理解し、科学的な視点や考え方を身につけ、科学リテラシー（科学や技術に対する理解度）を向上させることが本科目の目的である。「あなた」を取り巻く6つのテーマについて、生命を支えるための基本的な仕組み、生物の進化と多様性、健康という状態と病気という状態の違い、私たちが存在できる地球という惑星の特徴、資源とエネルギー、現代社会と環境問題について論ずる。	
	保健体育基礎科目	スポーツリテラシー	授業形態：実技形式。目標：多様な文化的価値を持つスポーツについて、適切な理解と解釈をもって実践できる能力を養う。スポーツによる学士力の養成と心身の健康の保持増進に取り組むことができる能力を身につける。概要：スポーツは、年齢・性別・障がいの有無を問わず広く行われており、コミュニケーションツールとしてもその価値は高い。その楽しみ方は、競技的なものからレクリエーション的なものまでと多岐に渡る。スポーツが有する様々な可能性に触れて身体知を養うことでスポーツ文化を総合的に理解し、問題解決に取り組むことのできる能力を身につけ、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践する。併せて、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養い、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践する。スポーツの様々な可能性について理解するとともに、生涯スポーツへつなげる足がかりとする。	
		スポーツウェルネス	授業形態：実技形式。目標：スポーツの価値を認識し、その活動を学生生活に取り込み、自分の心身の状態を認識し、健康の保持増進に継続して取り組む事ができる。概要：スポーツの実践を通じて健康の保持・増進や生活習慣病の予防・体力の向上，ストレスの解消といった体と心に関する効果をはじめ、仲間作りやフェアプレー、チームワークの醸成といった社会的効果（=スポーツの価値）が認められている。また、スポーツには「する」だけでなく「見る」「支える」スポーツによる生き甲斐づくりにも貢献できる特徴がある。スポーツウェルネスとはこのような様々な効果を有するスポーツを通じたウェルネスの活動である。スポーツの効果や価値を認識し、自分の価値観や人生観に基づき、より良く生きるための手段としての健康を追求し、自らスポーツを実践できる能力を身につけ、生涯にわたって何らかのスポーツを継続していくことができる能力を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学基礎科目	日本の文化	日本文化についての研究は、今日ますます広がりと深化をみせており、日本人のみならず、世界の人びとの関心の的になっている。この講義では、古今の、日本のさまざまな文化（たとえば短歌、俳句、小説、茶道、書道など）の成り立ちから発展、今日的現状などについて幅広く学ぶことを通じて、日本文化のこれまでとこれからについて深く思索する能力を養うことを目的とする。小説や書道に関する授業においては、実践も重視し、受講生たちが実際に作品を創り、互いに批評する機会も設けることとする。	
		日本の文学	日本文学についての研究は、今日ますます広がりと深化をみせており、古代から現代にいたる長い時間の中で生み出されてきた諸作品は、日本人のみならず、世界の人びとの関心の的にもなっている。また研究方法においても、歴史学・社会学・心理学・文化人類学・民俗学・ジェンダー論など、周辺領域との連携によって、新しい局面がひらかれつつある。この講義では、そうした最新の成果・方法論を紹介しながら、日本の古典文学および近現代文学を実際に読解することを通じて、文学作品を生み出した背景や歴史などについて深く理解し、作品そのものを十分に鑑賞する能力を養うことを目的とする。	
		世界の文学	古今東西の文学について、幅広く教養を身につけるための入門的な講義。英語圏の文学にかぎらず、多彩な地域からその代表的な作者・作品・流派をとりあげて、学生が読書という名の「知」の大洋の魅力を理解することを目指す。一般に国際社会で常識とされる基礎知識として、ギリシア悲劇、唐詩、『トリスタンとイズー』などに始まり、近代の有名な詩・戯曲・小説をへて、さらにプルースト、カフカ、魯迅、サルトル、ガルシア=マルケス、クンデラなどの二〇世紀まで、世界の文学をほぼ時代順に読んでいく予定。	
		文学と現代世界	この講義では、文学が現代世界とどのように関わるのかを学生が理解することを目指す。第一に、現代文学の理解の前提となる批評・文学理論を学ぶ。また現代文学は従来の文学の領域に止まらず、国境や言語を横断し、詩や小説や戯曲といった文学ジャンルを横断し、「作者」と「読者」の境界を横断する。このようにこれまで自明と思われていた文学の輪郭が溶解し流動化している現況を、現代社会との関係の中で学生が理解できるよう、初歩的な教養のレベルでわかりやすく解説する。	
		英語圏文学への招待	グローバル化の時代において〈国民文学〉の境界線の溶融がますます顕著になっており、英語圏文学の人種的・言語的多様化の傾向も強まっている。このような現象を踏まえると、多様化しつつある英語圏文学を「イギリス文学」や「アメリカ文学」といった呼称によって分断することはできない。本講義では、英語圏文化の現状を押さえながら、〈初期近代〉以降の英語圏文学の展開を従来とは異なる視点から捉えられるような知識を習得することを目的とする。対象は、イギリスやアメリカに限らず、アイルランド、南アフリカ、オーストラリア、カリブ海域の国々の文学を含み。テーマとしては、小説、演劇、詩のさまざまな手法の変化に注目する。	
		歴史の視点	学生の多くにとって、講義科目としての歴史（世界史、日本史）は暗記科目として認識されていると思われる。この講義では、中学あるいは高校時代に得た知識を基礎にしつつ、暗記科目ではない学問としての歴史学の基礎を理解することを目的とする。歴史学とはどのような学問なのか、さまざまな時代と地域を対象とする研究や事例を通じて、歴史学における考え方や方法を具体的に知ることがその方法となろう。また、そのような方法を学ぶことにより、現代社会に対する歴史的理解を深めることができる。	
		歴史と地域・民衆	歴史学とは、現在の私たちが暮らす社会のありようや課題について考えるという問題意識から、歴史上の人びとの営みやその生活等について調べ、考察する学問である。人びとの関係性の中から形成される社会は、当然その時代や地域における特徴を持つこととなる。また、そうした地域のなかで、歴史上の著名な人物として名前や生涯を知りうる人間は、全体の中のごく少数に過ぎない。圧倒的多数は、名前もわからない民衆である。しかし、そうした個々の民衆の営為が社会の土台をなし、大きな社会的変革の原動力ともなっている。したがって、歴史研究の対象としての民衆の活動を解き明かすことには大きな意味がある。以上のことを念頭に置きながら、この講義では具体的な時代や地域を題材としながら、民衆におけるさまざまな意識や行動について明らかにすることを目的とする。	
		歴史と社会・文化	現在の歴史学では、伝統的な政治史や経済史のように特定の著名な人物や国家あるいは経済政策を事件史として研究するだけでなく、より全体的な視角から人間や人間集団をとらえて研究することが盛んになった。研究されるテーマも、従来の研究が取り上げなかった家族、性、出産、育児、衣食住、貧困、犯罪、心性などの領域を、今まで利用されなかった資料を使って解明し、研究方法も自然科学・人類学・民俗学・人文地理学などの隣接諸科学の方法・視点をとりいれ、人間とその社会を全体的・具体的に分析しようとしている。この講義では、近年の社会・文化の領域における研究の方法と成果を、上記のようなテーマに即して分かりやすく紹介することを目指す。受講者は歴史における社会や文化の多様性を知るとともに、現代社会を構成する歴史・文化的基盤への理解を深めることができる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学基礎科目	基礎心理学入門	心理学は、人間の精神活動や行動を科学的な方法を用い、実験・調査・観察によって客観的なデータを得ることにより心・行動を解明する学問と体系化している。心理学は大きく分けて、基礎・実験的領域，および応用・実践的領域に分けることができるが、本講義では、基礎的・実験的領域に関連する心理学を概説する。本講義を通じ、「直感や思いこみで心を語るのではなく、客観的・実証的な手法で解明する」という縛りを自らに課した心理学のアプローチの重要さ・面白さ・難しさ等の理解を深める。	
		応用心理学入門	心理学は、人間の精神活動や行動を科学的な方法を用い、実験・調査・観察によって客観的なデータを得ることにより心・行動を解明する学問として体系化している。心理学は大きく分けて、基礎・実験的領域，および応用・実践的領域に分けることができるが、本講義では、応用・実践的領域に関連する心理学を中心に概説する。理論にとどまらず、できるだけ具体的に、日常生活でのできごとや社会的現象なども取り上げながら、さまざまな分野へ広がりを見せる心理学を解説する。	
		哲学	本講義の目的は、哲学的な考え方の初歩を解説し、人文・社会科学一般への知的関心を刺激するとともに、そもそも、身の回りの事柄について疑問を抱き、それについて、考えるとはどのようなことか、また、それによってどのような地平がひらけ、さらに、考えている自分自身について、どのような見方ができるのか、学生に理解してもらうことにある。具体的には、西洋哲学古来の普遍的本質についての問い、近世以来の主体や自我についての問いがどのようなものであったのか、またそれが現代哲学においてどのように問い直されたのかを解説することが、本講義の内容である。	
		倫理学	倫理とは、狭義には、人に対して「していい・いけない」という区別を核とする行動規範（狭義での道徳）であるが、広義には、「どういう人でありたいか」「どう生きるべきか」という問にかかわる規範をも包括する。この授業では、わたしたちが日々下している道徳判断に即して、倫理とはそもそもどのような規範であり、合理性や効率性といった規範とどう関係しているのか、といった問題を検討する。各自が習慣的に行ってきた道徳判断について、主体的にとらえかえすことを目標としている。	
		論理学入門	論理学では、「仮定や前提から、演繹的に正しい仕方で結論に到達する」ということが、どのようなことなのか、それを支えている原理やメカニズムがどのようなものか、を明らかにする。この講義では、そのための基本的な技法として、(1)命題論理の形式言語を構成し、形式言語を使用することの意義を確認し、論証構造の抽出方法を講義する。さらに(2)論理結合子の真理関数的解釈に基づいて、妥当な推論の判別方法の習得を目指す。また、命題論理における妥当な推論を選別する方法として、ゲンツェンによって開発された自然演繹の方法を解説し、そこでの具体的な証明方法の習得を目指す。	
		ことばと論理	命題論理における妥当な推論を選別する方法として自然演繹の方法を解説し、その上で、命題論理の言語を一階述語論理へと拡張する。これによって、日本語文の一階言語への翻訳方法を習得し、日本語文の背後にある論理構造の抽出方法を学ぶとともに、一階述語論理の自然演繹体系での証明を独力で構成できるようにする。さらに、非古典論理の一部、様相論理や多値論理、直観主義論理を取り上げ、メタ論理的な概念への入門を試みるともに、論理学成立のための諸前提を哲学的に検討しながら、ことばと論理の間の関係を考えていく。	
		芸術学入門	この講義は、芸術とは何かという「芸術の本質」を探求する入門的な概論である。つまりこの講義の目的は、例えば諸々の具体的な芸術作品の分析を通じて、歴史的な時代背景やこのジャンル以外の学問分野との連関を探ることによって、一つの芸術ジャンルにはとどまらない広い文化的構造において「芸術の本質」を見通しうるような視点を習得しうるようにすることにある。そのために、様々な芸術作品に言及しつつ、できるだけ理解しやすい説明で進行する。	
		異文化理解の人類学	文化人類学は、フィールドワークすなわち長期にわたる住み込み調査を特徴としてきた。いわば、身をもって異文化を体験することが出発点になる。そのようにして異文化接触の現場で得てきたさまざまな知識、すなわち、衣食住にはじまる暮らしの基本要素や、家族や近隣などの人間関係のあり方、経済、政治、宗教等々の事象について、さまざまな社会と文化の具体的な諸様態を紹介しつつ、人類の社会と文化のあり方について考えていく。	
	社会科学基礎科目	日本国憲法	憲法の重要性は、国の「最高法規」であり、かつ「人権保障の基本法」という点にある。近・現代の憲法は、基本的人権の保障の条項と、権力分立を定める政治（統治）機構の条項の部分から成り立っているが、両者は密接な関係にある。すなわち、基本的人権の保障とは、国家権力による人権侵害に対する保障を意味し、その保障を確保するために、権力を立法・行政・司法にわけ、異なる機関に分立させているのである。この考え方を「近代立憲主義」と言い、この原理に基づいて制定された憲法を「近代憲法」とよぶ。この講義では、身近な政治・社会経問題や実際に裁判で争われた事件を素材にして、日本国憲法の人権保障と権力分立の仕組みを考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学基礎科目	法と社会	人間は、いつの時代でも、いかなる地域でも、他者との関わりなしに生きることができない社会的存在である。そのような人間の社会では、様々な規範（ルール）が必要となる。「社会あるところ、法あり」といわゆる所以である。本講義では、法学に初めて接する人を対象に、社会における法の意義や役割、法の基本思想、法の実現のための裁判制度について学ぶ。とくに現代社会は、技術発展、価値観の多様化、家族のかたちの変化など、伝統的なものから多くの変容を余儀なくされている。このような社会の変化に応じて、法のあり方も大きく変容してきている。現代社会が抱える諸問題に対して、法学の視点からアプローチできるようになるための力を涵養することも本講義の重要な課題である。	
		政治学入門	本講義は、権力、自由といった政治学の基礎的概念や、選挙、政党、議会、官僚制といった政治制度・政治集団の原則や行動パターンを理解するための、まさに政治学入門講義である。他の人文・社会科学(文学、経済学など)に対する知的関心や学習意欲を側面から鼓舞することを目的としている。政治学的な発想という眼鏡をかけて眺めてみることによって、国内政治、国際政治、身近な組織の運営などを、それまでとは違った角度から観察する。それらの基礎的な学習を踏まえ、国内政治、国際政治についての最新の実態と動向とを確認しながら、現状の問題点についても考えていく。	
		政治の世界	一口に「政治」を学ぶと言っても、北米、南米、欧州、アジア等々、地域によってその実態は様々である。本講義は、そのような多様な政治の世界を理解するために、地域研究的な視点並びに歴史分析的視点を用いて、各国の政治の実態を知り、考えることを目的としている。具体的には、女性の活躍度合という視点で複数の地域の政治を比較分析したり、政治学の古典的なテキストで展開されている分析視角を用いて過去並びに現代の政治現象の意味を考えたりするといった、様々な課題にチャレンジしていく。	
		経済と社会	経済がこれからどう変わっていくのかを考えるとき、社会全体の大きな変化の中で経済をとらえる社会経済（Socio-Economy）的な視点をもつことは重要である。本講義の目的は、高校で学んだ知識を整理・発展させながら、社会経済的なものの見方の前提となる基礎的な知識・語彙を習得することにある。複雑で大規模な現代社会を、「資本主義」という用語を用いて大づかみに考察することに授業の主眼を置く。資本主義とは何か、資本主義経済はどんな問題を抱えているか、どんな歴史を経て現在の資本主義経済になったのか。これらを資本主義以外の経済体制を含めて考えるなかで、受講者に社会経済的な視点を体得していってもらう。	
		現代の経済	私たちの社会はモノやサービスをどれだけ生産し、それらを誰にどれだけ分け与えるか、という基本的な「経済問題」を持続的に解決していかなければならない。そして、私たちはこうした経済問題と関わらずに生きていくことはできないがゆえに、一人の市民として経済学の知識を身につけておくことが望ましい。この講義の狙いは、初めて経済学に触れる 学生諸氏に、基本的な経済学の知識を習得させ、経済学を学習することの意義を体得させることにある。	
		地理学への招待	初学者を対象とする講義形式の科目で、地理学が地表の科学として、環境・景観・地域とそこに展開する空間現象を研究対象とすることを示し、その説明と分析の方法についての理解を深めてもらうことを目的とする。とりあつかうテーマは自然・人文にわたる現象・事象であり、両者に通底する知的体系に気づくことによって、これまでとは違う地球観や世界観に接近してもらえるよう解説する。対象を捉える視角として、位置、距離、分布とその要因、地表(気圏・地圏・水圏)と地表形成営力、地域と地域構造(パターン)・地域区分、景観と生態、起源と伝播(拡散)、時空間と動態などを用いる。	
		社会学入門	講義形式。本講義は、「社会学的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会学的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する履修者の関心や基礎的な理解を身に付けることを目的とする。ただし社会学は、多種多様な現実分析の「発想」「視点」「理論」「方法」を含むので、あくまでも本講義では、各講義担当者の専門領域での研究成果を尊重しつつ、各専門領域における多様で個性的な研究成果を生かした講義を展開することで、履修者には、最終的に、「社会学とは何か」に関する基礎的な理解の習得を促すことを意図している。	
		現代の社会学	講義形式。本講義は、「社会学的理解の基礎を学ぶ」を講義の基本テーマとし、社会学的な「ものの見方」「発想」「方法」「概念」「理論」等に関する履修者の関心や理解を深めることを目的とする。講義担当者の専門領域での研究成果をもとに、多様で個性的な研究成果や研究知見に関する講義を行うことで、最終的には社会学的な発想や視点、社会学の基礎概念、方法論、理論、研究事例等に関する履修者の理解を深めることを目的とする。講義担当者の研究内容に則しつつ、社会学の研究事例に関するより発展的で深い理解を促すことを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学基礎科目	社会科学論	社会を形作っている基本的な制度や組織等と、そこで生きている人びとの営みを分析対象とする社会科学は、ホッブズ、ロック、アダム・スミス、マルクス、ヴェーバー、ケインズ、ハイエクといった多くの先人による理論構築を経て、客観的・批判的検討を行う「科学」として昇華されてきた歴史がある。この科目では、社会科学における方法論を素材として取り上げ、1)「社会」を対象とする社会科学がどのようにして科学として発展してきたのか、その歩みを理解すること、2)「自然」を対象とする自然科学との方法論の違いや、社会科学の諸領域における方法論の異同について理解を深めていくことなどを目的とする。	
		社会思想	われわれの生きている現代の政治・経済・社会領域で、当然と思われている共通規範－例えば政治における権力分割と民主主義、経済における合理的資源配分、社会における諸個人の自立とつながり－これらは、近代の生成とともに前近代の思考枠と戦いつつ培われてきたものである。「社会思想」では、近代の淵源をたどり、そこからさかのぼって現代へと至る歴史の中で、その節目節目に現れて現代に通底する諸思想を紹介し、さらには現代までに形成された価値（幸福、自由、平等、正義、共同体、民主主義など）を再検討し、現代と将来に生きる学生たちの社会知性の涵養を目指す。	
		教育学入門	教育とは何か、子どもが育つとはどういうことか、そうした問いを念頭におきながら教育という営みについて知ろうというのがこの授業である。近代社会の教育のひとつのエポックは学校の登場だ。子どもが学び育つプロセス、人が新たな知見と感動を手にするプロセス、そういう営みを集約的に展開させる場として、近代社会は学校を用意した。家庭と社会と学校の連携の中で子どもたちはどのように育っていくのか、あるいは育っていくのがよいのか。子どもたちの育ちを観察し、そして思索してきた先人たちの英知と苦悩に学ぶ。	
		子どもと社会の教育学	学校、家庭、地域コミュニティ、そして国家も含めて、社会全体を視野に入れるスケールで教育にアプローチしてみようというのがこの授業である。ある社会が教育をどのように構想するかは、その社会のさまざまな理想と利害と力関係の集積としてある。この授業では、近代の教育が国家や地方の政治が関与しながら制度化されたものとしてあるということを念頭に、教育を制度構想、組織経営、政策分析においてみていく。社会を変化させる可能性を持つ学校が、同時に既存の社会の枠組みを再生産する装置としても機能していることをみてもこれらの関係は単純ではない。ぜひ、教育と社会の相互関係のダイナミズムに触れて欲しい。	
		情報社会	今後情報化がますます進んでいく社会において、大学生は情報システムやサービスの利用者（受信者・発信者）であり、また将来何らかの形でそれらの提供側に関わる可能性もある。本科目は、広く情報システムやサービスの意義や活用事例、及びそこで提供される情報やメディア、さらには情報社会の問題についての基礎を理解してもらうことを目的とする。最初に人間社会における情報システムの意義を示し、その基本的な仕組みを解説する。さらに、ビジネスや公共サービス、環境など現実社会と情報システムの関わりを学び、その活用可能性を考えていく。また、情報システムやネットワーク上の情報自体について、その特性・分類・既存メディアとの関係・社会的位置づけなどを理解し、情報自体の捉え方やコンテンツビジネスについての概観を得る。合わせて、情報社会における問題、情報倫理などについても学ぶ。	
		はじめての経営	本講義の目的は、「企業」および「経営」という概念を理解し、これを基礎として社会の諸問題をさまざまな観点から考察する力を身につけることにある。そのため、講義内では企業の実例を適宜紹介しながら、モチベーション論、リーダーシップ論、現代企業の発展史、株式会社論、企業と社会、企業の成長戦略、顧客満足、組織活性化、事業のビジネスモデル、企業の国際化戦略等のテーマを取り上げ、解説する。同時に現代の企業はどのような仕組みで経営されているのか、どのような課題を抱えているのか、働く喜びとは何か、企業は人間を幸せにしてくれるのだろうかといった企業経営にかかわる諸問題について受講者自身にも考えてもらう。	
		マーケティングベーシックス	マーケティングは組織が顧客志向や顧客満足という観点にたって市場に働きかける活動や仕組みの総体を指さす。現代市場における顧客志向の重要性の高まりとともに、企業におけるマーケティングの重要性も高まりつつある。加えてマーケティングの知識は官公庁や学校、病院などの非営利組織において社会的な課題解決を目標とする活動にも広く適用されるようになってきており、社会においてマーケティングの知識は必須のものとなりつつある。この授業では、マーケティングの初学者向けに、さまざまな考え方や手法について、具体的な事例に基づいて解説する。	
		企業と会計	この授業では、ビジネスに関する知識がない人を対象に、市場経済社会における会計の役割を説明していく。講義の主な項目は、(1)市場経済社会における会計の役割、(2)財務諸表の理解と分析、(3)日本の会計制度、(4)経営管理目的の会計、(5)企業の情報開示と会計監査、(6)ケーススタディとなる。実際の企業の事例をパワーポイント等で提示しながら基礎的な内容から解説する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学系科目	自然科学実験演習1	我々の身の周りの「科学」を、実験と演習、講義形式を織り交ぜて論じる。講義だけでなく少人数での実験や演習を行うことで、知識の伝達だけでなく、実験手法、客観的な観察の方法、データの解析法、科学的な思考法、レポートの書き方、発表の方法を総合的に身につけることを目的としている。本科目では物理学、化学、生物学、地学の全ての自然科学の内容を含む。具体的なテーマとしては天体観測、繊維の染色実験、医薬品の合成実験などを行う。	
		自然科学実験演習2	我々の身の周りの「科学」を、実験と演習、講義形式を織り交ぜて論じる。講義だけでなく少人数での実験や演習を行うことで、知識の伝達だけでなく、実験手法、客観的な観察の方法、データの解析法、科学的な思考法、レポートの書き方、発表の方法を総合的に身につけることを目的としている。本科目では物理学、化学、生物学、地学の全ての自然科学の内容を含む。具体的なテーマとしては天体観測、繊維の染色実験、医薬品の合成実験などを行う。	
		生物科学1a	生物体の基本単位となる「細胞」について、その造りや営みを理解させることは、生物科学教育の最もベーシックで、しかも核となるところである。本科目では、主に細胞学の立場から生命現象が現れる仕組みを教授することに重点を置く。例えばミトコンドリアにおける好気呼吸や葉緑体における光合成のように、細胞の構造と機能は見事なまでに表裏一体となっていて、その巧妙さは生物進化40億年の過程で獲得されたものである。この科目を通して生命の素晴らしさと尊厳に対するより深い認識と眼差しを育むことを目指している。	
		生物科学1b	生物科学教育におけるもう一つの重要な柱は、DNAと遺伝子についての理解を深めさせることである。本科目では遺伝学の立場から生命現象が現れる仕組みを講ずることに重点を置く。遺伝子はタンパク質を作り出し、そのタンパク質が生命現象を引き起こす役割を演じる。発生と老化、さらには進化に至るまで、遺伝子レベルの研究からその謎が解明されつつある。本科目では遺伝学の古典から近年の研究成果に至るまで幅広く取り扱うことによって生命への畏敬を深め、ハイテク時代を生きる我々が避けて通ることのできない遺伝子操作や生命倫理などの諸問題とも向き合い、人間の未来を正しく選択していくための素養や考える力を養うことを目標とするものである。	
		生物科学2a	この講義のテーマである地球における生物進化を学ぶにあたって、重要な観点が2つある。1つは地球上で進行した進化の事実を知ることであり、これは、化石の研究や、現生生物がもつ様々な機能の比較、そして生物がもつ遺伝子であるDNAの比較による系統の解析（分子系統解析）によってなされる。もう1つは、なぜ進化が起こったのかを知ることである。ここでいう「なぜ」とは、進化が起こる自然界のメカニズムを指している。遺伝子DNAがもつ特性から生じる遺伝的変異の発生と、生物個体の生存率と繁殖率に作用する自然選択がこのメカニズムの両輪である。この講義では、この2つの観点を正しく区別しながら、生物進化を広く理解しようとする。	
		生物科学2b	この講義の目的は、生物学の一分野である生態学の基礎を学ぶことである。生態学の目的は、なぜその生物は、その場所に、それだけの数、存在するのか、に答えることである。野外調査や実験操作を行う生態学は机上の学問ではない。しかし、数理解析のような理論的研究も行われる。生態学は古くから個体群生態学と群集生態学に分けられてきたが、近年、これに生態系生態学が加わり、このような基礎生態学の応用として環境科学や保全生態学も加わるようになった。この講義では、微生物、動物、植物など、地球上に存在する様々な生物たちの生物相互間の関係や、生物と非生物的環境との関係がどうなっているのか、またそれらをどのように研究するのかを学ぶ。	
		生物科学3a	生物科学3aは「生き物としての人間」という観点から、まず他の動物と共通する遺伝子や細胞レベルの基本的な生命現象を理解した上で、ホメオスタシス維持の理解を目的に、消化・吸収、内分泌機能などの器官レベルの生理機能を学ぶ。次に誕生から死に至るまでの生物学的に考えるヒトの一生、さらには集団として生活していることの意味や、このことに伴って生じる問題についても考える。また「ヘルスリテラシー」を念頭に、例えばアレルギーなど免疫系の疾患、患者数の多い糖尿病について発生機序に基づいた予防策、疾病に付随する社会的な問題に対して医学的な側面から学生に問題提起を行う。	
		生物科学3b	生物科学3bは「生き物としての人間」という観点の中で、他の動物と一線を画す脳の機能を中心に論じる。まず脳の素子である神経細胞の情報処理のメカニズム、内外の環境変化を検出する感覚機能のメカニズムなど他の動物とも基本的には共通する機能について学ぶ。次に、言語や精神作用など人間の特徴である脳の高次機能について、他の動物と比較しながら理解する。また進捗著しい学習や記憶のメカニズム、さらには神経回路の機能不全として認識され治療されるようになってきた、いわゆる「こころの病」などへの神経科学的な理解も扱う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学系科目	宇宙地球科学1a	本講義では「宇宙へのアプローチ」をテーマとして、人と宇宙の関わりを軸に、時代による宇宙像の変化や、さまざまな観測手法・立場から見える多様な宇宙について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、(1) 宇宙・太陽系の構造を理解し、目に見える天体の動きを説明できる、(2) 人類の宇宙への様々なアプローチを学習し、観測方法による違いを踏まえて、その目的を理解することが出来る、である。この目標を達成するために、宇宙の構造、天体の運動と見かけの動き、観測手法とその変遷、宇宙の理解に対する天文学の進展について、最新の観測結果やデータの解釈も踏まえつつ、論ずる。	
		宇宙地球科学1b	本講義では「宇宙・太陽系のすがた」をテーマとして、最新の宇宙探査で明らかになった太陽系のすがたや、現在の宇宙像について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、(1) 現在までに明らかになっている太陽系天体のすがたを学習し、それぞれの特徴を説明できる、(2) 恒星の進化および銀河系の構造、さまざまな銀河の存在を理解し、宇宙についての時間的空間的な拡がりをイメージすることが出来る、である。この目標を達成するために、恒星の性質や誕生と進化、銀河の誕生と進化、太陽系の諸天体の科学的な特徴について、最新の観測結果やデータの解釈も踏まえつつ、論ずる。	
		宇宙地球科学2a	固体地球科学の基礎を講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、固体地球科学に関して、(1)用語を理解し、正しく用いることができる、(2)プレートテクトニクス・地震・火山活動に関する法則・原理、およびその根拠を理解し、説明することができる、(3)実際の観測結果や観測データ、モデルに基づいて、プレートテクトニクス・地震・火山活動を説明することができる、である。この目標を達成するために、現代の地球科学の基本概念であるプレートテクトニクスの理解を中心に、地球の産状・内部構造、大陸移動説と海洋底拡大説、マグマ形成プロセス、地震・火山と災害について論ずる。各々の事象を単に網羅的に論ずるのではなく、実際の観察・データの解釈やそれに至る歴史的背景も踏まえつつ、論ずる。	
		宇宙地球科学2b	地球史と現在の地球環境について講義形式で論ずる。本講義の到達目標は、地球史に関して、(1)地球誕生以降、環境がどのように変遷してきたのかを理解し、説明することができる、(2)環境の変化が生じた過程とそう推定される根拠を理解し、説明することができる、(3)過去の環境の変化と現在の地球環境の関連について説明することができる、である。この目標を達成するために、地球史を編むために必要な年代決定や古環境の代理指標で用いられる同位体の知識を基礎としつつ、地球46億年の歴史を概観する。特に、地球進化・生命進化上重要なイベント(地球の誕生、生命の誕生、大陸の進化、全球凍結、生命の繁栄と絶滅)を取り上げ詳細に論ずる。また、現在の地球環境を考える上で重要である顕生代(特に中生代・新生代)の気候変動や資源の問題について、海洋学の成果も含めて論ずる。	
		化学1a	化学の基礎を講義形式で論ずる。化学は物質の科学であり、物質の構造、物性、反応を探求する分野であるが、化学1aでは主に物質の構造について論ずる。化学における基礎的知識や概念を説明することができ、化学の観点から物質の性質や身の回りの自然現象について理解を深めることを目指す。内容としては化学の出発点である原子とその構造、分子、元素の周期表、化学結合などである。原子という肉眼では見えないミクロな粒子が100種類ほどの元素に分類され、それらが結びつくことでできた物質の性質が、原子や元素、化学結合によって説明されることを論ずる。	
		化学1b	化学の基礎を講義形式で論ずる。化学1bでは主に物質の反応と物性について論ずる。化学における基礎的知識や概念を説明することができ、身の回りにある様々な物質の性質や身の回りで起こっている化学反応について、化学的な視点から理解を深めることを目指す。内容としては代表的な化学反応である酸化還元反応、化学反応の根底にあるエネルギーの概念、物質の状態、代表的な化学の概念である酸や塩基、近年現代社会を支える重要な素材となったプラスチックの特徴や物性などを論ずる。身の回りや自然界で起こる変化がなぜ起こるのか、我々が現代社会を構築する上で化学反応や新素材をどのように利用しているのかを化学的な視点から論ずる。	
		化学2a	現代社会における化学の役割を講義形式で論ずる。化学が現代社会のあらゆる場面で利用され、また貢献しているかを説明することができ、化学の視点・思考法によって科学や技術への理解を深めることを目指す。扱う内容としてはセッケンや洗剤などの界面活性剤、繊維や繊維を染める色素、食品添加物のような日常生活と化学の関わり、フロンや水銀、窒素酸化物などの環境汚染物質、地球温暖化問題など、環境と化学の関わりなどである。いずれの内容においても現代社会が化学によって支えられ、また現代社会が抱える問題が化学によって解決されうることを論ずる。	
		化学2b	現代社会における化学の役割を講義形式で論ずる。化学が現代社会のあらゆる場面で利用され、また貢献しているかを説明することができ、化学の視点・考え方による科学や技術の理解を深めることを目指す。放射性物質や原子力発電、廃棄物の処理とリサイクル、省エネルギー技術などエネルギー問題と化学の関わり、医薬品やビタミン、アミノ酸とタンパク質、呼吸と光合成など、生命と化学の関わりなどが主な内容である。いずれの内容においても現代社会が化学によって支えられ、また現代社会が抱える問題が化学によって解決されうることを論ずる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学系科目	物理学1a	物理学の基本的な考え方の一つである力学を中心に学ぶ講義科目であり、身近な自然現象を理解していく方法や物理学的な自然観を身につけることを目標とする。ニュートン力学や万有引力などにより、自由落下や潮汐現象などの身近な自然現象から惑星の運行といった極めて大きなスケールの問題まで統一的に理解できることを学ぶ。 さらに、ニュートン力学を超えた体系である相対論の初歩にも触れ、物理学がいかに自然現象を体系化してきたかも学ぶ。	
		物理学1b	物理学の基本的な考え方の一つである波動、原子や電磁気学を中心に学ぶ講義科目であり、身近な自然現象を理解していく方法、物理学的な自然観を身につけ、その応用技術を理解する力を養うのを目標とする。 波動・原子では音、光で起きる身近な自然現象を学ぶとともに、見ることができない原子の世界でも波動性と粒子性（量子性）が重要になることを学ぶ。また、電磁気学では、身近な現象や電化製品の動作原理を通して、電磁気学が身近に広く応用されていることを学ぶ。	
		物理学2a	現代物理学の中核をなす相対論や統計力学について学ぶ講義科目であり、現代的な自然観や物理学的な思考法を身につけることを目標とする。相対論では、時間や空間、エネルギーや質量、重力の現代的な姿を理解し、それをもとに、ビックバンやブラックホールなどの宇宙論を理解する。一方、統計力学は、複雑に絡み合う非常に多くの粒子からなる系を扱う方法を学び、熱とエネルギーの関係、エネルギー変換、環境問題を物理学の観点から理解する。これらを通して、現代物理学的な自然観や思考法が、現代社会を思想的な側面から現実的な側面まで如何に変革してきたかをも学ぶ。	
		物理学2b	現代物理学の一つの中心的課題は、物質の構造を探求することである。20世紀において、原子、原子核、クォークと探求が続き、それは、ビックバン後の宇宙における物質創生のシナリオの解明につながっている。一方、原子核の発見は、相対論・量子論と相まって、物質内部に存在する莫大なエネルギーを解放させることにつながり、原子爆弾や原子力発電の開発へと応用されていった。本講義科目では、現代物理学がもたらした新しい物質観やその応用として、電力とエネルギー、原子力発電について学ぶ。その基礎となる、量子論、相対論の内容も含む。	
		数理科学1a	数理的論理思考力を養うことを主要な目的とする。内容は、広い意味の代数とする。身近な生活や社会で使われている数学を題材に、その数学的理論の理解を目指す。また近年は社会科学や情報科学など様々な学問分野において数学的知識は必要不可欠であるため、他分野への応用を念頭に置いた講義を行う。数学は体系的な学問であるので、理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。高校までの数学で学修した初歩的な知識を出発点に、受講者の理解を確かめながら授業を進める。	
		数理科学1b	数理的論理思考力を養うことを主要な目的とする。内容は、広い意味の代数とする。身近な生活や社会で使われている数学を題材に、その数学的理論の理解を目指す。また近年は社会科学や情報科学など様々な学問分野において数学的知識は必要不可欠であるため、他分野への応用を念頭に置いた講義を行う。数学は体系的な学問であるので、理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。基礎的な知識を十分に復習しつつ、「数理科学1a」を踏まえた発展的な内容にも触れる。	
		数理科学2a	この科目では、広い意味での解析学・幾何学を取り扱い、数学の問題を通して論理的思考力を養うことを主要な目的とする。 具体的には、位相幾何、非ユークリッド幾何、フラクタル幾何、複素平面、関数論、確率論などの分野から、受講者にとって、興味がもてて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では基礎的な部分に重点を置いて講義する。	
		数理科学2b	この科目では、広い意味での解析学・幾何学を取り扱い、数学の問題を通して論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、位相幾何、非ユークリッド幾何、フラクタル幾何、複素平面、関数論、確率論などの分野から、受講者にとって、興味がもてて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では「数理科学2a」を踏まえ、より進んだ発展的な内容を講義する。	
		数理科学3a	この科目では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の基礎知識、および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、平均、標準偏差の定義や、グラフ表現を与えるという記述統計から始める。さらに、推測統計の導入として確率分布の話題を取り扱い、主要な確率分布の性質を紹介する。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目ではデータ分析の基礎的な部分に重点を置いて講義する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学系科目	数理科学3b	この科目では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の基礎知識、および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には、標本分布論、推定論、検定論という推測統計の主要な話題を取り扱う。また、ベイズ統計や機械学習などの中から、受講者にとって、興味がもてて適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを目指す。なお、この科目では「数理科学3a」を踏まえ、より進んだ発展的な内容を講義する。	
		科学論1a	実証主義に基づく現代科学の本質およびその方法論について講義形式で授業展開する。到達目標は以下の2つ。(1)現代の科学の根幹は実証主義にあり、観測や実験を通じて自然法則や基本法則の探求を目指している。その方法論が導入された歴史的な経緯を様々な科学史的な事例を通して学び、その科学的方法論の本質について理解すること。(2)科学的方法論が現代の実生活／実社会においてどのように適用、応用されているかを認知すること。科学論1aにおける授業計画としては、次の2つのテーマを主な題材とする。(1)自然淘汰による適応／進化論について、人類がどのような紆余曲折を経て正しい理解へと到達してきたのか(2)宇宙の巨視的な構造を人類がどのように認知してきたのか。	
		科学論1b	実証主義に基づく現代科学の本質およびその方法論について講義形式で授業展開する。到達目標は以下の2つ。(1)現代の科学の根幹は実証主義にあり、観測や実験を通じて自然法則や基本法則の探求を目指している。その方法論が導入された歴史的な経緯を様々な科学史的な事例を通して学び、その科学的方法論の本質について理解すること。(2)科学的方法論が現代の実生活／実社会においてどのように適用、応用されているかを認知すること。科学論1bにおける授業計画としては、次の2つのテーマを主な題材とする。(1)集団で生活し、コミュニティーを形成する動物の社会性について、人間のそれと比較し、動物としての人間とはなにか、あるいは人間性とはなにか考える(2)自然界の極微の世界、すなわち原子や分子、素粒子の世界を人間はどのように認知してきたのか。	
		科学論2a	近代日本に特有の科学の理解の仕方とその歴史的背景を説き起こし、西洋科学の長い歴史をたどる中から成立の由来を探り、さらに近代科学に基づいた技術の力強さの秘密とそれが抱える問題点に言及する。そして科学がいかなる構造と射程をもつ知的営みであるのかを解説する。最後に高度な科学技術が制度化された現代社会が抱えている困難な諸問題について具体的事例を取り上げて論じる。個々人の判断が迫られる現代社会においては、一人一人が科学的素養に基づき、適切な判断や選択をする必要がある。そのため、この授業では、受講生が、科学的知識に対する理解、科学的なものの考え方を身につけることができることを到達目標とする。	
		科学論2b	講義では人間を対象としていることから、生命はどのように誕生するのかといった人間の内なる環境が研究対象となる点で、生命の尊厳と深くかかわる。講義では「生命とは何か」、「ヒトはどのように進化してきたのか」、「地球環境問題と人間社会の持続の発展に必要なものは何か」、「高齢化社会と人口問題」、「生物多様性保全」など、生命科学に関わる重要な諸問題を理解するための知識と、科学的考え方を身につけるため、生命科学に関する基礎的知識を学習した後、続いて生理的側面から現代社会が直面するヒトの生命に関わる課題に対する理解を深め、そして、生命倫理や生命技術、生物多様性と生態系の保全といった現代社会と地球環境に関わる課題についても、生命科学的視点から論じる。	
	融合領域科目	学際科目1	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)東アジア世界がどのように形成されたかを説明することができる、(2)中国大陸・日本列島・朝鮮半島の古代文化の相違点と共通点とを理解することができる、を到達目標とし、地域の多様性を示すひとつとして、東アジア世界を取り上げ、この東アジア世界が内部に多様性をもちつつも、ひとつの世界としてどのように形成され、変化していったのかについて講義形式で論ずる。	
		学際科目2	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)東アジア世界の近代化を説明することができる、(2)東アジア地域における今日の課題を考察することができる、を到達目標とし、地域の多様性を示すひとつとして、東アジア世界を取り上げ、この東アジア世界が内部に多様性をもちつつも、ひとつの世界としてどのように変化していったのかについて、講義形式で論ずる。	
		学際科目3	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、法と社会に潜む「ジェンダー(社会的性差)」に気付き、自発的に「ジェンダー的知性」を開発できるようになることを到達目標とし、「ジェンダー」という言葉から始まり、何故、それが当たり前のものとして社会に存在してきたのかについて、歴史から探ったうえで、法や社会のあらゆる場に存在する「ジェンダー」を知り、社会構造そのもののあり方、について講義形式で論ずる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	融合領域科目	学際科目4	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、ユニバーサルデザインやアクセシビリティ、ジェントロジーについての学習を通じて、(1)社会における高齢者や障がい者も含めた多様な人々が社会に参加する手段を考えることができる、(2)情報化社会で多様な人々がコンピューターやネットワークの恩恵を受けるために必要なことを考えることができる、(3)超高齢社会において必要な解決策に貢献することができる、を到達目標とし、高齢社会における課題を分析し、解決を目指す学問分野であるジェロントロジーについて紹介した上で、超高齢社会における課題解決策の中からユニバーサルデザインとアクセシビリティについて、アクティブ・ラーニングも取り入れながら、講義形式で論ずる。	
		学際科目5	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、パラスポーツ(障がい者スポーツ)に関心を持ち、そこにある課題を抽出したり、障がい者に対する日本の取り組みの課題点を探ることにより、解決のための具体的な方策を提案できる、を到達目標とし、パラスポーツ実践者や精通する専門家から、パラスポーツやそれを取り巻く現状、各々が直面している課題について解説してもらい、課題解決の方策を考える。	
		学際科目6	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、人類と自然環境との関連について、各専門分野の研究結果を知るとともに、より巨視的な観点から人間と自然環境の関わりを論じられるような多角的・総合的な見方を身につけられることを到達目標とし、人文科学・自然科学の立場から人類の文明論を踏まえた上で、人類の営みが自然環境と接触する場面を各分野の観点から、講義形式で論ずる。	
		学際科目7	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、映像、映画といったメディアに対して、裏に潜んでいるメッセージを探り出し、隠されている意味や意図を読み解くことができる、ことを到達目標に、初期から今日に至るまでの映像表現の変遷を概観した上で、具体的な作品、テーマに従って作品を取り上げ、そこにおけるメッセージ性、文化、言語の問題(たとえば字幕)、隠された主題等を読み解きながら、今日的な映像表現のあり方を講義形式で論ずる。	
		学際科目8	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、普段、ふつうに目に触れたままになっているものや、見過ごしているもの(自然・民話・アニメ・食事・インターネット・ゲーム・新聞雑誌など)に対して、視点をずらして、そこにもう一度関連性等を探ることによって、隠れていた意味を見出すことができる、を到達目標に、さまざまなテーマ、素材に触れながら、単に情報としてではなく、そこに自分なりの意味を見出し、さらに解決すべき問題を設定できるよう、講義形式で論ずる。	
		学際科目9	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、アジアの思想の基本を理解すると同時に、それにおける身体観を理解し、身体の問題を自分自身でも考えられるような問題意識を持つことを到達目標とし、アジアの身体観を考えることによって、身体を精神と切り離して考えたり、機械的な部分品の集合と考えたりしがちな私たちの身体観を再考するしつつ、日本や西欧の身体観とも比較しながら、アジア的な身体観の特徴について、講義形式で論ずる。	
		学際科目10	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)ベトナムの経済及び産業・社会・文化の情勢について理解すること、(2)ベトナムの現況について説明できることを到達目標とし、現代のベトナムへの理解を深めるために、ベトナムの現況を経済、産業、社会、文化など様々な分野から検討し、ベトナム社会のありようを学際的、かつ実証的に明らかにする。本講義は講義形式で行われる。	
		学際科目11	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義は、(1)グローバリゼーションの現状と課題を理解し、「持続可能な消費」のあり方を能動的に考えることができる、(2)ロジカルシンキングの手法を身につけることができる、(3)チーム内の合意形成の手法を身につけることができる、を到達目標とし、生活および生活者が直面するグローバリゼーションのメリットとデメリット、生じている課題を生活者・市民の視点に立って検証する、「持続可能な消費」を兼ね備えた「豊かな社会」のあり方について、講義のほか、ワークショップやグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	融合領域科目	学際科目12	この科目は、1つのテーマについて複数の学問分野からのアプローチがあることを示しながら、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義は、(1)メディアコンテンツの産業・市場・政策、(2)メディアコンテンツの事業の設計と運用(製作)、(3)メディアコンテンツの表現・制作工程と技術について、具体的な事例を通して理解できる、を到達目標とし、メディアコンテンツ領域の総体を、表現・制作、製作・事業プロデュース、産業・市場、政策、技術など専門的な視点からのアプローチを通して学習していく。講義形式で行うが、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
		テーマ科目	この科目は、新しい領域のテーマに柔軟に対応することや特定の学問領域の理解を深め、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。(1)「環境」概念や環境思想の歴史的変遷を理解し、自分の言葉で説明できる、(2)「環境」概念や環境思想の発生と変化の背後にあった、政治的・経済的・社会的な要因を理解することで、ヨーロッパとアメリカの社会が近代以降たどった歴史的変化を理解できる、(3)「環境」や「自然」という概念について、歴史的な知識に基づく自分なりの理解を形作る、を到達目標とし、世界的に大きな影響を及ぼした、ヨーロッパとアメリカにおける環境思想の発展を中心に、その歴史を講義形式で概観する。	
		新領域科目1	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)専修大学の歴史について概略を説明できる、(2)専修大学が誰によって、どのような目的で設立されたのかを説明できる、を到達目標とし、専修大学の歴史のみならず、日本近現代の政治・経済・社会・文化において大学や学生がどのような役割を果たしたのかについて、講義形式で論ずる。	
		新領域科目2	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)大学卒業時に学生が自身の働き方を選択するにあたり、より広い選択肢を認識できる、(2)パラレルワークに代表される次世代の働き方の意義を理解できる、(3)自らのキャリアに関心をもち、必要な内容に関しては自ら調べ、考える態度を持つ、を到達目標とし、将来の職業選択の考え方のフレームワークを身につけるために、講義形式とディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングも取り入れた形式で行う。	
		新領域科目3	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)海洋と人文科学・社会科学との関連について理解し、説明することができる、(2)海洋の自然科学的な性質や特徴を理解し、説明することができる、(3)海洋を取り巻く諸問題を取り上げ、その解決策を提案できる、を到達目標とし、地球環境のみならず、文化や政治・経済の面で人間生活に大きな影響を与える「海洋」について、講義形式で論ずる。	
		新領域科目4	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、(1)スポーツデータを中心としたビッグデータの活用事例を理解する、(2)人口統計データの分析を通して高齢化社会の経済と諸問題を理解する、(3)機械学習による予測手法の概要と使用法を理解する、(4)問題解決にあたってビッグデータ活用を計画し実践できる、を到達目標とし、現代社会の諸領域のビッグデータの理解と融合することで統計リテラシーを高め、人口統計データの分析方法や機械学習による予測手法を学ぶことでビッグデータ活用を身近な課題と捉えてデータの収集分析から問題解決につなげる方法を習得する。講義形式を基本としつつ、統計解析ソフトを実際に用いるなどの形式で行う。	
		新領域科目5	この科目は、人文科学・社会科学・自然科学の複数の領域にまたがるテーマなど従来の学問分野を超えたテーマを取り上げることで、思考力に総合的な分析力や判断力を養い、専門科目と教養科目での学修内容を有機的に結びつけることを目的とする。本講義では、眼前のランドスケープの機能や構造を成立させているシステムやメカニズムを捉える様々な論点・見方があることを理解し、ヒト、社会、自然生態系の相互関係を複眼的・総合的に思考できる力を獲得することを到達目標とし、都市域、農村地域、自然公園など、多様な環境特性のもとで展開されている事例を対象に、生態学(植物、動物)、社会学(観光・ツーリズム)、造園学(庭園、公園緑地)、地域計画学(都市・農村)、法制度論など学際的視点から、ヒト、社会、環境との相互関係の理解を深め、持続可能な社会を実現する上での課題について、講義形式で論ずる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	融合領域科目	キャリア科目1	本科目は、業界・業種、職業・職種といった「環境の理解」を通して、志望する業界・業種、職業・職種、企業を選べる能力の習得を目的とする。具体的には企業組織論や産業論の観点から、今後の企業組織や産業社会の展望の理解を深めたうえで、自分のキャリアに対する考え方を確認し、多方面から招く実務者の講義とグループワークで理解の定着を図る。これらから、自らが描いたキャリアデザインを実現できる業界や職種を具体的にイメージし、そのために必要な能力開発する計画を展望できるようにする。	
		キャリア科目2	本科目は、企業が抱える現実の問題の解決方法を考えるプロセスを通じて、仕事を遂行するために必要な能力について理解し、自己のキャリアについて考えを深めることを目的とする。具体的には、協力企業から提示された現実の問題に対しチームで取り組みながら、プロジェクト・マネジメントを中心としたチーム学習および課題解決の技法を用いて問題を多面的に分析し、解決策を提示する。講義ではディスカッションとプレゼンテーションを複数回実施し、定期的に企業の方から感想をもらう。これらを通じて、「キャリアデザインに必要な力」の中で特に「プレゼン力」「論理思考力」「人間関係構築力」「課題解決力」を養う。最後にこのプロセスを通した学びを自分のキャリアに対する考え方に照らし合わせ、残りの学生生活と自身の将来の進路について具体化する。	
		教養テーマゼミナール1	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論をすることができるという特徴がある。研究テーマは自然科学から演劇、スポーツまで幅広く、専門領域を超え、広い視野を身に付けることができる。「教養テーマゼミナール1」では、一次資料の正しい用い方、二次資料の批判的な読み込み方、及び創造的論考の修練を身につけることを目的としている。	
		教養テーマゼミナール2	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論をすることができるという特徴がある。「教養テーマゼミナール2」では、「教養テーマゼミナール1」で得た基礎的知識をもとに、自分で掲げた課題についての考察を行うことを目的としている。	
		教養テーマゼミナール3	小人数の相互コミュニケーション的教育を行うことを重視し、「教養テーマゼミナール」を設置している。この「教養テーマゼミナール」は、学部の枠にしばられずに学部横断的に履修することができるので、異なった学部の学生が共に学び、議論することができるという特徴がある。「教養テーマゼミナール3」では、これまでに学習してきた資料の取り扱いや、具体的な分析を通じて、各自が独自の視点で、どのように個々の問題にアプローチし、全体的に把握していくかということを問題にし、教養ゼミナール論文の執筆を前提としている。	
		教養テーマゼミナール論文	「教養テーマゼミナール論文」の執筆を求めるこの科目では、それぞれの関心にもとづいて、研究論文をまとめることを求められる。既に学んでいる資料の取り扱い方を基本に、ゼミナールで行っている研修などを元にしたテーマの選択がまずは問題となる。なお、執筆に際しては、個々の学生に具体的な指導が行われる。執筆したものについては、単位認定の他に、年度末に実施される、教養テーマゼミナール論文発表会での発表が求められる。	
	保健体育系科目	アドバンストスポーツ	授業形態：実技形式。目標：各スポーツの特徴や構造を理解し、さまざまな状況に応じた技術や戦術を選択・実践することでスポーツの楽しみを広げ、生涯に渡り安全かつ健康的な生活を営む能力を養う。概要：スポーツを専門的レベルから学び、幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともにトップアスリートとの交流、審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学習などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につける。	
		スポーツ論（健康と生涯スポーツ）	授業形態：講義形式。目標：スポーツ・運動に関する知識だけでなく、現代社会における生活習慣も問題点、食生活、ダイエットなどについて正しい知識を身につける。概要：わが国は科学や医学の大きな進歩、発展により平均寿命は世界でもトップの長寿国となっているが、その反面、肥満、高血圧、心理的ストレスといった生活習慣病や環境の変化にともなうストレス等に悩まされる人が多く、現代社会で生活していく人々にとって、いかに健康を維持・増進していくかが大きな問題になっている。どのように健康増進、体力向上に結びつくのか、スポーツ・運動することによってどのような効果が見られるのかを学び、自分自身のよりよい生活を送れる方法として生涯スポーツを学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	保健体育系科目	スポーツ論（オリンピックとスポーツ）	授業形態：講義形式。目標：オリンピックの歴史的背景や取り巻く環境を理解する。トップレベルのコンディショニングのプロセスを理解する。スポーツ科学を通して人間の可能性について学び、競技スポーツと生涯スポーツとの共通点、相違点を理解する。概要：オリンピックなど世界的な競技力向上を目指すためには、最新の知識やトレーニング方法などの必要性で、スポーツ科学を無視することはできない。また、勝利を得るためには、選手の才能や努力はいうまでもなく、彼らを支えるコーチ、メディカルドクター、トレーナーなどのサポート環境が不可欠である。これらについて、日本と世界における環境の違いを紹介する。オリンピックを目指すコンディショニングについては、科学的手法を用いて主観的感覚を客観的事実として導き出し整理する。本講義では、オリンピックの歴史的背景からスポーツ科学の必要性を見つめ、さまざまな学問的領域から包括的に捉える。	
		スポーツ論（スポーツコーチング）	授業形態：講義形式。目標：スポーツコーチングに関する正しい知識を身につけ、現場で役立てられるようにする。また、現役選手として活動している学生にとっても、有意義なスポーツライフを送ることができるよう、自身のコーチとしての知識やスキルを身につける。概要：コーチには選手を育成するうえで、選手個人やチームを対象に広い視野から身につけておくべき知識やスキルがある。本講義ではコーチング哲学、人格教育とスポーツマンシップ、発育発達と多様な選手へのコーチング、評価活動とコーチング計画の立案、チームマネジメント、コミュニケーションスキル、スポーツ心理学、スキル指導の原則、スポーツバイオメカニクス、フィジカルトレーニングの原理・原則、薬物教育とスポーツ栄養学、スポーツ外傷・障害予防と対策、コーチングへのICT活用など、コーチに求められる知識やスキルを理解し、現場での実践的なスポーツコーチングを学ぶ。	
		スポーツ論（スポーツライフデザイン論）	授業形態：講義形式。目標：運動・栄養・休養と身心との関わりを理解し、将来的により健全な生活を送るための方法を思案し実践することができる。概要：子どもの体力・運動能力の低下とともに、学力・意欲の低下が懸念されている。一方、超高齢少子化社会へと進む中でメタボやロコモの概念が広がり、それらへの対策が課題となっている。近年、運動が身体のみならず、脳や心にも良い効果を生み出す数多くの研究成果が発表され、改めてスポーツのQOL向上への貢献が期待されている。大学生は身体的、精神的に成熟へと向かう発育発達の最終段階ともいえる大事な時期であり、社会人として自立した生活を営む準備期間となりえる。スポーツ・運動に関する有益な情報を整理し、客観的なデータを得ながら実践を試み、今を豊かに、そして未来を豊かに生きる力を養うことを目的とする。	
		スポーツ論（人類とスポーツ）	授業形態：講義形式。目標：世界中で昔から親しまれてきたさまざまな身体活動やスポーツの歴史的・文化的背景を学ぶことにより、世界を知り、国際人たる幅広い視野を身につけていく。概要：スポーツや身体活動を人類学・社会学的視点から学ぶ。近代に創られたスポーツがどのような経緯で世界に拡大し、日本でどのように受容されていったかを捉え、“ヒト”と“スポーツ”あるいは”身体活動”の関わり合いを深く探究し、これまで知らなかった世界の姿を理解し、国際人となるために広い視野をみにつけ、近代社会から現代社会でのスポーツの変容を理解できるようになる。	
		スポーツ論（トレーニング科学）	授業形態：講義形式。目標：スポーツの指導的立場にいたり、将来、スポーツとの関わりを志したりする学生が、スポーツトレーニングに関する正しい知識を身につける。概要：スポーツにおける人間の限界への挑戦は、科学的で合理的なトレーニングが求められ、情報戦、心理戦といった高等戦術が駆使される。勝つためにはどのようなことを心得ておけばいいか。どのような科学的トレーニングや戦術の組み立てをしたらいいか。身体能力を高めるためにはどうしたらいいか。スポーツする「からだ」を直接の対象とし、スポーツを行うときの「からだ」はどのように変化するか。運動という負荷に対し「からだ」はどのように反応し、適応するか。こうした問いをスポーツトレーニングという意味空間に限定し、その根拠を探ろうとする。	
外国語科目	英語	Basics of English (RL) 1a	入学後に実施するプレイスメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、基本的な情報を正確に読み取り、聴き取ること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。高校レベルの文法の復習・定着と約2,300語の習得を目安とし、大学での語学学修の土台作りをする。	
		Basics of English (RL) 1b	高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けて基礎的な演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、基本的な情報を正確に読み取り、聴き取ること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。高校レベルの文法の復習・定着と約2,300語の習得を目安とし、大学での語学学修の土台作りをする。	
		Intermediate English (RL) 1a	入学後に実施するプレイスメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、読解力と聴取力を養成するための演習を行う。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、情報や価値観を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。Midレベルでは約3,000語の習得を目指し、Highレベルでは4,000語水準に近づく習得を目安とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語	Intermediate English (RL) 1b	入学後に実施するプレイスメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、読解力と聴取力を養成するための演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、情報や価値観を正確に読み取り、聴き取ることができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。Midレベルでは約3,000語の習得を目指し、Highレベルでは4,000語水準に近づく習得を目安とする。	
		Basics of English (SW) 1a	入学後に実施するプレイスメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、身近なことがらについて表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な表現を学び簡単な和文英訳及び初歩的な会話ができるように指導を行う。	
		Basics of English (SW) 1b	入学後に実施するプレイスメントテストの成績に基づき、高校までの学習が十分に定着していないと判断された層に向けた基礎的な演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を得ること、英語を用いて、身近なことがらについて表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な表現を学び簡単な和文英訳及び初歩的な会話ができるように指導を行う。	
		Intermediate English (SW) 1a	入学後に実施するプレイスメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、英語表現力を養成するための演習を行う。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、自分の考えや判断を表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な和文英訳に加えて簡単なパラグラフによる作文ができ、簡単な会話ができるように指導を行う。	
		Intermediate English (SW) 1b	入学後に実施するプレイスメントテストの成績に基づき、高校までの学習成果が一定の基準に達していると判断された層に向け、英語表現力を養成するための演習を行い、1年次前期に学んだ内容の定着をはかる。習熟度によってHigh、Midの2レベルに分け、それぞれに適した教材・タスクを課しながら指導する。前期の未習内容に関して、英語の文法・語彙・音声について実践的な知識を得ること、英語を用いて、自分の考えや判断を表現することができること、異文化に対する理解を深めることを目標とする。基本的な和文英訳に加えて簡単なパラグラフによる作文ができ、簡単な会話ができるように指導を行う。	
		General English	Basics of English, Intermediate Englishの単位を修得できなかった学生を対象に、苦手意識を克服して次のステップへ進めるよう、4技能を満遍なく補習させることで語学学修の土台作りをする指導を行う。基本的な英文法・語彙・音声の復習を行い、確実に身につけること、平易な英語による情報を正確に読み取ったり聴き取ったりできること、平易な英語で身近なことがらについて表現することができることを目標とする。	
		English Speaking a	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語母語話者による授業を通じて、英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指すほか、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを目標とする。授業中の活動としては、(1)実用的な文法知識を確認しながら発音と会話速度を向上させる活動、(2)日常生活で使われる基本的な会話を練習する活動、(3)異文化について学習する活動などがある。また、授業で扱ったトピックについてペアで、あるいは小グループで話し合う活動も含まれる。	
		English Speaking b	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語母語話者による授業を通じて、英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指すほか、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを目標とする。授業中の活動としては、(1)実用的な文法知識を確認しながら発音と会話速度を向上させる活動、(2)日常生活において有用で発展的な会話を練習する活動、(3)異文化についてより理解を深める活動などがある。また、授業で扱うトピックについてペアで、あるいは小グループで話し合う活動も行う。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
		Computer Aided Instruction a	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-leaning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受けることで、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とする。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語	Computer Aided Instruction b	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-leaning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受けることで、英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とする。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
		Computer Aided Instruction for TOEIC a	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-leaning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受ける。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とするほか、TOEICに対応できる英語力の養成を目指す。	
		Computer Aided Instruction for TOEIC b	英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目であるが、自律的、持続的な学修を特に習慣づけるため、1年次からも履修できることとする。主にe-leaning教材を使用し、学生はシステムを利用して毎週決められた最低限の時間以上の英語学習を各自で行い、教員のサポートを受ける。毎回の授業では各自の学習が十分効果的に行われているかを確かめるための様々な総合的演習を行う。英語の文法・語彙・音声について基礎的な知識を身につけることを目標とするほか、TOEICに対応できる英語力の養成を目指す。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
		Advanced English a	必修英語の履修を終えた後、さらに英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語の文法・語彙・音声について、発展的、実践的な知識を身につけるほか、実用英語技能検定、TOEFL、TOEICなどの資格試験に対応できる英語力を目指す。例えば、語彙力・聴取力・発話力・文法知識など特定の力の増強を図る授業、日本語を介さずに英文を解釈し論じる授業、資格試験での得点アップを目標とする授業など、内容は多種多様となる。	
		Advanced English b	必修英語の履修を終えた後、さらに英語の知識や運用能力を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語の文法・語彙・音声について、発展的、実践的な知識を身につけるほか、実用英語技能検定、TOEFL、TOEICなどの資格試験に対応できる英語力を目指す。例えば、語彙力・聴取力・発話力・文法知識など特定の力の増強を図る授業、日本語を介さずに英文を解釈し論じる授業、資格試験での得点アップを目標とする授業など、内容は多種多様となる。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
		English Language and Cultures a	必修英語の履修を終えた後、さらに英語や英語圏の文化についての知識を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語や英語圏の文化などに関する幅広い内容を教材として、英語運用能力を身につけること、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを主たる目標とする。例えば、特定の文化圏や作家・作品、音楽や映画を題材に、差別や人権、戦争、移民といった社会問題について考えさせたり、ディスカッション、プレゼンテーションを課してコミュニケーション能力の増強を図ったりする授業を展開する。	
		English Language and Cultures b	必修英語の履修を終えた後、さらに英語や英語圏の文化についての知識を増強することを目指す学生向けの選択科目である。英語や英語圏の文化などに関する幅広い内容を教材として、英語運用能力を身につけること、異文化に関心を持ち、国際社会の一員として協調してゆける知識と態度を身につけることを主たる目標とする。例えば、特定の文化圏や作家・作品、音楽や映画を題材に、差別や人権、戦争、移民といった社会問題について考えさせたり、ディスカッション、プレゼンテーションを課してコミュニケーション能力の増強を図ったりする授業を展開する。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
		English Presentation a	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。自己紹介や身近な話題について英語で発表することから始めて，卒論や留学時に必要となるアカデミック・プレゼンテーションや、将来ビジネスの現場で必要となる様々なビジネス・プレゼンテーションの方法を実践的に学ぶ。英語を用いて、自分の考えや判断を口頭で発表し効果的に伝達することができること、英語を媒介として、国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考することができることを目標とする。	
		English Presentation b	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。自己紹介や身近な話題について英語で発表することから始めて，卒論や留学時に必要となるアカデミック・プレゼンテーションや、将来ビジネスの現場で必要となる様々なビジネス・プレゼンテーションの方法を実践的に学ぶ。英語を用いて、自分の考えや判断を口頭で発表し効果的に伝達することができること、英語を媒介として、国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考することができることを目標とする。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語	English Writing a	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。平易な英語による自己表現、メール・手紙の書き方、パラグラフの展開の仕方、小論文(essay)の書き方などを段階的・実践的に学んでいく。正確で明晰な英語の文章によって、自分の考えや判断を表現することを目指すほか、英語を媒介として国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考できることを目標とする。	
		English Writing b	グローバル社会で活躍していきたい学生のニーズに応えるための選択科目である。平易な英語による自己表現、メール・手紙の書き方、パラグラフの展開の仕方、小論文(essay)の書き方などを段階的・実践的に学んでいく。正確で明晰な英語の文章によって、自分の考えや判断を表現することを目指すほか、英語を媒介として国際社会の諸問題について論理的・分析的に思考できることを目標とする。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
		Screen English a	より実際的な言語使用場面(context)における英語の運用能力を育成することを目指す学生向けの選択科目である。主に映画を教材として使用し、映画ならではの英語口語表現のパターンや特徴の実例に慣れ親しむことで、口語英語の文法・表現・音声について、基礎的な知識を得ることを目標とする。また、映画作品の背景にある文化や社会についての知識を深める。	
		Screen English b	より実際的な言語使用場面(context)における英語の運用能力を育成することを目指す学生向けの選択科目である。主に映画を教材として使用し、映画ならではの英語口語表現のパターンや特徴の実例に慣れ親しむことで、口語英語の文法・表現・音声について、基礎的な知識を得ることを目標とする。また、映画作品の背景にある文化や社会についての知識を深める。この科目では、前期に学修した内容をふまえ、さらなる発展的な演習を行う。	
	英語以外の外国語	ドイツ語初級1a	ドイツ語の入門科目であり、「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能を、バランスよく学ぶことを目的とする。基本的かつ実践的な語彙や表現を繰り返し練習することによって、初級に求められる基礎表現を修得する。ドイツ語初級Ｉaでは、まず発音の練習を重点的に行い、ドイツ語に特有の発音やリズムを学修する。さらに、ドイツ語圏の社会や文化などに関する基礎的な知識を併せて学ぶことで、その理解を深め、ドイツ語圏への関心を高める。	
		ドイツ語初級1b	ドイツ語初級1aに引き続き、「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能をバランスよく学び、ドイツ語の運用能力を養う。具体的には、実践的な語彙や表現を繰り返し練習することによって、初級レベルに必要な基礎表現を習得する。ドイツ語初級1bにおいては、単語の個々の発音でなく、文全体としてのイントネーションやリズムに注意しながら声に出して「読む」ことを重視する。さらに、社会や文化に関してより深い理解を目指し、中級への橋渡しとする。	
		ドイツ語初級2a	ドイツ語初級2aは、ドイツ語初級1aと連動しながら、ドイツ語の基本的な文法規則を、体系的に学んでいく。さらに、インターネットなどを通じて、授業外での学生の自律的な学修を促す。ここで習得すべき主要な文法項目は、アルファベートと基礎的発音、動詞の現在人称変化、冠詞類の変化、複数、人称代名詞、前置詞、助動詞である。これらの学修を通じて、ドイツ語の基礎的な運用能力の定着を図るとともに、ドイツ語を通じた直のドイツ文化理解を深める。	
		ドイツ語初級2b	ドイツ語の基本的な文法規則を体系的に学ぶだけでなく、授業外での自律的学習を促す。ドイツ語初級2bで習得すべき主要な文法項目は、複合動詞、未来時制、三基本形、過去と完了である。なお、形容詞の用法、付加語形容詞の格変化語尾、再帰動詞、再帰代名詞は教科書、単元に応じて、ドイツ語初級2aもしくはドイツ語初級2bで適宜扱う。また形容詞・副詞の比較変化、受動態、関係代名詞、zu不定詞、接続法はドイツ語中級1aで学修する。	
		フランス語初級1a	フランス語初級1aは、フランス語の入門科目として、基礎となる発音、綴り字の読み方、会話におけるリズムなどの習得を目標に、練習を行う。さらに日常における会話表現や語彙を習得することを、第二の目的とする。文法事項の整理を行いながら、実際の言葉の運用面を重視した授業を展開し、フランス語によるコミュニケーション能力の充実を図るとともに、フランスおよびフランス語圏の文化に対する理解を深めることを目指す。具体的には、アルファベからスタートし、動詞の運用などに注意しながら、フランス語の特色を理解する。	
		フランス語初級1b	フランス語初級1bは、フランス語の入門科目としてフランス語初級1aの後を受け、引き続き日常における会話表現や基礎となる語彙を習得し、いっそう充実させることを目的とする。具体的には、動詞の使い方を軸に、直説法による表現、さらに条件法、接続法の使い方まで視野にいれた展開をする。実際の言葉の運用面を重視した授業を展開し、とくに口語によるフランス語によるコミュニケーション能力の充実を図るとともに、フランスおよびフランス語圏の文化に対する理解を深めることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	フランス語初級2a	フランス語の入門科目として、基礎となる文法事項の習得を目標とした授業を行う。フランス語初級2aでは、学修対象を名詞グループ、動詞グループの二つに大きく分けた上で、フランス語学習上最低限必要と思われる主語および動詞の機能を、名詞、冠詞、形容詞、動詞（現在形）およびそれに付随する要素の組み立てを中心に学習し、主にコミュニケーション力を養うフランス語初級1aの授業と連動しつつ、ここではフランス語を書くこと、および書かれたフランス語の理解力を養成する。	
		フランス語初級2b	フランス語の入門科目として、初級2aの後を受け、基礎となる文法事項の習得を目標とした授業を行う。初級2bでは、主として動詞グループの使い方に焦点を当てた上で、フランス語学習上最低限必要と思われる動詞の機能を、過去、未来、仮定表現、意思表現としてどのように扱うかを学習し、主にコミュニケーション力を養う初級1bの授業と連動しつつ、ここではフランス語を書くこと、および書かれたフランス語の理解力のいっそうの養成を目指す。	
		中国語初級1a	中国語を初めて学ぶ学生を対象に、まず発音とピンイン表記の修得を目指す。続いて、基礎的な語法の修得、例えば「是」を使った構文、形容詞述語文、「来」「去」「吃」「看」など基礎的な動詞を用いた構文、「有」を使った構文などを学習する。「読（読む）」「説（話す）」「聴（聴く）」「写（書く）」の最も基礎的な総合力を養う。	
		中国語初級1b	初級1aの後を受け、発音とピンイン表記を再度確認しつつ、より進んだ語法の修得を目指す。具体的には、補語（状態補語、結果補語、方向補語、可能補語など）、助動詞、「了」「着」などを用いた動態の表現、使役構文、処置式などの修得が含まれる。初級1b修了の時点では、中級に進むのに必要な初級の文法事項を修得し、比較的容易なレベルの「読」「説」「聴」「写」が出来るようになる。	
		中国語初級2a	中国語を初めて学ぶ学生を対象に、まず発音とピンイン表記の修得を目指す。続いて、基礎的な語法の修得、例えば「是」を使った構文、形容詞述語文、「来」「去」「吃」「看」など基礎的な動詞を用いた構文、「有」を使った構文などを学習する。「読（読む）」「説（話す）」「聴（聴く）」「写（書く）」の最も基礎的な総合力を養う。	
		中国語初級2b	初級1aの後を受け、発音とピンイン表記を再度確認しつつ、より進んだ語法の修得を目指す。具体的には、補語（状態補語、結果補語、方向補語、可能補語など）、助動詞、「了」「着」などを用いた動態の表現、使役構文、処置式などの修得が含まれる。初級2b修了の時点では、中級に進むのに必要な初級の文法事項を修得し、比較的容易なレベルの「読」「説」「聴」「写」が出来るようになる。	
		スペイン語初級1a	スペイン語を初めて学習する者を対象とし、スペイン語の文字体系と発音の法則をはじめ、名詞と形容詞、直説法現在の最重要基本動詞と規則活用動詞などの理解を図る。その上で、これらを用いて「読む」・「書く」・「聴く」・「話す」ための総合的なスペイン語力を養う。文法的理解はもちろんのこと、それらを実践的に用いることができるようになることを主な目的とし、同時に受講者がスペイン語圏に対する興味を深めるきっかけも提供する。	
		スペイン語初級1b	スペイン語初級1bでは、スペイン語初級1aを引き継ぎ、直説法現在語根母音変化動詞とその他不規則動詞ならびにその用法、目的格人称代名詞、再帰用法などの理解を図る。その上で、それらを用いて「読む」・「書く」・「聴く」・「話す」ための総合的なスペイン語力を養う。文法的理解はもちろんのこと、それらを実践的に用いることができるようになることを主な目的とし、同時に受講者がスペイン語圏に対する興味を深めるきっかけも提供する。	
		スペイン語初級2a	スペイン語初級2aは、スペイン語初級1aと連動しながら、スペイン語を初めて学習する者を対象とし、スペイン語の文字体系と発音の法則をはじめ、名詞と形容詞、直説法現在の最重要基本動詞と規則活用動詞などの理解を図り、練習問題を行うことで各文法事項の理解を深めることを主な目的とする。同時に、短い読み物や対話文の読解および平易なスペイン語文を実際に作る作業を通して、その知識を実践に移すとともに、受講者がスペイン語圏に対する興味を抱くきっかけも提供する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	スペイン語初級2b	スペイン語初級2bでは、スペイン語初級2aを引き継ぎ、スペイン語の理解を深めながら、直説法現在の語根母音動詞とその他不規則動詞ならびにその用法、目的格人称代名詞、再帰用法などの文法項目の理解を図り、練習問題を行うことで各文法事項の理解を深めることを主な目的とする。同時に、短い読み物や対話文の読解および簡単な自己紹介文の作成といった作業を通して、その知識を実践に移すとともに、受講者がスペイン語圏に対する興味を抱くきっかけも提供する。	
		ロシア語初級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級1aでは、ロシア語のアルファベットの学習から始めて、基本的な動詞や名詞の変化などを学ぶ。	
		ロシア語初級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた同一の教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級1bでは、ロシア語初級1aに続いて、より複雑な変化や構文などを学び、初等文法を一通り終える。	
		ロシア語初級2a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級2aでは、ロシア語初級1aと共に、ロシア語のアルファベットの学習から始めて、基本的な動詞や名詞の変化などを学ぶ。	
		ロシア語初級2b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、その初等文法を学びながら、ロシア語の基本となる語彙と文型、日常的な基本表現を習得し、ロシア語の簡単な文章が読み書きできるようになることが目標である。そのため、比較的文法事項が詳しく、音声CDも付いた同一の教科書を使用して、ロシア語の基礎を学ぶ。ロシア語初級2bでは、ロシア語初級1bと共に、ロシア語初級2aに続いて、より複雑な変化や構文などを学び、初等文法を一通り終える。	
		インドネシア語初級1a	インドネシア語初級1aは、インドネシア語初習者を対象として、日本と親密な関係にあり、経済的にも文化的にも交流のさかんなインドネシアの社会の人々と意思疎通をする入り口としての基礎となるインドネシア語の修得を目標とする。文法に主眼を置く初級2aに対して、初級1aでは基礎的な会話の表現とその運用を主な学修内容とする。具体的には、まずインドネシア語の文字とその発音、日常的な挨拶、自己紹介から、さらにお礼やお詫びの語句、肯定・否定の表現、呼びかけや聞き返しの表現といった内容を学ぶ。	
		インドネシア語初級1b	インドネシア語初級1bは、1aで学修した内容を踏まえて、やさしい会話であれば、インドネシア語で不自由なく表現できるように、口頭練習を繰り返しおこなう。学修内容は、依頼や許可の表現、確認や願望や完了の表現のほか、実践的な場面設定をして、会話の練習をする。旅行者として現地に入国して、タクシーに乗り、ホテルに着き、レストランで食事をしたり、ショッピングをしたり、現地で道を尋ねるといった場面などでの実用的な言い回しができるようになる。	
		インドネシア語初級2a	インドネシア語初級2aは、インドネシア語初習者を対象として、日本と親密な関係にあり、経済的にも文化的にも交流のさかんなインドネシアの社会の人々と意思疎通をする入り口としての基礎となるインドネシア語の修得を目標とする。初級1aと連携を持ちながら、発音の仕方や、基礎的な語彙、基本例文の構造的な理解を身に付けることによって、簡単な文章が読めるようになる。初級2aでは、文法事項の修得を授業の軸として、インドネシア語のアルファベットの読み方と発音、名詞・名詞句、形容詞、比較文章、語幹のみ動詞、助動詞・副詞、数字、時間、Ber- 動詞などを学ぶ。	
		インドネシア語初級2b	インドネシア語初級2bは、初級2aで学んだインドネシア語の文法知識をベースとして、さらに基礎的なインドネシア語のしくみの理解を深めていく。具体的な内容としては、動詞のしくみ及び自動詞の練習（語幹のみ動詞）、Me- 動詞（他動詞）、命令文、接頭辞・接尾辞による名詞、受動態などである。また、実践レベルの目標として、学修内容に即しながら、簡単な日本語の文章をインドネシア語に訳したり、インドネシア語の短い話を日本語に訳したりできるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	コリア語初級1a	はじめてコリア韓国語を学ぶ学生を対象とし、コリア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、コリア韓国の文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。初級2aと比べれば、表現を繰り返し練習して身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ません」にあたるコリア韓国語の表現の作り方などである。	
		コリア語初級1b	コリア語初級1bは、初級1aで学修したハングルの書き方・読み方、いくつかの基本表現ができる学生を対象とする。1aの内容を確認しながら新たな基礎的文法と表現を学び、簡単な日常会話ができることを目指す。コリア語初級2bでは基本となる語彙、文法事項の修得に重点を置くのに対して、この初級1bでは表現を繰り返し練習して身に付けるところに重点をおく。具体的な学修内容は、打ち解けた表現、尊敬・命令・過去・意志・推量・希望・勧誘・様態・仮定表現の作り方などである。	
		コリア語初級2a	はじめてコリア語を学ぶ学生を対象とし、コリア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方、さらに基礎的な文法事項や基礎語彙を着実に学んだ上、辞書を片手に簡単な文章が読めるようになることを目指す。1aと比べれば、文法項目の学習および練習に重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ません」にあたるコリア語の表現の作り方などである。その他、異文化理解に役に立つ文化や生活習慣などに関する理解も深めていく。	
		コリア語初級2b	初級2aの内容であるハングルの書き方・読み方、いくつかの基本表現を習得している学生を対象とし、更なる基礎文法と語彙を学び、辞書を片手に簡単な文章が読めるようになることを目指す。初級1aと比べれば、文法項目の学習および練習に重点をおく。特に日本語との類似点、相違点に注意をはらいながら進めていく。具体的な学習内容は、打ち解けた表現、尊敬・命令・過去・意志・推量・希望・勧誘・様態・仮定表現の作り方などである。	
		ドイツ語中級1a	中級科目の基礎的な科目で、初級レベルのドイツ語1a・1bおよび2a・2bを習得を前提とした科目である。読む・聞く・書く・話す、の四分野のバランスを考えつつ、既に習得したドイツ文法の知識の復習から初め、初級文法後半の未修得項目（比較、受動態、関係代名詞、zu不定詞、分詞、接続法）の説明と練習へと進めて、ドイツ語の基礎的な初級文法の習得と理解を確実にする。実践的な課題としては、基本的にはドイツ語検定3級を受験するための準備となるようなドイツ語のレベルをめざす。	
		ドイツ語中級1b	ドイツ語の中級レベルのための基礎的理解を確実にする科目であり、読む・聞く・書く・話す、の四分野のバランスを考えつつ、ドイツ語1aにおいて未修得であった初級文法の落ち穂拾いから初めて、初級文法全体を視野に入れながら、それぞれの項目の応用的な練習を行って中級のレベルへと進める。1bでは、特に文章論を中心に、初級文法の理解を高度化しながら中級文法の理解を深める。基礎的な語彙数のレベルも上げて行く。基本的にはドイツ語検定3級を確実にする中級の応用力養成を目標とした、バランスのある練習の機会とする。	
		ドイツ語中級2a	ドイツ語の中級科目としては、1a・1bが主として初級文法の未修得部分の説明と練習を中心にした文法的な科目であるのに対して、2a・2bでは、「聞く」「話す」「読む」「書く」の各レベルのバランスを重視した総合的なコミュニケーションの練習を行う。特にドイツ語2aでは、できるだけ様々な素材を使用することによって、ドイツ語の多様な姿に触れつつ、応用的な力を養成する。2aでは初級レベルの知識を確実にすることを中心に、ドイツ語検定3級程度のレベルを確実にするための実践的な練習と説明を行う。なお、2aは多様な素材を扱うので、2年次・3年次と継続履修を可能としている。	
		ドイツ語中級2b	ドイツ語の中級科目としては、1a・1bが主として初級文法の未修得部分の説明と練習を中心にした文法的な科目であるのに対して、2a・2bでは、「聞く」「話す」「読む」「書く」の各レベルのバランスを重視した総合的なコミュニケーションの練習を行う。ドイツ語2bでは、2aでの学習を継続して、さらに様々な素材を使用することによって、ドイツ語の多様な姿に触れつつ、応用的な力の養成を進める。2aに引き続き、ドイツ語検定3級程度のレベルを確実にするためのさらなる実践的な練習と説明を継続する。なお、2a・2bでは多様な素材を扱うので、2年次・3年次と継続履修を可能としている。	
		フランス語中級1a	フランス語の中級科目として、初級科目の後を受け、土台となる文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をつけることを目標とした授業を行う。とくに中級1aでは幅広くフランス語を使う力を身につけることを目標とし、読み、書き、聞き、話すという四つの技能の力をバランスよく伸ばすことを目指す。同時に言葉だけではなくフランス文化への理解を深めることで、異文化コミュニケーション力を育成する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	フランス語中級1b	フランス語中級1bはフランス語の中級科目として、中級1aの後を受け、文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をさらにつけることを目標とした授業を行う。総合的な科目として、読み、書き、聞き、話すという四つの技能の力をバランスよく伸ばすことを目指し、受講生が専門の領域でフランス語を万遍なく発揮できる力を養成することを目指す。中級1aと同じく、異文化コミュニケーション力を育成する。	
		フランス語中級2a	フランス語中級2aは、フランス語の中級科目として、初級科目の後を受け、土台となる文法理解および表現力の定着と習熟をより確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をつけることを目標とした授業を行う。演習に重心を置いた科目として、担当教員が学習内容をいくつかのテーマに絞り(たとえば作文力の養成、フランス語を聞き取る力の育成、検定試験および留学の準備など)、それぞれのテーマに応じて特化することで、受講者のニーズに応じた授業を展開する。	
		フランス語中級2b	フランス語の中級科目として、中級2aの後を受け、文法理解および表現力の定着と習熟をいっそう確実なものとしつつ、それを実際に使いこなす力をつけることを目標とした授業を行う。中級2bでは、中級2aと同様に担当教員が学習内容をいくつかのテーマに絞り(たとえば作文力の養成、フランス語を聞き取る力の育成、検定試験および留学の準備など)、それぞれのテーマに応じて特化することで、受講者のニーズに応じた授業を展開し、学習者の力をきめ細かく伸ばすことを目指す。	
		中国語中級1a	中国語の中級科目として、初級科目の後を受け、より進んだ中国語運用能力の獲得を目指す科目。初級で学んだ発音、ピンイン表記、初級語法の確認と定着に主眼を置く。復習と平行して、初級段階では触れなかった新たな表現、例えば、離合動詞や疑問詞の呼応形などにも触れ、併せて、中国の社会、文化などの面にも理解を深める。	
		中国語中級1b	初級科目の後を受け、よりすすんだ中国語運用能力の獲得を目指す点では、中級1aと同じであるが、中級1bでは新しい表現の修得に重点を置く。例えば、2つ以上発音のある文字(「得」「差」「的」「長」など)の読み分け、離合動詞の用法、疑問詞の呼応形、「雖～但是～」「因為～所以～」など各種イディオムの修得など。更に、中国語の文章読解に慣れるために、中級1bでは読む量を増やしていく。上級に繋げるために、ピンインの付かない文章を読む訓練も始める。併せて、中国の社会、文化などの面にも理解を深める。	
		中国語中級2a	初級科目の後を受ける点では中級1a・中級1bと同じであるが、中級2aでは読解やライティングなど各方面の能力を高めていくことを目指している。初級で修得した発音と語法が身についていることが前提になるから、中級2aでは初級事項の定着にかなりの比重を割く。併せて、中国の社会や文化などへの関心を喚起することに努める。	
		中国語中級2b	中級2bでは、初級の文法やピンインなどを修得済みであることを前提に、読解能力、作文能力、聴き取り能力、表現能力を高める。原則的にはピンインを付けたテキストを用いるが、上級へのステップとして、ピンインがつかず、分かち書きをしていないテキストへの移行の準備をも併せて行う。併せて、中国の社会や文化などへの関心を喚起することに努める。	
		スペイン語中級1a	スペイン語中級1aは、初級1a・bおよび初級2a、bで学修した内容を土台として、それをさらに発展させることを目標とする。具体的には、文法に関しては過去(点過去・線過去)、未来といった直説法の残りの時制の習得を目標とする。その上で、これら文法項目に応じた総合的な実践練習を積み重ねる。スペインやラテンアメリカの文化を題材にした平易な文章を読んだり、音声・ビデオ教材を用いた練習を行なったりしながら、スペイン語の運用能力を高めるトレーニングを行う。	
		スペイン語中級1b	スペイン語中級1bでは、1aとの関連を図りながら、初級1a・bおよび初級2a、bにおいて積み重ねてきた学修事項を土台として、文法的には初級文法の残りの項目(過去未来、接続法、命令法、複合時制、関係詞等)の修得を目指す。その上で、ひと通り学び終えた文法知識を活かしながら、総合的かつ実践練習を積み重ねる。スペインやラテンアメリカの文化を題材にした平易な文章を読んだり、音声・ビデオ教材を用いた練習を行なったりしながら、スペイン語の運用能力を高めるトレーニングを行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	スペイン語中級2a	スペイン語中級2aでは、2bとの関連を図りながら、初級1a・bおよび初級2a、bにおいて積み重ねてきた学修事項を土台として、文法的には、過去（点過去・線過去）、未来といった直説法の残りの時制の習得を目指す。その上で、習得した文法知識を活かして、文章読解と作文の練習を重点的に行う。文章読解については、スペインやラテンアメリカに関するテキストを用い、スペイン語圏の文化的理解も深める。作文に関しては、自分でまとまった文章作成ができるレヴェルを目標とする。	
		スペイン語中級2b	これまで積み重ねた学習事項を土台として、文法的には、過去未来（可能法）、接続法、命令法、複合時制、関係詞などの習得を目指し、スペイン語の文法をひと通り学び終える。その上で、習得した文法知識を活かして、文章読解と作文の練習を重点的に行う。文章読解については、スペインやラテンアメリカに関するテキストを用い、スペイン語圏の文化的理解も深める。作文に関しては、自分でまとまった文章作成ができるレベルを目標とする。	
		ロシア語中級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を培うことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行い、総合的なロシア語力の養成を行う。	
		ロシア語中級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を培うことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行う。ロシア語中級1bでは、ロシア語中級1aに続き、よく使われるロシア語の表現を用い、総合的なロシア語力の養成を行う。	
		ロシア語中級2a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を培うことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行い、演習を重視した訓練を行う。	
		ロシア語中級2b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、初級科目の習得を踏まえ、そこで身につけた知識を復習しながら実践的に発展させることで、より高度なロシア語力を培うことを目指し、それによって、より複雑な文章を読んだり書いたりすることができるようにすることが目標である。そのため、利用頻度の高い様々な文型を学べる中級用教科書を使用し、音声CDも利用しながら、よく使われるロシア語の表現を読み・聞き・書き・話す訓練を行う。ロシア語中級2bでは、ロシア語中級2aに続き、よく使われるロシア語の表現を用い、演習を重視した訓練を行う。	
		インドネシア語中級1a	本科目は、インドネシア語初級科目のいずれかを2単位以上修得した人を対象とする。初年次の文法理解をもとに、さらにインドネシア語の総合的な表現力を向上させる学習が主要な内容となる。例えば、初級の復習をスプリングボードにして、平易な文章を翻訳したり、具体的場面の設定されたトピックに基づいて、簡明な会話をかわしたりといった訓練を適宜組み合わせることによって、「読む、書く、話す、聞く」の総合的な語学力を育てていく。	
		インドネシア語中級1b	インドネシア語中級1bでは、中級1aに続けて、読解・作文・会話を三本柱として、インドネシア語のトータルな語学力を養成する。また、文法・語法だけでなく、コミュニケーションの背景をなす社会事情についても理解し、インドネシア語とインドネシア社会に対する理解がさらに確実なものとなるようにする。そのために、教材として映像を広く用いることで、インドネシア社会に対するより深い理解を図ると同時に、現地で出会う可能性のあるさまざまな状況に応じて、すぐに使えるような幅広い実践的な表現力を修得する。	
		インドネシア語中級2a	インドネシア語中級2aは、インドネシア語初級科目を修得した力を持ったレベルの学生を対象とする。初級科目で学んだ文法や表現のパターンを確認しながら、より高度で複雑な文章や、他の接頭辞・接尾辞・イディオムなどを学ぶことが、中級2aでの主軸となる。教材としては、インドネシアの文化・習慣等を紹介する文章を広く導入し、町や社会、食文化や日常生活などを紹介する読み物を読解する作業を通して、生活に根差した実践的な表現能力を身に付ける。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	インドネシア語中級2b	インドネシア語中級2bでは、中級中級2aに続いて、さらにさまざまなメディア（ビデオ・インターネット・音楽等）を活用しながら、今日的で実践的なコミュニケーション能力を向上させる。具体的には、発展しつつある都市の姿、レストラン・屋台、市場など、現代の日常生活についての読み物を使い、それら教材に登場する基本的な会話表現を用いた作文練習などによって、表現する力を伸ばす。授業に幅を持たせるために、映画などの映像資料を素材とした展開も取り入れる。	
		コリア語中級1a	ハングルがすらすら読め、初級の文法事項をほぼ習得していることを最低限の履修条件とする。初級の文法および表現の確認から始め、さらに上のレベルの文法や多様な表現を学習しながら、語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。1aでは特に「書く」、「話す」力を伸ばすところに重点をおく。主要な文法項目は、用言の連体形（過去・現在・未来）、一部の変則活用などである。表現としては、「～(し)たことがある」、「～(する)つもりだ」、「～(し)そうだ」などである。	
		コリア語中級1b	中級1aの文法および表現を復習した上、変則活用や多様な表現を学習しながら語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験中級を視野に入れながら、特に「書く」、「話す」力を伸ばす。コリア語は日本語と似ているところが多い点では学びやすいが、中級以上になると似ているからこそ難しいところが出てくる。この授業ではそうした点にも注意を払いながら、より自然で高度なコリア語の習得を目指す。具体的な学習内容は、「～(する)ことができない」、「～(し)てもいいですか」、「～(し)なければならない」、「～(し)ないでください」、「～(し)ながら」などである。	
		コリア語中級2a	ハングルがすらすら読め、初級の文法事項をほぼ習得していることを最低限の履修条件とする。初級の文法および表現を確認するところから始め、さらに上のレベルの文法や多様な表現を学習しながら、語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。2aでは特に「読む」、「聞く」力を伸ばすところに重点をおく。また、授業の題材を通じて韓国の文化に対する理解も深める。主要な文法項目は、用言の連体形（過去・現在・未来）、一部の変則活用などである。表現としては、「～(し)たことがある」、「～(する)つもりだ」、「～(し)そうだ」などである。	
		コリア語中級2b	中級2aの文法および表現の復習した上、変則活用や多様な表現を学習しながら語彙も増やし、バランスのとれた「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験中級を視野に入れながら、特に「読む」、「聞く」力を伸ばす。また、韓国関係の視聴覚教材などを利用し、言葉の背景にある文化に対する理解も深める。具体的な学習内容は、「～(する)ことができない」、「～(し)てもいいですか」、「～(し)なければならない」、「～(し)ないでください」、「～(し)ながら」、下称形などである。	
		ドイツ語上級1a	ドイツ語の上級科目では、中級科目の学習を終えた者を前提とする。中級科目以上に、できるだけ多様な素材を用いながら、これまでの学習項目を復習しつつ、「読む」「聞く」「書く」「話す」の四分野におけるバランスの取れた実践的なドイツ語力を更に確実にしながら、ドイツ文化・社会の理解へと広げて行く。上級は3年次・4年次と継続して履修可能のシステムとしており、少人数での実践的な学習を可能としている。ドイツ語検定2級受験のための基礎となることが目標である。	
		ドイツ語上級1b	上級1aでの履修を更に高度化して継続する。これまでの学習項目の復習をも含みながら、読む・聞く・書く・話す、のバランスの取れた実践的なドイツ語力を、できるだけ応用的で実践的な訓練を中心に進める。ドイツ語力と並行して、ドイツ文化・社会への理解をも進めることになる。少人数での実践的な授業を通したコミュニケーションの訓練によって、より高度な会話力を含めて、ドイツ語検定2級を獲得できるレベルの応用ドイツ語力を獲得することを目標とする。なお上級科目は3年次・4年次と継続履修が可能となっている。	
		フランス語上級1a	フランス語の上級科目として、読む、書く、話す、聞くという言語の四技能すべての面での充実を図る。最終的には、フランスに留学して勉強を行えるだけのレベルの力を養うことを目指す。とくに初級、中級レベルでは練習不足になりがちな作文力とフランス語を聞き取る力をつけることを目標に、さまざまな具体的シチュエーションにおいてフランス語を用いて確実かつ適切に相手とコミュニケーションを取ることができるだけの実践的な力を養うことを目指す。	
		フランス語上級1b	フランス語の上級科目として、フランス語上級1aを引き継ぎ、読む、書く、話す、聞くという言語の四技能すべての面でのいっそうの充実を図る。最終的には、フランスに留学して勉強を行えるだけのレベルの力を養うことを目指す。とくに初級、中級レベルでは練習不足になりがちな作文力とフランス語を聞き取る力をつけることに重点をおきつつ、さまざまな具体的シチュエーションにおいてフランス語を用いて、確実かつ適切に相手とコミュニケーションを取ることができるだけの、実践的な力を養うことを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	中国語上級1a	初級科目と中級科目の後を受け、更にすすんだ中国語能力の開発を目指す科目。ピンインのつかない分かち書きのないテキストを用いて、まとまった文章（随筆、小説、論説文、新聞記事など）の読解能力を養成する。漸進的に聴き取り、読解の難度を上げていく。部分的に中国語の直接教授法も行なわれる。併せて、中国の社会や文化などについての関心をより深く着実なものとするように努める。	
		中国語上級1b	上級1aの後を受けて、更にすすんだ中国語運用能力の獲得、開発を目指す。中国語で行なわれる授業、ピンイン無し・分かち書き無しのテキストを用いた授業、比較的難易度の高いテキストの多読や精読を行なう授業に慣れるのには一定の時間を要する。そのような授業に抵抗感を感じなくなるところまで中国語能力を高めていく。中国人と比較的高度な内容について会話をすることができ、比較的高度な論説文や新聞記事、映画のシナリオなどが読みこなせる能力を養うことが目的である。それを通して、中国の社会や文化全般に関するより高い関心と理解を深める。	
		スペイン語上級1a	スペイン語上級1aでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をしながら、適宜、スペイン語圏の雑誌・新聞記事・エッセイなどのうち比較的平易なものを講読し、読む力を養成することを第一の目標とする。読解を通してスペイン語圏諸国の文化・歴史への理解を深めることを重視するが、その一方で、ディクテーションやビデオ教材を使用しての聴き取り練習も取り入れ、高度な会話の場面にも対応できるリスニング力をつけることも同時に目指す。	
		スペイン語上級1b	スペイン語上級1bでは、上級1aに引き続き、スペイン語圏の雑誌・新聞記事・エッセイなどのうちやや難易度の高いものを講読し、読む力を養成することを第一の目標とする。必要に応じて文法復習をしながら、読解を通してスペイン語圏諸国の文化・歴史への理解を深めることを重視するが、その一方で、ディクテーションやビデオ教材を使用しての聴き取り練習も取り入れ、より高度な会話の場面にも対応できるリスニング力をつけることも同時に目指す。	
		ロシア語上級1a	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、中級科目の習得を踏まえ、実際に使用された様々な文章を読んでいくことで高度なロシア語力を培い、独力で新聞などロシア語の一般的な文章が読める力を養うことが目標である。そのため、比較的長くてまとまった文章をアンソロジー的に集めた上級用教科書を用いて、様々な文章を実際に読んでいくことで、ロシア語の文法・語彙・表現などを復習・発展させながら、高度なロシア語力を養成する。	
		ロシア語上級1b	国連の公用語の1つで、現在のロシアのほかウクライナ、ベラルーシなど旧ソ連圏でもかなり通じるロシア語について、中級科目の習得を踏まえ、実際に使用された様々な文章を読んでいくことで高度なロシア語力を培い、独力で新聞などロシア語の一般的な文章が読める力を養うことが目標である。そのため、ロシア語上級1bでは、ロシア語上級1aに続き、比較的長くてまとまった文章をアンソロジー的に集めた上級用教科書を用いて、様々な文章を実際に読んでいくことで、ロシア語の文法・語彙・表現などを復習・発展させながら、高度なロシア語力を養成する。	
		インドネシア語上級1a	インドネシア語上級1aでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をし、それを土台としながら、適宜、インドネシア語のテキストや現地での状況を伝える音声・映像の情報などを素材として、具体的かつ実践的なインドネシア語の運用能力の修得を目指す。インドネシアの人たちと直にコミュニケーションする力を伸ばし、その文化・社会の理解をいっそう深める。	
		インドネシア語上級1b	インドネシア語上級1bでは、初級・中級レベルで学修した文法事項の復習をし、さらに上級1aでの学修を土台としながら、適宜、インドネシア語のテキストや現地での状況を伝える音声・映像の情報などを素材として、具体的かつ実践的なインドネシア語の運用能力の修得を目指す。そしてこの力によって、日本にとって今後、さらに重要なパートナーとなるであろうインドネシアの人たちと直にコミュニケーションする力を伸ばし、その文化・社会の理解をいっそう深める。	
		コリア語上級1a	中級レベルで扱う連体形および変則活用について学習したことがあることを最低限の履修条件とし、中級までの文法事項の再確認から始め、下称形、伝聞表現および伝聞の縮約形など、複雑な文法事項を学習しながら慣用句などの語彙も増やし、より高度な「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」能力を向上させることを目指す。具体的な内容は、「～だ/である」、「～(する)そうだ」、「～(する)のか聞く」、「～(しろ)と言う」を含め、「～(する)から」・「～(する)ので」・「～(し)て」、「～(する)ために」・「～(する)せいで」など、日本語と似てはいるが微妙な違いがあるために学習しにくいものを集中的に練習する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	コリア語上級1b	上級1aの下称形、伝聞表現および伝聞の縮約形などを確認しながらより高いレベルの文法事項を学び、慣用句などの語彙も増やし、正確な表現ができることを目指す。文章を「読む」練習、視聴覚教材などを使った「聞く」練習、日本語文の訳および文章を要約して「書く」練習、新しく学んだ表現を使ったロールプレイで「話す」練習など、総合的な水準の向上を図る。その他、コリア語学習におけるインターネットおよびアプリの活用などについても学ぶ。	
		選択ドイツ語1a	ドイツ語を初めて学ぶ受講者を対象として、ドイツ語のアルファベートを読み、単語や短い文章を発音する練習からスタートする。さらに、ドイツ語初級文法の導入的練習により、ドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる力を養い。基礎的な文法事項を理解、活用することができるようになる。さらにこの力を補うものとして、平易なドイツ語を用いることで、ドイツの社会、文化に関する情報にさまざまな形で触れることで、ドイツに対する理解を深める。	
		選択ドイツ語1b	選択ドイツ語1bは、1aの後を受けて、ドイツ語を初めて学ぶ受講者を対象として、ドイツ語の読み方に慣れ、単語や短い文章を発音する練習からスタートする。さらに、ドイツ語初級文法の導入的練習により、ドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる力を養い。基礎的な文法事項を理解、活用することができるようになる。さらにこの力を補うものとして、平易なドイツ語を用いることで、ドイツの社会、文化に関する情報にさまざまな形で触れることで、ドイツに対する理解を深める。	
		選択フランス語1a	選択フランス語1aは、フランス語を初めて学ぶ受講者を対象として、アルファベ（A, B, C…）からスタートし、フランス語の読み方に慣れるとともに、基本となる文型と語彙、日常的な基本表現を修得する。その際、「読み・書き・話す・聞く」という、いわゆる言語習得の四技能についてバランスよく学修することを目指し、フランス語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるとともに、フランス語によってフランスの社会や文化に触れることで、理解を深める。	
		選択フランス語1b	選択フランス語1bでは、1aの後を受けて、フランス語を初めて学ぶ受講者を対象として、フランス語の読み方に慣れるとともに、基本となる文型と語彙、日常的な基本表現を修得する。その際、「読み・書き・話す・聞く」という、いわゆる言語習得の四技能についてバランスよく学修することを目指し、フランス語で簡単なコミュニケーションが取れるようになるとともに、フランス語によってフランスの社会や文化に触れることで、理解をいっそう深める。	
		選択中国語1a	選択中国語1aは、中国語を初めて学ぶ受講者を対象として、まず、発音の練習、あいさつの言葉、簡単な名詞などを習得する。正しい発音に習熟し、ピンインを正確に発音でき、初歩的な聞き取りができるようになることを最初の目標とする。そのうえで、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得し、かつ基本となる語彙を修得することによって、比較的簡単な文章の読解と作文ができ、コミュニケーションの基礎とするとともに、中国文化・社会の理解を深めることを到達目標とする。	
		選択中国語1b	選択中国語1bは、1aの後を受けて、中国語を初めて学ぶ受講者を対象として、あいさつの言葉、簡単な名詞などを習得する。正しい発音に習熟し、ピンインの発音を正確なものとするとともに、初歩的な聞き取りができるようになることを最初の目標とする。そのうえで、初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得し、かつ基本となる語彙を修得することによって、比較的簡単な文章の読解と作文ができ、コミュニケーションの基礎とするとともに、中国文化・社会の理解を深めることを到達目標とする。	
		選択スペイン語1a	選択スペイン語1aは、スペイン語を初めて学ぶ受講者を対象として、基本となる文型や、基礎的な語彙を習得する。「読み・書き・話す・聞く」という四技能を含めた、総合的な基礎力をつけ、コミュニケーションで使うことのできる実践的なスペイン語の習得を目指す。具体的には、受信型から発信型への外国語学習を目指して、簡単な作文を書いたり、自己紹介などによって身の回りのことを表現したりできるようになる。また、簡単なスペイン語を用いることによって、スペイン語圏の文化、社会に対する理解を深める。	
		選択スペイン語1b	選択スペイン語1bは、1aの後を受けて、スペイン語を初めて学ぶ受講者を対象として、基本となる文型や、基礎的な語彙を習得する。「読み・書き・話す・聞く」という四技能を含めた、総合的な基礎力をつけ、コミュニケーションで使うことのできる実践的なスペイン語の習得を目指す。具体的には、受信型から発信型への外国語学習を目指して、簡単な作文を書いたり、自己紹介などによって身の回りのことを表現したりできるようになる。また、簡単なスペイン語を用いることによって、スペイン語圏の文化、社会に対する理解をいっそう深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	選択コリア語1a	はじめてコリア語を学ぶ学生を対象とし、コリア語を表記する文字であるハングルの書き方・読み方を学んだ上、コリアの文化についての理解も深めながら初歩的な会話ができるようになることを目指す。1aでは、反復練習を通じてその課の表現を身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、ハングルの読み書き、簡単な挨拶、「～です」、「～ですか」、「～ではありません」、「～(し)ます」、「～(し)ますか」、「～(し)ません」にあたるコリア語の表現の作り方などである。	
		選択コリア語1b	ハングルの書き方・読み方、いくつかの基本表現を習得している学生を対象とする。1aの内容を確認しながら新たな基礎的文法と表現を学び、簡単な日常会話ができることを目指す。1bでも、反復練習を通じてその課の表現を身に付けるところに重点をおく。具体的な学習内容は、打ち解けた表現（ヘヨ体）、尊敬「～されます」、命令「～（し）なさい」、過去「～（し）ました」、意志「～（し）ます」、推量「～（る）でしょう」、希望「～（し）たいです」、勧誘「～（し）ましょう」、様態「～（し）ています」、仮定表現「～（す）れば」の作り方などである。	
		選択アラビア語1a	選択アラビア語1aでは、アラビア語を初めて学ぶ受講者を対象として、読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら習得する。はじめに、アラビア文字を習得できるように、各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、文字に慣れる。つぎに、日常的な基本となる表現を学び、その後、語彙力を増やしながら、名詞の性別から動詞活用までの基本的な文法を理解し、アラビア語で書いた短い文を読むことができるの力を養う。	
		選択アラビア語1b	選択アラビア語1bでは、選択アラビア語1bに引き続き、アラビア語を初めて学ぶ受講者を対象として、読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ文化に触れながら習得する。各文字の書き順、文字のつなげ方、発音を丁寧に学習し、アラビア文字に慣れたあとの課題として、日常的な基本となる表現を学び、次第に語彙力を増やしながら、名詞から動詞の使い方を中心に、基本的な文法を理解し、アラビア語で書いた短い文を読み、また書くことができるの力を養う。	
		選択イタリア語1a	選択イタリア語1aでは、イタリア語を初めて学ぶ受講者を対象として、a,b,cの読み方からスタートし、日常生活でよく使う表現を使いこなすことを目標として修得すると同時に、文法の基礎も最初から積み重ねて学修し、基本的なイタリア語のしくみを広く理解する。語彙に関しては、身近に見聞きするイタリア語から始めて、次第に使える語を増やす。語彙、表現、文法事項ともに、習熟度を定期的に確認することで、イタリア語の基本的を修得する。	
		選択イタリア語1b	選択イタリア語1bでは、1aを引き継ぎ、イタリア語を初めて学ぶ受講者を対象として、日常生活でよく使う表現を広く、かつ実践的に修得すると同時に、文法の基礎も最初から積み重ねて学修し、基本的なイタリア語のしくみを理解する。語彙、基本表現に関しては、身近に見聞きするイタリア語から始めて、次第に対象を広げることで、使える言葉の数を増やす。語彙、表現、文法事項ともに、習熟度を定期的に確認することで、イタリア語の運用に必要な基本力を修得する。	
		世界の言語と文化（ドイツ語）	それぞれの言語の背後には、その言葉を話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「ドイツ語」では、ドイツ、オーストリアを中心にドイツ語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
		世界の言語と文化（フランス語）	それぞれの言語の背後には、その言葉を話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「フランス語」では、フランスを軸に、カリブ海諸国やカナダ等も含めたフランス語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
		世界の言語と文化（中国語）	それぞれの言語の背後には、その言葉を話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「中国語」では、東アジアを中心に、中国語および漢字文化圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語以外の外国語	世界の言語と文化（スペイン語）	それぞれの言語の背後には、その言葉を話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「スペイン語」では、ヨーロッパからアメリカ大陸までのスペイン語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
		世界の言語と文化（ロシア語）	それぞれの言語の背後には、その言葉を話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「ロシア語」では、ユーラシア大陸の多くを占めるロシア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
		世界の言語と文化（インドネシア語）	それぞれの言語の背後には、その言葉を話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「インドネシア語」では、東南アジアの要に位置するインドネシア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
		世界の言語と文化（コリア語）	それぞれの言語の背後には、その言葉を話す人たちが作り上げてきた社会と文化があります。世界の言語と文化では、そうした言語のバックグラウンドとなるさまざまな考え方、生活などを幅広く学ぶことで、世界に向けた柔軟な視野を持つことができるようになります。「コリア語」では、わたしたちの隣人であるコリア語圏各地の社会と文化について、基礎となる事項を言語と結びつけながら幅広く学び、そこで暮らす人々の生活や考え方、表現方法を理解します。	
		言語文化研究（ヨーロッパ）1	国という単位に捉われることなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは主にドイツ、フランスを中心とした西ヨーロッパの視点を出発点として、ヨーロッパを捉えなおす。	
		言語文化研究（ヨーロッパ）2	国という単位に捉われることなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここではフランスやドイツといった20世紀西ヨーロッパの中心を担った国以外の地域、たとえば東ヨーロッパ（ロシア）、イタリアなどを出発点として、ヨーロッパを相対的に捉えなおす。	
		言語文化研究（アジア）1	国という単位に捉われることなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは中国、韓国という日本と地理的・歴史的にも密接な関係を持つ地域を出発点として、広くアジアを捉えなおす。	
		言語文化研究（アジア）2	国という単位に捉われることなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここではインドネシア、アラビア語圏といった東南アジア・アジア全般の諸国を出発点として、広くアジア全体を捉えなおす。	
		言語文化研究（アメリカ）	国という単位に捉われることなく、世界を大きなブロックとして把握しつつ、それぞれの地域で築き上げられてきた多様な文化、社会を相対的に理解した上で、さまざまな文化、言語が交錯する地域をどのように把握していくか、その考え方の基礎を培うことで、国や言語に捉われない柔軟な視野に立ち、全体を公平に見渡すことができる力を養う。ここでは北アメリカ、中アメリカ、南アメリカとカリブ海諸国を出発点として、広くふたつのアメリカ大陸全体を捉えなおす。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	海外語学研修	海外語学短期研修1（英語）	海外語学短期研修1では、本学の夏期の短期留学プログラムに参加し海外提携校に1ヶ月程度滞在して様々な経験を積む。大学の正規授業の聴講を行い、また非英語圏の国々から学生が集まるインターナショナルクラスの履修においては、ビジネス英語や多様なバックグラウンドを持つ仲間とのエコ・ボランティア活動等バラエティに富むプログラムが展開されている。海外提携校からは履修科目の成績評価と授業を担当した講師からの詳細な文章評価が与えられ、その成績に基づき本学の単位に換算される。	
		海外語学短期研修2（英語）	海外語学短期研修2では、本学の春期の短期留学プログラムに参加し海外提携校に1ヶ月程度滞在して様々な経験を積む。「生きた言葉」の修得を目指したプログラムで、聴解力・発話力に重点をおいた1日4時間程度の授業を履修し会話の実践練習を行う。授業外においてもフィールド・トリップやホームステイまたは学生寮での生活を通じ、現地の文化・歴史・生活習慣を実体験する。海外提携校からは履修科目の成績評価と授業を担当した講師からの詳細な文章評価が与えられ、その成績に基づき本学の単位に換算される。	
		海外語学短期研修1（ドイツ語）	ドイツの本学提携大学に、夏期休暇中の3週間を利用して短期留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。現地の語学コースで学びつつ、ホームステイ先に滞在することで、ドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深める。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。事後研修として、留学の成果をプレゼンテーションする機会も設ける。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
		海外語学短期研修2（ドイツ語）	ドイツの本学提携大学に、夏期休暇中の3週間を利用して短期留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。現地の語学コースで学びつつ、ホームステイ先に滞在することで、ドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深める。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。事後研修として、留学の成果をプレゼンテーションする機会も設ける。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
		海外語学短期研修1（フランス語）	フランス国内の語学学校に一カ月、短期語学留学（夏期休暇中）を行い、フランス語力の充実、特に実際の場での会話能力の充実を図る。併せて、フランス人の実際の生活、文化に直接に触れることで、日本の大学の授業では行うことが容易ではない、異文化コミュニケーションに対する柔軟な対応力を培うことを目的とする。なお、大学での授業との関連性に配慮し、参加者に対しては研修前に集中的に事前研修が行われ、また現地での研修の一定期間、本学の教員および職員が引率して指導にあたる。	
		海外語学短期研修2（フランス語）	フランス国内の語学学校に一カ月、短期語学留学（春季休暇中）を行い、フランス語力の充実、特に実際の場での会話能力の充実を図る。併せて、フランス人の実際の生活、文化に直接に触れることで、日本の大学の授業では行うことが容易ではない、異文化コミュニケーションに対する柔軟な対応力を培うことを目的とする。なお、大学での授業との関連性に配慮し、参加者に対しては研修前に集中的に事前研修が行われ、また現地での研修の一定期間、本学の教員および職員が引率して指導にあたる。	
		海外語学短期研修1（中国語）	中国の本学提携大学に短期留学（夏期休暇中の1ヶ月）して中国語を学習し、中国語の理解・運用能力の向上を図る。現地での体験的学習を通じて中国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることを目標とする。留学の前に事前研修をおこない、必要となる基礎的な中国語能力および中国社会や文化に関する基礎知識を確保する。事後研修として留学報告を作成しプレゼンテーション形式で発表を行なう。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
		海外語学短期研修2（中国語）	中国の本学提携大学に短期留学（春期休暇中の1ヶ月）して中国語を学習し、中国語の理解・運用能力の向上を図る。現地での体験的学習を通じて中国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることを目標とする。留学の前に事前研修をおこない、基礎的な中国語能力および中国社会や文化に関する基礎知識を確保する。事後研修として留学報告を作成しプレゼンテーション形式で発表を行う。研修の一部期間、本学の教員が引率して指導に当る。	
		海外語学短期研修1（スペイン語）	海外語学短期研修1（スペイン語）では、春期休暇期間中に、スペイン語圏の本学提携大学・研修機関に約1ヵ月の短期留学をして実践的にスペイン語を学び、スペイン語の理解力・運用能力の向上を図る。また、現地での体験的学修を通じて、スペイン語圏の文化・歴史・政治・経済などに関する関心を高めるとともに、その社会に対する理解を深めることを目標とする。留学の前には事前研修を行ない、渡航前に必要な語学の基礎力および現地事情についての基本的知識に関する指導を行う。	
		海外語学短期研修2（スペイン語）	海外語学短期研修2（スペイン語）では、春期休暇期間中に、スペイン語圏の本学提携大学・研修機関に約1ヵ月の短期留学をして実践的にスペイン語を学び、スペイン語の理解力・運用能力の向上を図る。また、現地での体験的学修を通じて、スペイン語圏の文化・歴史・政治・経済などに関する関心を高めるとともに、その社会に対する理解を深めることを目標とする。留学の前には事前研修を行ない、渡航前に必要な語学の基礎力および現地事情についての基本的知識に関する指導を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	海外語学研修	海外語学短期研修1（コリア語）	韓国にある本学の提携大学に一ヶ月短期留学してコリア語を学び、コリア語の運用能力の向上を図る。特に、決まり文句としての挨拶やあいづち・簡単な質問と答など、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。加えて、現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることも目標とする。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学短期研修2（コリア語）	韓国にある本学の提携大学に一ヶ月短期留学してコリア語を学び、コリア語の運用能力の向上を図る。特に、自分自身を中心にする話題について簡単な文を使って伝え合うことができることを目指す。加えて、現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めることも目標とする。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修1（英語）	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象に、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修ではまず海外提携校の英語による講義を聞き取り、内容を理解できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修2（英語）	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義を聞き取り、内容を理解した上で初歩的な議論に参加できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修3（英語）	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、授業で与えられる課題に中級レベルの英文で対応することに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修4（英語）	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、簡単なレポートを英文で作成できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修5（英語）	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、長めのレポートを英文で作成できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修6（英語）	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、短いプレゼンテーションができるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修7（英語）	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生が対象で、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で、長めのプレゼンテーションができるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修8（英語）	海外語学中期研修では、TOEFL-iBT48点以上、TOEFL-ITP460点以上を取得している学生を対象に、本学の海外提携校に4、5箇月滞在し、海外提携校で行われている大学の授業に参加し単位を取得する。本研修では海外提携校の英語による講義内容を理解した上で授業内の議論に積極的に参加できるようになることに重点を置く。また授業研修後、企業等でインターンシップを経験する。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	海外語学研修	海外語学中期研修1(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学では、特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
		海外語学中期研修2(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
		海外語学中期研修3(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
		海外語学中期研修4(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、実用的なレベルでドイツ語による文章を実際に書くレベルの力をつけることを目指す。	
		海外語学中期研修5(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学は、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
		海外語学中期研修6(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。語学では、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
		海外語学中期研修7(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。	
		海外語学中期研修8(ドイツ語)	ドイツの本学と提携する語学学校に、4～5カ月間留学し、実践的なドイツ語のコミュニュケーション力を養う。留学の前に事前研修を行い、必要となる基礎的なドイツ語運用能力およびドイツに関する基礎知識を学ぶ。現地の語学コースではドイツの文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めるだけでなく、様々な国の留学生とともに学ぶことで、世界へ視野も広げる。ドイツの文化を学ぶ過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
		海外語学中期研修1(フランス語)	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、すでに基礎的な会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ実践的な会話能力を身に付けることを目標とする。特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	海外語学研修	海外語学中期研修2（フランス語）	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
		海外語学中期研修3（フランス語）	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルの文法とコミュニケーション能力を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標として、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	
		海外語学中期研修4（フランス語）	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、すでに初級から中級レベルのフランス語を習得した学生が、実用的なレベルでフランス語による文章を実際に書くレベルの力をつけることを目指す。とりわけ、1から6まである構文を中心に、動詞の各時制の使い方の習得を重要なポイントとする。	
		海外語学中期研修5（フランス語）	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス語によるディスカッション能力を磨くことを目標とする。ここではとりわけ、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
		海外語学中期研修6（フランス語）	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス語によるプレゼンテーション能力を磨くことを目標とする。とくに、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
		海外語学中期研修7（フランス語）	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのフランス語能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。その際、フランス文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。同時に、さまざまな人種、国籍の人間が暮らすフランス社会と接することで、それぞれの価値観を相対化することができる人間性を養う。	
		海外語学中期研修8（フランス語）	フランス語中期留学は初級・中級レベルのフランス語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本課目はこの制度を利用し、すでにフランス語の基礎的なレベルのフランス語能力を習得している学生が、リヨン第2大学付属の語学研修機関CIEFで研修を行う。とくに、フランス文化に触れる中で、逆に日本の社会、文化をフランス人をはじめとした外国人にいかに伝えるかということを考える。さらにその過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
		海外語学中期研修1（中国語）	海外語学中期研修1（中国語）は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法や語彙を習得することを目標とする。現地での授業・生活を通して、多くのパターンの中国語に直に触れることで、目標の達成を図る	
		海外語学中期研修2（中国語）	海外語学中期研修2（中国語）は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法や語彙を習得することを目標とする。とくに中期研修2では、日常の生活で触れる新聞や雑誌などのやや論理的な文章を読解する能力を習得することを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	海外語学研修	海外語学中期研修3（中国語）	海外語学中期研修3（中国語）は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な会話能力を習得することを目標とする。特に中期研修3では、日常生活において交わされる会話について、困難なく理解できる聴解力を身につけることを重視する。	
		海外語学中期研修4（中国語）	海外語学中期研修4（中国語）は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な会話能力を習得することを目標とする。特に中期研修4では、日常生活において交わされる会話について、困難なく内容を伝達するための発話能力を身につけることを重視する。	
		海外語学中期研修5（中国語）	海外語学中期研修5（中国語）は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流協定校に4～5箇月間留学して、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、事前にすでに中級レベルの中国語運用能力を習得している学生が、さらに高度な文法と語彙を踏まえ、実用的な構文に基づいた作文能力を習得することを目標とする。中期研修5では一定の意味のまとまりと長さを有する文章の作成までを視野に入れる。	
		海外語学中期研修6（中国語）	海外語学中期研修6（中国語）は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、中級レベルの会話力と作文力を踏まえて、さらに高度なレベルで、一定の内容を的確に伝達するプレゼンテーション能力の習得を目標とする。中期研修6ではとくに、配布文書の作成と口頭説明を行うことで総合的な中国語運用能力を涵養する。	
		海外語学中期研修7（中国語）	海外語学中期研修7（中国語）は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、中級レベルの運用力をさらに伸ばし、留学地域の歴史・文化・社会などについて総合的に理解を深めることを目標とする。中期研修7では、図書館・博物館・美術館などを活用し、文献・文物・図像・映像など幅広い資料に触れることを重視する。	
		海外語学中期研修8（中国語）	海外語学中期研修8（中国語）は、演習形式による授業を行う。中期留学は、中級レベルの語学能力を習得した学生を対象に、本学国際交流提携校に4～5箇月間留学して集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、帰国後に、留学中の体験や習得知識について、中国語を用いて、文書・口頭説明と映像資料による報告プレゼンテーションを行うことを指導する。報告プレゼンテーションは、本学学生に公開する形式で行い、留学や異文化理解の意義が大学で広く共有されることを目標とする。	
		海外語学中期研修1（スペイン語）	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、さらなる研修を行う。その際、すでに基礎的な会話能力を習得している学生が、さらに一歩進んだ実践的な会話能力を身に付けることを目標とする。特に日常会話において、挨拶や紹介などにとどまらず、時事的な話題にいたるまでこなせるだけの力をつけることを目指す。	
		海外語学中期研修2（スペイン語）	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目はこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が、さらなる語学研修を行う。その際、コミュニケーションの土台となる聞き取り能力を磨き、さまざまなシチュエーションに応じ、より実践的なレベルで相手の発する会話、文章を素早く、かつ的確に理解する力を養うことを目指す。	
		海外語学中期研修3（スペイン語）	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校であるリヨン第2大学に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルの文法とコミュニケーション能力を習得している学生が、さらに高度な文法、構文を理解することを第一の目標として、研修を行う。その際、書かれたテキスト、とくに新聞や雑誌といった日常触れることの多い文章を読解し、的確に内容を把握する能力を身につけることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部ジャーナリズム学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	海外語学研修	海外語学中期研修4（スペイン語）	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのコミュニケーション能力を習得している学生が研修を行う。その際、すでに初級から中級レベルのスペイン語を習得した学生が、実用的なレベルでスペイン語による文章を実際に書くレベルの力をつけることを目指す。とりわけ、動詞の各時制の使い方の習得を重要なポイントとする。	
		海外語学中期研修5（スペイン語）	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語によるディスカッション能力を磨くことを目標とする。ここではとりわけ、一つのテーマについて相手の述べる意見を理解しつつ、自分の考えを伝え、さらに相手を説得するだけの力を重点的に鍛える。	
		海外語学中期研修6（スペイン語）	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎レベルのコミュニケーション能力を習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語によるプレゼンテーション能力を磨くことを目標とする。とくに、一つのテーマについて自分の考えをどのように的確に伝えることができるか、その準備から実践までの力を磨く。	
		海外語学中期研修7（スペイン語）	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルを習得している学生がさらなる研修を行う。その際、スペイン語圏の文化に積極的に触れることで、日本とは異なった文化の意義と意味を深く理解する力を養うことを目指す。スペイン語で書かれた文化、歴史などに関する文章の読解力を高める。	
		海外語学中期研修8（スペイン語）	スペイン語中期留学は初級・中級レベルのスペイン語能力を習得した学生を対象に、本学の国際協定校に4ケ月ないし5ケ月間留学し、集中語学研修に参加する制度である。本科目ではこの制度を利用し、すでにスペイン語の基礎的なレベルのスペイン語能力を習得している学生が，さらなる研修を行う。とくに、スペイン語圏の文化に触れる中で、逆に日本の社会、文化を外国人にいかに伝えるかということを考える。さらにその過程で、日本について改めて考える機会とし、双方向の異文化コミュニケーション力を培う場とする。	
		海外語学中期研修1（コリア語）	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、決まり文句から自分自身を中心とする話題について伝え合うことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修2（コリア語）	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、コミュニケーションの基本となる聞取り能力を伸ばしながら、様々な場面に応じて実践的な会話ができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修3（コリア語）	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、聞取り能力の向上に力を入れつつ、日常生活にかかわる文章を読み解き、書くことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修4（コリア語）	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、新聞・雑誌などの文章を読んで、正確に内容を把握し、まとめて書くことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	

授　業　科　目　の　概　要 （文学部ジャーナリズム学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	海外語学研修	海外語学中期研修5（コリア語）	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、様々な相手や状況に応じて表現を選択し、適切なコミュニケーションを図ることができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修6（コリア語）	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、ニュースや新聞記事などの時事的なテーマに関して、読んだり聞いたりした後、まとめて話すことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修7（コリア語）	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、相手や状況によって失礼のない表現の選択、公式的な依頼や謝罪、批判などに関する適切な表現の選択などができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	
		海外語学中期研修8（コリア語）	初級および中級レベルまでの文法および語彙を習得した学生が韓国にある本学の提携大学に4ヶ月ないし5ヶ月間留学し、より高いレベルのコリア語運用能力を身に付ける。現地での体験的学習を通じて韓国の文化・歴史・政治・経済などに関する理解を深めながら、様々な国の学生との交流を通して国際的な感覚も磨く。語学は、連語・慣用句・ことわざ・四字熟語についての理解を深めながら、取り扱い説明書や契約書、請求書や見積書、広告やパンフレットなどの実用的な文を読み解くことができることを目指す。海外提携校から履修科目の成績評価と詳細な文章評価に基づき、本学の本科目の単位に換算される。	

学校法人専修大学　設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度		入学定員	編入学定員	収容定員
専修大学				
経済学部一部	経済学科	490	―	1,960
	国際経済学科	205	―	820
法学部一部	法律学科	562	―	2,248
	政治学科	153	―	612
経営学部	経営学科	542	―	2,168
商学部一部	マーケティング学科	455	―	1,820
	会計学科	220	―	880
文学部	日本語学科	71	―	284
	日本文学文化学科	114	―	456
	英語英米文学科	142	―	568
	哲学科	71	―	284
	歴史学科	132	―	528
	環境地理学科	51	―	204
	人文・ジャーナリズム学科	93	―	372
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	235	―	940
人間科学部	心理学科	72	―	288
	社会学科	122	―	488
経済学部二部	経済学科	90	―	360
法学部二部	法律学科	90	―	360
商学部二部	マーケティング学科	90	―	360
	計	4,000	―	16,000
専修大学大学院				
経済学研究科	経済学専攻(M)	30	―	60
	経済学専攻(D)	3	―	9
法学研究科	法学専攻(M)	25	―	50
	民事法学専攻(D)	3	―	9
	公法学専攻(D)	3	―	9
文学研究科	日本語日本文学専攻(M)	10	―	20
	英語英米文学専攻(M)	5	―	10
	哲学専攻(M)	5	―	10
	歴史学専攻(M)	10	―	20
	地理学専攻(M)	5	―	10
	社会学専攻(M)	5	―	10
	心理学専攻(M)	10	―	20
	日本語日本文学専攻(D)	3	―	9
	英語英米文学専攻(D)	2	―	6
	哲学専攻(D)	2	―	6
	歴史学専攻(D)	5	―	15
	地理学専攻(D)	3	―	9
	社会学専攻(D)	3	―	9
	心理学専攻(D)	3	―	9
経営学研究科	経営学専攻(M)	20	―	40
	経営学専攻(D)	3	―	9
商学研究科	商学専攻(M)	10	―	20
	会計学専攻(M)	15	―	30
	商学専攻(D)	2	―	6
	会計学専攻(D)	2	―	6
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	28	―	84
	計	215	―	495
石巻専修大学				
理工学部	食環境学科	40	―	160
	生物科学科	55	―	220
	機械工学科	40	―	160
	情報電子工学科	35	―	140
	生物生産工学科	0	―	0
経営学部	経営学科	190	―	760
人間学部	人間文化学科	40	―	160
	人間教育学科	40	―	160
	計	440	―	1,760
石巻専修大学大学院				
理工学研究科	物質工学専攻(M)	5	―	10
	機械システム工学専攻(M	5	―	10
	生命科学専攻(M)	5	―	10
	生命環境科学専攻(D)	3	―	9
	物質機能工学専攻(D)	3	―	9
経営学研究科	経営学専攻(M)	5	―	10
	経営学専攻(D)	3	―	9
	計	29	―	67

平成31年度		入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
専修大学					
経済学部一部	経済学科	490	―	1,960	
	国際経済学科	205	―	820	
法学部一部	法律学科	562	―	2,248	
	政治学科	153	―	612	
経営学部	経営学科	373	―	1,492	定員変更(△169)
	ビジネスデザイン学科	180	―	720	学科の設置(届出)
商学部一部	マーケティング学科	455	―	1,820	
	会計学科	220	―	880	
文学部	日本語学科	71	―	284	
	日本文学文化学科	114	―	456	
	英語英米文学科	142	―	568	
	哲学科	71	―	284	
	歴史学科	132	―	528	
	環境地理学科	51	―	204	
		0	―	0	平成31年4月学生募集停止
	ジャーナリズム学科	124		496	学科の設置(届出)
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	235	―	940	
人間科学部	心理学科	72	―	288	
	社会学科	122	―	488	
経済学部二部	経済学科	76	―	304	定員変更(△14)
法学部二部	法律学科	76	―	304	定員変更(△14)
商学部二部	マーケティング学科	76	―	304	定員変更(△14)
	計	4,000	―	16,000	
専修大学大学院					
経済学研究科	経済学専攻(M)	30	―	60	
	経済学専攻(D)	3	―	9	
法学研究科	法学専攻(M)	25	―	50	
	民事法学専攻(D)	3	―	9	
	公法学専攻(D)	3	―	9	
文学研究科	日本語日本文学専攻(M)	10	―	20	
	英語英米文学専攻(M)	5	―	10	
	哲学専攻(M)	5	―	10	
	歴史学専攻(M)	10	―	20	
	地理学専攻(M)	5	―	10	
	社会学専攻(M)	5	―	10	
	心理学専攻(M)	10	―	20	
	日本語日本文学専攻(D)	3	―	9	
	英語英米文学専攻(D)	2	―	6	
	哲学専攻(D)	2	―	6	
	歴史学専攻(D)	5	―	15	
	地理学専攻(D)	3	―	9	
	社会学専攻(D)	3	―	9	
	心理学専攻(D)	3	―	9	
経営学研究科	経営学専攻(M)	20	―	40	
	経営学専攻(D)	3	―	9	
商学研究科	商学専攻(M)	10	―	20	
	会計学専攻(M)	15	―	30	
	商学専攻(D)	2	―	6	
	会計学専攻(D)	2	―	6	
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	28	―	84	
	計	215	―	495	
石巻専修大学					
理工学部	食環境学科	40	―	160	
	生物科学科	55	―	220	
	機械工学科	40	―	160	
	情報電子工学科	35	―	140	
	生物生産工学科	0	―	0	平成25年4月学生募集停止
経営学部	経営学科	190	―	760	
人間学部	人間文化学科	40	―	160	
	人間教育学科	40	―	160	
	計	440	―	1,760	
石巻専修大学大学院					
理工学研究科	物質工学専攻(M)	5	―	10	
	機械システム工学専攻(M	5	―	10	
	生命科学専攻(M)	5	―	10	
	生命環境科学専攻(D)	3	―	9	
	物質機能工学専攻(D)	3	―	9	
経営学研究科	経営学専攻(M)	5	―	10	
	経営学専攻(D)	3	―	9	
	計	29	―	67	

設置の趣旨等を記載した書類（目次）

ア	設置の趣旨及び必要性	・・・・・	p. 1
イ	学部・学科等の特色	・・・・・	p. 4
ウ	学部・学科等の名称及び学位の名称	・・・・・	p. 5
エ	教育課程編成の考え方及び特色	・・・・・	p. 5
オ	教員組織の編成の考え方及び特色	・・・・・	p. 9
カ	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	・・・・・	p.10
キ	施設、設備等の整備計画	・・・・・	p.11
ク	入学者選抜の概要	・・・・・	p.14
ケ	取得可能な資格	・・・・・	p.15
コ	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	・・・・・	p.15
サ	管理運営	・・・・・	p.16
シ	自己点検・評価	・・・・・	p.17
ス	情報の公表	・・・・・	p.19
セ	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	・・・・・	p.21
ソ	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	・・・・・	p.23

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

１　建学の精神と学風

専修大学は、１８８０年（明治１３年)、米国留学から帰国した相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の４人の若者により創立された。

創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えた。

４人の創立者は、帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立し、わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとした。

いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担い、新時代を担う青年を教育・指導することによって、社会に「報恩奉仕」したその精神が本学の建学の精神であり、「質実剛健・誠実力行」が学風となっている。

２　２１世紀ビジョン

本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を２１世紀ビジョンに据えた。

社会知性（Socio -Intelligence）とは、専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながら、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である。

今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題が山積しており、これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められている。

こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」であると考え、それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあり、２１世紀において、社会知性開発大学としての道を歩んでいる。

３　設置の必要性

１８歳人口の減少期において、今後、本学が多様化、個性化を図りつつ、さらなる発展を遂げるためには、社会の要請を踏まえつつ、建学の精神に基づき、学部、学科における教育研究上の理念、目的を明確にし、特色ある個性的な目的や特徴と独自の存立意義を学内外に明らかにすることが重要となっている。

また、学術研究の高度化に伴い学部教育が対象とする専門領域も広範囲にわたっていることから、進学希望者の興味と関心や学習意欲に柔軟に応えていくために、学生の選択の幅や流動性を高める工夫も重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を勘案した教育組織の整備が求められている。

一方、本学の文学部では、それぞれの専門分野における教育研究を通じて、人間の営為に関する高度で体系的な専門知識と幅広い教養を身に付けるとともに、いかなる権威にもとらわれない柔軟な発想と豊かな人間性を兼ね備えた有為な人材の養成を目指した学部教育を展開してきた。

しかしながら、昨今の社会環境の複雑化や多様化に伴い、文学部において対象としてきたそれぞれの専門分野における教育研究領域も多様な広がりをみせていることから、近年の学術研究の進展に対応するための教育研究の質的向上にむけた教育研究体制の整備と充実が必要となってきている。

今後、本学が社会の多様な期待や要請に適切に応え、自律性に基づく多様化や個性化を推進していくためには、自らの責任において、社会や学生のニーズに対応した組織体制の見直しや教育内容の充実、教育方法の改善など、学部教育における組織改革と教育改革に格段の努力を注ぐことが重要であると考えている。

このような高等教育を取り巻く社会環境の変化や学術研究の進展に伴う社会的な要請、進学希望者の動向などを十分に踏まえるとともに、特に、昨今の進学需要や人材需要の動向を見据えたうえで、既設の文学部の人文・ジャーナリズム学科を発展的に改組して、その教育課程及び教員組織等を基に、平成３１年４月よりジャーナリズム学科を設置することとした。

なお、ジャーナリズム学科の入学定員 124 人については、既設の人文・ジャーナリズム学科の入学定員 93 人を移行するとともに、経済学部二部の経済学科の入学定員 90 人から 14 人、法学部二部の法律学科の入学定員 90 人から 14 人、商学部二部のマーケティング学科の入学定員 90 人から 3 人を移行することとしており、大学全体の収容定員の変更を伴わない計画としている。【資料１】

４　卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

（１）卒業後の進路

ジャーナリズム学科の卒業後の進路としては、新聞・放送・出版などの報道関係機関の他、ＩＴ企業・エンタテインメント会社・広告会社などのメディア関連産業などにおいて、ニュース・論評・取材・製作・供給などの諸活動に携わるとともに、文化関連の各種事業体（例えば、文化振興事業団・文化会館・美術館・博物館・図書館・ＮＰＯ・各種文化産業 等）に所属し、文化事業に関する企画や運営などに携わることにより、産業の発展や文化の振興に貢献することが期待される。

（２）既設の文学部の求人実績

既設の人文・ジャーナリズム学科では、開設以来、現代マスコミのビジネス形態やメディアを通じて実践されるジャーナリズム活動について理解するとともに、情報の影響力や真実性、情報を取捨選択するメディアリテラシー能力を身に付けて、社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成してきた。その教育研究は、社会から高い評価と信頼を得ており、これまで人文・ジャーナリズム学科に寄せられた求人件数の実績から、人材を受け入れる側の需要の高さをうかがうことができる。【資料２】

今般のジャーナリズム学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の人文・ジャーナリズム学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、既設の人文・ジャーナリズム学科の発展的な改組による充実を図ることから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

（３）卒業生の採用意向調査

ジャーナリズム学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業等を対象としてジャーナリズム学科の設置の必要性やジャーナリズム学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業等においては、有効回答数 283 社の約 70.3%にあたる 199 社が「不足している」と回答していることから、人材不足の状況をうかがうことができるとともに、ジャーナリズム学科の設置については、有効回答数 283 社の約 69.3%にあたる 196 社が「必要性を感じる」と回答しており、ジャーナリズム学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 283 社の約 49.8%にあたる 141 社が「採用したい」と回答している。

このような限定された一部の民間企業等に対する調査結果においても、ジャー

ナリズム学科を卒業した人材への需要が高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。【資料３】

５　教育研究上の目的、人材の養成及び研究対象とする学問分野

（１）文学部

文学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「文学関係」として、日本語学、日本文学文化学科、英語英米文学、哲学、歴史学、環境地理学、人文・ジャーナリズム学の各分野における研究を通じて、急速に進む国際化と情報化の中で、人間の営為に関する高度で体系的な専門知識と幅広い教養を身につけるとともに、いかなる権威にもとらわれない柔軟な発想と豊かな人間性を兼ね備えた有為な人材を養成することを目的としている。

（２）ジャーナリズム学科

ジャーナリズム学科では、ジャーナリズム学における教育研究を通して、広く社会に貢献することを目的として、「ジャーナリズム学に関する知識と能力を社会の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成する」こととする。

また、ジャーナリズム学科では、養成する人材を踏まえて、学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき知識・能力について、以下の通り、定めることとする。

①文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。

②社会事象に強い関心を抱き、氾濫する情報のなかの真実に自ら迫る力を有している。

③課題を発見・調査し、自らの考えや判断を明確に表現し、他者に正しく伝えることができる。

④現代社会における諸問題や実践的な課題に対し、主体的に取り組み、解決に向けて問題点を整理し、分析することができる。

イ　学部･学科等の特色

ジャーナリズム学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「ジャーナリズム学分野」として、ジャーナリズム学における教育研究を通して、広く社会に貢献することを目的として、「ジャーナリズム学に関する知識と能力を社会の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成す

る」こととしている。

また、前述のとおり、ジャーナリズム学科の卒業後の進路としては、新聞・放送・出版などの報道関係機関の他、ＩＴ企業・エンタテインメント会社・広告会社などのメディア関連産業などにおいて、ニュース・論評・取材・製作・供給などの諸活動に携わるとともに、文化関連の各種事業体（例えば、文化振興事業団・文化会館・美術館・博物館・図書館・ＮＰＯ・各種文化産業 等）に所属し、文化事業に関する企画や運営などに携わることにより、産業の発展や文化の振興に貢献することが期待される。

このことから、ジャーナリズム学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、ジャーナリズム学における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとする。

ウ 学部･学科等の名称及び学位の名称

ジャーナリズム学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「ジャーナリズム学分野」として、ジャーナリズム学における教育研究を通して、広く社会に貢献することを目的として、「ジャーナリズム学に関する知識と能力を社会の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成する」こととしている。

このような、ジャーナリズム学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野とジャーナリズム学科における養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科の名称を「ジャーナリズム学科」、学位を「学士（ジャーナリズム学)」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Journalism」、学位の英訳名称を「Bachelor of Journalism」とすることとした。

学科の名称	ジャーナリズム学科	「Department of Journalism」
学位の名称	学士（ジャーナリズム学）	「Bachelor of Journalism」

エ 教育課程編成の考え方及び特色

１　教育課程の編成方針

ジャーナリズム学科では、教育研究の目的及び養成する人材の目的を達成するために、教育課程を「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の４つの科目群から構成することとし、教育課程全体の体系性・順次性を確保し、かつ教養教育と専門教育の有機的連携を図ることとしている。

「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」では、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえるとともに、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、具体的な教育目標を立て、その教育目標に対応する科目群から編成することとしており、「専門科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としている。

２　学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針

ジャーナリズム学科では、ジャーナリズム学における教育研究を通して、広く社会に貢献することを目的として、「ジャーナリズム学に関する知識と能力を社会の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成する」ことを踏まえて、学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき知識・能力について、以下の通り、定めている。

①文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。

②社会事象に強い関心を抱き、氾濫する情報のなかの真実に自ら迫る力を有している。

③課題を発見・調査し、自らの考えや判断を明確に表現し、他者に正しく伝えることができる。

④現代社会における諸問題や実践的な課題に対し、主体的に取り組み、解決に向けて問題点を整理し、分析することができる。

ジャーナリズム学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を次のとおり、定めることとする。

（１）学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

①人類の文化や社会、自然など共通に求められる幅広い知識の習得及び様々な角度から物事を見ることができる能力を習得するための科目を配置する。

②ジャーナリズム活動の基礎となる理論や知識の習得とともに、表現活動や実践活動の場面に必要となるスキルや実践力を習得するための科目を配置する。

③社会事象に関する情報を収集・処理・分析する知識を習得するとともに、情報の意義や役割を理解し、情報を主体的に活用する能力を習得するための科目を配置する。

④課題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析するとともに、習得した知識・能力を活用し、問題を解決する能力を習得するための科目を配置する。

（２）学位授与の方針を踏まえた教育課程実施の方針

①学位授与に求められる体系的な教育課程の構築に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の観点を踏まえた編成としており、特に、初年次教育は、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる内容とし、キャリア教育は、卒業後も自律・自立して学習できる観点を踏まえた内容としている。

②知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。

③学修者の能動的な学修への参加を促すために、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする能動的学修を導入するとともに、問題解決能力や批判的思考力を養うために、教室外での共同学習、ケーススタディなどによる発見学習、調査学習、体験学習を導入する。

④教育課程編成・実施の方針が、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成するという目的のもとに策定され、かつ、教育課程の編成において、体系性と順次性が明確であることを示すために、授業科目の系統性を示す科目ナンバリングを導入する。

⑤年次やセメスターごとの教育内容の全体が俯瞰でき、時系列に沿った到達目標が理解できることで、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、卒業後の進路を踏まえた典型的な履修モデルを整備するとともに、ＣＡＰ制の意義を踏まえ履修登録単位数を明示することとしている。

３　各科目群の設定理由

（１）転換・導入科目

「転換・導入科目」は、専修大学の入門・基礎科目として位置づけられている。高等学校段階の教育と大学での教育を接続させるための初年次教育としての目的を重視して、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を配置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる最低限の読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力などの技能や能力を身につける。

また、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修すると同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけるために、中央教育審議会答申などで指摘されている「学士力」を意識し、「データ分析入門」、「キャリア入門」、「あなたと自然科学」など、6 科目 10 単位を配置する。

（２）教養科目

「教養科目」は、「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」、「融合領域科目」、「保健体育系科目」から構成している。各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることを目的としている。「人文科学基礎科目」、「社会科学基礎科目」、「自然科学系科目」では、特に、文化・歴史・社会、自然など幅広い教養を身につけることを目的としている。また、「融合領域科目」は、基礎的な知識や技能を背景として、専門教育以外の異なる視点からの総合的な学習経験と創造的思考力の涵養を目指すものである。「保健体育系科目」は、自身の健康やスポーツへの理解を深める目的にとどまらず、自己管理力やチームワークなども養成する目的を有している。これらの科目は、学部・学科を超えた普遍性の理解を基本理念とし、多面的なものの見方の基礎を養成することから、94 科目 200 単位を配置する。

（３）外国語科目

「外国語科目」は、英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行うことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野からさまざまな問題に取り組む力を身につけることを目的としている。英語のうち、１年次および２年次に履修する、外国語の基礎的な運用能力の獲得と適切なコミュニケーション能力の養成を目的とした科目は、入学時に行うプレイスメントテストに基づいた習熟度別の少人数クラスを編成し、レベル別の授業とすることで、能力の向上を目指している。英語以外の外国語については、多くの学生が初めて学ぶ科目であることを踏まえ、初級・中級・上級とそれぞれの学習段階での到達目標を明確にしたレベル別の授業としている。また、異文化・多文化への理解を深めるために、講義形式で世界の諸地域の言語とその背景となる文化を学ぶ科目を含めて、181 科目 263 単位を配置する。

（４）専門科目

「専門科目」は、「基礎科目」、「基幹科目」、「発展・応用科目」、「関連科目」の科目群から編成することとしており、４年間の体系的な科目履修を通して、知識と能力を身につけることが可能となるよう配慮し、基礎から基幹、基幹から応用へと発展させるための教育課程の編成としている。

１）基礎科目

「基礎科目」は、ジャーナリズム学を学ぶ目的やジャーナリズム学の学問体系の理解のもと、ジャーナリズム活動の基礎となる理論や知識の理解と表現活動に必要となる情報表現スキルを習得するための科目として、4 科目 8 単位を必修科目として配置するとともに、12 科目 24 単位を選択科目として配置する。

２）基幹科目

「基幹科目」は、「基礎科目」の理解のうえに、ジャーナリズムに関する基本をより具体的に理解するとともに、「専門教育」における「発展・応用科目」を履修にあたっての基盤となる基礎的な理論や知識を習得するための科目として、26 科目 52 単位を選択科目として配置する。

３）発展・応用科目

「発展・応用科目」は、ジャーナリズムに関する基礎的な知識を実践活動の場面に適用することができる実践力をもって、ジャーナリズムの諸活動を主体的かつ合理的に行う能力と態度を育成するとともに、各自のテーマに即した研究計画の設定から資料収集や事例分析、意見交換、成果発表などの能動的な学習を通して、基礎的な研究能力を養成するための科目として、6 科目 16 単位を必修科目として配置するとともに、29 科目 58 単位を選択科目として配置する。

４）関連科目

「関連科目」は、卒業後の進路を踏まえたうえで、学生の興味と関心に応じた選択の幅を広げ、主体的な科目の選択が可能となるための科目として、30 科目 60 単位を選択科目として配置する。

オ　教員組織の編成の考え方及び特色

ジャーナリズム学科は、既設の人文・ジャーナリズム学科における教育研究実績を基盤とする新たな教育研究の展開を目指すことから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編成としている。

具体的には、ジャーナリズム学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「ジャーナリズム学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「ジャ

ーナリズム学分野」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としているとともに、教育上主要と認める授業科目を中心として、当該専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授 11 人及び准教授 1 人を完成時に配置する計画としている。

また、ジャーナリズム学科の教員組織の年齢構成については、40 歳代 6 人、50 歳代 3 人、60 歳代 3 人から構成する計画をしており、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、ジャーナリズム学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしないこととしている。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1　教育方法

（1）授業の方法

授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式や実習形式による授業形態を採ることとしている。

（2）学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に即した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は10人から学年定員の約130人を目安とするほか、演習形式は5人から15人、実習形式は10人から40人とする。

（3）配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の４年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

（4）履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえ、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高

めるために、１学年あたりの卒業要件科目の標準的な履修登録単位数の上限を48単位とする。

（５）厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行う。また、統一的な評価基準としてＧＰＡ制度における成績評価区分を活用し、厳格な成績評価を実施する。

２　履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じるオフィスアワーの時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門科目では、専門分野の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。【資料４】

３　卒業要件

卒業要件は、学部に４年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとし、「転換・導入科目」から必修科目6単位、「教養科目」から6単位、「外国語科目」から8単位を修得することを卒業要件とする。

「専門科目」は、「基礎科目」の必修科目8単位と「発展・応用科目」の必修科目16単位を修得したうえで、「基礎科目」、「基幹科目」、「発展・応用科目」、「関連科目」から合計で58単位以上を修得することを卒業要件とする。

キ　施設、設備等の整備計画

１　校地、運動場の整備計画

ジャーナリズム学科を設置する生田キャンパスは、神奈川県川崎市多摩区東三田

に位置し、豊かな自然に囲まれた生田緑地に最新の学術・研究施設を誇るキャンパスとして、現在、157,369.14 ㎡の校地面積を有しており、その内訳は、校舎敷地面積が 116,973.92 ㎡、運動場面積が 40,327.42 ㎡となっている。

運動用設備としては、温水プール、フェンシング場、ランニングギャラリー、アリーナ、柔道場、卓球場、トレーニング室を備える総合体育館の他、第１・第２体育館、ゴルフ練習場、アーチェリー場、多目的グランド（人工芝）、テニスコート、等を備えているとともに、敷地内の空地を利用して、学生が休息するための十分な場所を確保することで、大学教育に相応しいキャンパス環境を整えている。

２　校舎等施設の整備計画

ジャーナリズム学科を設置する生田キャンパスでは、現在、11 の教室棟、図書館分館等の校舎施設を有しており、大学設置基準に定める校舎面積は 126,858.13 ㎡で、学部教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室 123 室、演習室 74 室、実験・実習室 100 室、情報処理学習施設 33 室、語学学習施設 5 室の他、教員研究室、非常勤講師室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂等を整備している。

ジャーナリズム学科は、既設の文学部の人文・ジャーナリズム学科の入学定員及び経済学部二部の経済学科、法学部二部の法律学科及び商学部二部のマーケティング学科の入学定員の一部を移行して設置することとしており、大学全体の収容定員の変更を伴わない計画としていることから、現有校舎等を有効的に利用する計画としている。

また、ジャーナリズム学科では、専任教員を 12 人配置することとしているが、ジャーナリズム学科の専任教員は、既設の文学部の人文・ジャーナリズム学科から７人、ネットワーク情報学部のネットワーク情報学科から１人、教養教育担当から 3 人を異動する計画としており、異動する専任教員の個人研究室については、既に整備がなされている。また、新規採用 1 人の研究室についても整備がされる。

設備については、現在、保有している機械・器具 37,072 点を有効的に利用することとしている。

３　図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館は、生田キャンパスに本館及び生田分館が、神田キャンパスに神田分館及び法科大学院分館が整備されている。総合図書館としての機能を持つ本館は、専有延床面積 17,419.00 ㎡、収容可能冊数約 180 万冊、閲覧席数 835 席の規模である。生田分館は専有延床面積 4,856.00 ㎡、収容可能冊数約 23 万冊、閲覧席数 650

席であり、学生が図書館を身近に感じてもらうための施策として、文庫･新書判図書や一般書を中心に収集している。

学生用の図書に関しては、教員ならびに図書館職員が学修・教養等に必要な図書を選書し、あわせてシラバス掲載図書や、授業に関連して教員が推薦した「教員推薦図書」の購入を行っている。購入希望の申し込みも積極的に受け付けており、OPAC（オンライン閲覧目録）画面からの受付も可能となっている。さらに、ジャーナリズム学科で作成・配布予定のリーフレット『ジャーナリズムを学ぶ者のための１００冊』に対応した文献整備を予定している。平成 28 年度の生田キャンパスでの図書の年間収集冊数は、約 17,000 冊にのぼり、本学科関連図書は今後も継続して、さらに収集に努めていく。

また、平成 29 年に講談社から寄贈を受け、生田分館内に整備した「人物アーカイブ」関係資料は、昭和後期から平成 10 年代にかけて活躍したさまざまなジャンルの人物に関する新聞・雑誌の記事の切り抜き資料群であって、約 77,000 名についての記事を収めている。あわせて、東日本大震災に関する報道資料等も収蔵する。本学科に学ぶ学生にとっては、ジャーナリズムの姿を間近に見ることのできる設備となっている。

本学科関連分野の資料に関して、現在整備されている学術雑誌等は【資料５】のとおりである。

電子ジャーナルは、単体での購入のほかに、パッケージとして、「SpringerLink」、「Science Direct」などを購入し提供している。オンライン・データベースは、「日経 BP 記事検索サービス」、「東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー」、「eol」、「日経テレコン」、「Lexis Advance」、「The Times Digital Archive(1785-1985)」、「聞蔵Ⅱシリーズ」、「ヨミダス歴史館」、「毎索」などを提供している。なお、「日経テレコン」は、平成 30 年度に端末固定式から IP アドレス認証式へ変更することで、学内のさまざまな端末からアクセスが可能となり、利便性の向上が見込まれる。電子ブックの導入も積極的に進めており、平成 29 年度は全体で約 2,200 冊分を導入した。これらの電子資料は、図書館ホームページに展開している「データベースリンク集」、「電子ジャーナル・電子ブック」から、容易にアクセスすることができる。学外からの接続については既存の VPN 接続機能に加え、平成 30 年度から学術認証フェデレーション「学認（GakuNin)」の提供も開始する予定である。

図書館の開館状況について、授業期間中の図書館の開館時間は 9 時から 21 時（土曜は 19 時）である。休日開館は、前期・後期の試験期間前を中心に年間 15 日間実施しており、年間開館日数は約 290 日となる。

施設面では、平成 26 年、本館 4 階の視聴覚資料閲覧スペース（1,061.25 ㎡）を

一部改装してキャスター付のテーブル 30 台、椅子 40 脚、ホワイトボード 20 台等を設置し、アクティブ･ラーニングに対応した施設を整備した。これにより、同スペースの名称を「AV プラザ」から「アクティブラーニング･プラザ」に変更し、新たな学修環境を提供することができている。図書については、学修用和図書等は開架閲覧室に、学術書・洋書等は書庫に配架されており、ほとんどすべてが開架式となっている。これらの図書資料は日本十進分類法により分類、配架されているため、教員･学生は、関連分野ごとに図書資料そのものを一覧し、直接手に取ることができる。

レファレンスについては、専門スタッフが平日 9 時から 17 時（土曜は 12 時）まで対応できる体制を整えた。他機関との相互協力という点では、OPAC での CiNii Books、CiNii Articles、国立国会図書館サーチ等の横断検索機能による他機関の所蔵状況表示と、それに伴う文献複写や現物貸借、神奈川県内大学図書館（41 校）間での共通閲覧証の発行、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用などを実施している。

本学では、上述のように図書館施設・サービスの充実に努めており、本学科の研究・学修に関して、十分な環境を整備している。

ク 入学者選抜の概要

1　受入方針

ジャーナリズム学科では、ジャーナリズム学に関する知識と能力を社会の諸活動の場面に適用することができる行動力をもって、社会の幅広い分野で活躍できる人材を養成することから、ジャーナリズム学に対する興味と関心や学習意欲を有しており、学部教育を受けるために必要となる基礎的な学力として、高等学校の主要科目における教科書レベルの知識を有している者を受け入れることとする。

2　選抜方法等

選抜方法は、付属高等学校推薦入学試験、教育交流提携校推薦入学試験、指定校制推薦入学試験、スポーツ推薦入学試験、帰国生入学試験、外国人留学生入学試験、一般入学試験、大学入試センター試験利用入試により選抜することとし、付属高等学校推薦入学試験は書類審査と作文、教育交流提携校推薦入学試験及び指定校制推薦入学試験は書類審査、スポーツ推薦入学試験は作文と面接試験、帰国生入学試験は書類審査と小論文と面接試験、外国人留学生入学試験では、日本留学試験の結果と小論文と面接、一般入学試験は筆記試験、大学入試センター試験利用入学試験は同試験の結果により、それぞれ選考を行うこととしている。

ジャーナリズム学科の各選抜方法の募集定員については、推薦・特別入学試験で49 人、一般入学試験 63 人、大学入試センター試験利用入学試験 12 人とする。

ケ 取得可能な資格

ジャーナリズム学科で取得可能な資格としては、国家資格としての図書館司書及び博物館学芸員がある。いずれも規定の課程科目を別途履修することが求められる。

コ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

１　企業実習（インターンシップを含む）

インターンシップについては、正課科目として配置する学科独自の制度を有する。同制度については、年によって受け入れ企業・団体に若干の差があるものの、おおよそ以下の企業との間で実施のための契約・覚書きをすでに締結している。主として夏期休暇期間中に、受け入れ企業・団体の指定場所において約２週間のインターンシップを実施する。また、事前学習及び事後学習を学内において実施する。受け入れ機関に評定を求めたうえで、事前・事後学習を加味した総合評価により最終評定を行う。

【受け入れ企業】

朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、東京新聞（中日新聞社）、沖縄タイムス社、琉球新報社、山陽放送、京都放送、日活、OurPranet-ＴＶ、日本コンテンツ審査センター、ＣＣＣ（カルチャー・コンビニエンス・クラブ）、とうこう・あい、インプレスホールディング、講談社、ポット出版、凸版印刷、読書人、ボイジャー、日外アソシエーツ、フライングライン、府中市立図書館、トーハン、ＪＰＩＣ（出版文化産業振興財団）、ＪＣＬＵ（自由人権協会）、情報公開クリアリングハウス等約30社・団体。

【資料６】

２　海外語学研修

文学部ジャーナリズム学科所属の学生は、本学の国際交流協定校等（以下、協定校）で実施している「中期留学プログラム」「夏期留学プログラム」「春期留学プログラム」に参加可能であり、前期又は後期１学期間及び夏期・春期の長期休暇中に外国語能力の向上や異文化理解力を育む機会が提供されている。

派遣期間が１学期間の中期留学プログラムについては、「中期留学プログラム１～８」の計 16 単位が認定される。短期プログラムとして、夏期休暇中に実施

する「夏期留学プログラム」と、春期休暇期間中に実施する「春期留学プログラム」については、「海外語学短期研修」として 2 単位が認定される。

派遣先大学は、本学の国際交流協定校や、長年学生を派遣している語学学校であることから、相互の信頼関係が構築されている。また、学生の引率として本学教職員が帯同する際には、プログラムの点検やカリキュラム内容に関する打合せを現地担当者と行っている。

サ 管理運営

1 教員組織の編成方針

教員組織の編成は、学長の統督の下、学部教授会においては学部長、大学院研究科委員会においては大学院研究科長、法科大学院教授会においては法科大学院長が、それぞれ校務の責任者となり、教員組織を円滑に運営している。なお、学長の職務を助けるために副学長を置いている。

教員組織間の連携と調整を図るために、学部においては学部長会、大学院研究科においては大学院委員会が機能している。学部長会は、本学における学術の研究、教育及び教員の人事等に関する方針を審議し、各学部間の連絡調整を図る機関であり、大学院委員会は、各研究科に関する共通の重要事項、各研究科間の連絡調整に関する事項などを審議する。

2 教授会

教授会は、専修大学学則第47条において、「各学部に教授会を設け、教授及び准教授をもって組織する。ただし、学部の定めるところにより、専任の講師を加えることができる。」旨の規定がなされている。

審議事項は、専修大学学則第49条で「教授会は、学長が教育研究に関する決定を行うに当たり、次に掲げる事項について審議し、意見を述べるものとする。(1)学部の教育課程その他授業に関すること。(2)学生の入学、卒業その他学生の在籍に関すること。(3)試験に関すること。(4)学生の指導及び賞罰に関すること。(5)奨学生その他学生推薦の専攻に関すること。(6)教授、准教授、講師、助教その他の教員の人事にかかる教育研究業績等の審査に関すること。(7)本大学の長期在外研究員、長期国内研究員及び中期研究員に関すること。(8)学部長の推薦に関すること。(9)本学即その他本大学の規程等によって教授会の議を経ることとされていること。(10)教授会規程並びに制定及び改廃に関し教授会の議を経ることとされている規程等の制定及び改廃に関すること。(11)自己点検・評価に関すること。(12)前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴く

ことが必要なものとして学長が定めたこと。」と規定し、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができることとしている。学部長は、定期又は必要と認めたとき教授会を招集する。

3　教授会以外の委員会

学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項の検討や起案などのために、全学的な委員会として「教育開発支援委員会」「自己点検・評価委員会」「入学試験委員会」「専修大学全学カリキュラム協議会」「学生部委員会」「国際交流センター委員会」等の各種委員会を設置しており、各委員会の構成員は、専任の教授、准教授、講師により構成され、各委員会の規程に基づき定期的に開催している。

シ 自己点検･評価

本学では、大学の教育理念、目標に照らし、教育研究活動の状況を点検・評価することにより、現状を正確に把握、認識するとともに、その達成状況を評価し、評価結果に基づく改革・改善の推進を図ることを目的として、自己点検・評価を実施している。

1　実施方法について

本学における自己点検･評価活動は､「ＰＤＣＡサイクルを活用した点検･評価」、「本学の教育・研究水準の向上を図る点検・評価」を基本方針とし、この方針に基づき「公益財団法人大学基準協会が定める『大学基準』及び『点検・評価項目』に基づく点検・評価活動」、「『達成目標』『評価の視点』に基づく点検・評価活動」を行っている。

具体的には、２年間を１サイクルとし、最初に公益財団法人大学基準協会が定める「点検・評価項目」への取組み状況チェックシートを作成し、同シートに基づく自己評価を行う。その後、改善・改革が必要な項目を中心に各機関が取り組む「点検・評価項目」を抽出、併せて「達成目標」「評価の視点」を設定し、点検・評価活動を行うことで、本学の教育・研究水準の向上を図っている。

2　実施体制について

本学の「自己点検・評価委員会」は、全学的な自己点検・評価を行う「自己点検・評価運営委員会」と、「学部」、「大学院」、「全学カリキュラム関係」、「教育開発支援関係」、「図書館」等といった各機関別の自己点検・評価を行う「機関別自己点検・

評価実施委員会」（22 実施委員会を設置）によって構成され、学長を最高責任者として、各学部、研究科、各委員会等が連携協力して自己点検・評価を行うことで、教育研究の質の保証を図っている。

文学部では、機関別自己点検・評価実施委員会に該当する「文学部自己点検・評価実施委員会」が中心となり、課題認識のもとに、中期的な目標設定と具体的な計画策定を行い、その達成状況の評価及び評価結果の活用が可能となるシステムの構築を図っている。

3　公表及び評価項目

（1）結果の活用・公表について

自己点検・評価の結果については、２年毎に「自己点検・評価報告書」として取りまとめ、大学ホームページを通して広く社会に公表し、社会の評価を受けることを通して、教育研究水準の一層の向上に努めている。

なお、平成 26 年度に受審した公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）の「評価結果」及び申請の際に同協会へ提出した「点検・評価報告書」も大学ホームページを通して公表するとともに、評価の際に付された「努力課題」についても改善・改革を図っている。

（2）評価項目等について

本学における自己点検・評価の項目は、基本方針に基づき、公益財団法人大学基準協会が定める「大学基準」及び「点検・評価項目」にしたがって設定している。特に、以下の視点を重視することで、全学レベルにおける教育研究の質の向上を図っている。

①理念・目的
②内部質保証
③教育研究組織
④教育課程・学習成果
⑤学生の受入れ
⑥教員・教員組織
⑦学生支援
⑧教育研究等環境
⑨社会連携・社会貢献

また、経営学部（文学部）における自己点検・評価の項目も、以下の視点を重視したうえで、機関レベルにおける教育研究の質の向上を図っている。

①理念・目的
②内部質保証
③教育課程・学習成果
④学生の受け入れ
⑤教員・教員組織

ス 情報の公表

1　実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等の適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供することとしている。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えるとともに、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしている。

2　実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表する。

（1）大学の教育研究上の目的に関すること。
（2）教育研究上の基本組織に関すること。
（3）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
（4）入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
（5）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
（6）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
（7）校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
（8）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。

（９）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

３　公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえで行うこととする。

（１）大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部、学科又は課程等ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。

（２）教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。

（３）教員組織に関する情報については、年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを積極的に明らかにする。

（４）教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや職別の人数等の詳細を明らかにする。

（５）各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。

（６）入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。

（７）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。

（８）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。

（９）校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況を明らかにする。

(10) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報については、施設

費、教育充実費等の費用に関することを明らかにする。

(11) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況を明らかにする。

セ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修

（1）実施体制

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取組みについては、「専修大学教育開発支援委員会規程」を制定するとともに、当該委員会規程に基づき、専任教員で構成される「専修大学教育開発支援委員会」を設置し、授業方法の開発と改善を図るための調査、研究、提案及び実施の推進を図ることとする。

【資料７】

（2）実施内容

授業の内容及び方法の改善を図るための実施内容については、以下に掲げる項目による取組みを行う。

1）シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する要領を整備し、その内容を各学部・学科等に周知する。

2）学生の満足度、思考力等の測定及び学士課程教育の成果を検証するためのアセスメントテストを実施し、その結果を分析するとともに報告書を作成する。

3）授業科目の位置付けや卒業認定・学位授与の方針との関係性などを明確にするための様式（カリキュラム・マップ）を作成し、各学部・学科等に提供する。

4）授業科目にアクティブ・ラーニングを導入するための研修会を実施する。

5）先進的な取組みを行っている授業の事例集や、本学学士課程教育の概略、授業を行ううえで必要な情報やツールなどをまとめた冊子を作成し、教員に配布する。

2 大学の運営に必要な知識・技能の習得させるための研修等

（1）実施体制

本学における大学運営に必要な教職員への研修等の取組みについては、「学校法人専修大学スタッフ・ディベロップメント実施方針」を制定し、事務職員のみ

ならず、教員及び技術職員を含めて、大学等の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とした、知識・技能の習得及び能力・資質の向上のための活動を推進することとしている。

検討及び実施については、事務職員に対する研修等は、総務部人事課が、教員に対する研修等は教育開発支援委員会が中心となって行うこととしている。

なお、教育開発支援委員会が主催する研修等については事務職員も積極的に参加することとしている。

【資料８】

（２）実施内容

具体的な研修等の活動については、以下に掲げる項目により行う。

１）大学等の管理運営及び教育研究支援に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質の向上を図るための研修に関すること

２）建学の精神に照らした大学等の取組の自己点検・評価と内部質保証及び大学等の改革に資する研修に関すること

３）職員として求められているリーダーシップ能力、マネジメント能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、危機管理能力、政策提案・実現能力、問題解決能力及び事務処理能力等の向上を図るための研修に関すること

４）学生の人間形成を図るために行われる正課外の諸活動における様々な指導、援助等の研修に関すること

５）職員のスキルアップに役立つ資格取得に関すること

６）大学組織における業務の見直しや事務処理の改善等に関すること

７）その他ＳＤ活動として必要と認める事項

なお、研修会等は、大学が独自に企画して開催する「学内研修会等」と外部団体が主催して行う「学外研修会等」に大別し、学内研修会等は、次のとおり区分して実施することとしている。

①目 的 別　特定の知識・技能の修得や業務ごとの質的向上・改善等のための研修会等

②階 層 別　新入職員、中堅職員、管理・監督職職員など、経験や役職（職階）に応じて必要な知識を得るための研修会等

③自己啓発　職員個々が自主的に自己啓発、スキルアップ等を図るための研修会等

また、学外研修会等については、教職員が参加できる機会を積極的に提供することとしている。

ソ 社会的･職業的自立に関する指導等及び体制

1　教育課程内における取組み

「転換・導入科目」及び「教養科目」、「外国語科目」では、各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成することとしており、「転換・導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」の各科目群全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を修得することとしている。

特に、「転換・導入科目」の「キャリア基礎科目」に配置している「キャリア入門」及び「教養科目」の「融合領域科目」に配置している「キャリア科目１」と「キャリア科目２」を教育課程内における社会的・職業的自立に関する科目として位置付け、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

「専門科目」においては、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識、技能や態度の修得を涵養することを意図して、「インターンシップ」の科目を配置している。本科目の運営に当たっては、就業体験の実施に先立って社会人としての心構えやキャリア形成、働くことの意義や責任について説明する授業を実施し、その後、学生は休暇期間を利用して２週間程度の就業を体験する。終了後には、就業体験を行った企業や団体等に個々の学生についての評価・レビューを提出してもらい、学生からは報告書を提出させることを想定している。また、受入れ先となった企業や団体等の関係者を招いて、成果報告会も実施予定である。これら一連の経験を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識、技能や態度を修得するとともに、ジャーナリズム分野における専門的な知識獲得のための動機づけを行うこととしている。

なお、この教育課程内の取組みにおける組織体制として、「転換・導入科目」については、キャリアデザインセンター運営委員会と導入教育課程運営委員会が、「教養科目」については、キャリアデザインセンター運営委員会と融合領域科目運営委員会が連携して情報を共有し、授業科目の運営を行っている。キャリアデザインセンター運営委員会は、学科選出の委員が構成員となり、全学的理解と協調を図りつつ連絡・協議等を定期的に行う体制をとっている。

専門科目として実施しているインターンシップについては、学科教員が相互に連携しつつ協同で事前学習および各企業や団体等、派遣先の選定や学生の受入れ

要請を主体的に行う予定であり、実際に受入れが決定した各企業や団体等との契約締結、事務的なサポートについては、教務部が主体的に行うこととする。

２　教育課程外の取組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取組みとしては、職業興味検査、資格と仕事のセミナーなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、公務員試験講座、キャリア支援講座、就職支援プログラムなどにより職業及び就職に関する知識や技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、ＵＩＪターンガイダンス、各種仕事に関するガイダンスなどの進路や就職指導及び相談に加えて、企業による採用説明会及び公務員・独立行政法人等業務説明会、公務員人物対策指導など就職志望者に対する取組みや、地方発展に寄与する人材輩出に向けた就職支援協定締結を23府県1市（平成30年3月末現在）と結ぶ等、就職部、キャリアデザインセンター、エクステンションセンターが連携を図りながら行っている。

以上

資　　料

【資料１】学校法人専修大学　認可等に関わる組織の移行表

【資料２】文学部人文・ジャーナリズム学科 業種別就職状況
（平成 26 年度～平成 28 年度）

【資料３】民間企業等に対する人材需要調査結果－抜粋－

【資料４】履修モデル

【資料５】学科関連学術雑誌等一覧

【資料６】インターンシップ受け入れ先企業一覧

【資料７】専修大学教育開発支援委員会規程

【資料８】学校法人専修大学 スタッフ・ディベロップメント実施方針

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ｻｻｷ　ｼｹﾞﾄ 佐々木　重人 ＜平成28年9月＞		博士 （経営学）		専修大学　学長 （平成28．9～　）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 (学科長)	ﾔﾏﾀﾞ ｹﾝﾀ 山田　健太 ＜平成31年4月＞		法学士		ジャーナリズム論	1前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平18.4)	6日
							言論法	2前	2	1		
							現代社会とジャーナリズム	1･2･3後	2	1		
							言葉とメディア	2･3･4前	2	1		
							沖縄ジャーナリズム論	2･3･4前	2	1		
							ジャーナリズムとメディア	2･3･4後	2	1		
							ジャーナリズムの倫理	2･3･4後	2	1		
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
2	専	教授	ｳｴﾑﾗ ﾔｼｵ 植村　八潮 ＜平成31年4月＞		博士(コミュニケーション学)		出版学	1･2･3前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平24.4)	6日
							ジャーナリズムとアーカイブ	1･2･3後	2	1		
							アーカイブ発達史	1･2･3後	2	1		
							技術とメディア	2･3･4後	2	1		
							フォト・ジャーナリズム論	2･3･4後	2	1		
							雑誌ジャーナリズム論	2･3･4前	2	1		
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							アーカイブマネジメント	2･3･4前	2	1		
							デジタルアーカイブ	2･3･4前	2	1		
3	専	教授	ｸｷﾄﾞﾒ ﾀｹｼ 久木留　毅 ＜平成31年4月＞		博士(スポーツ医学)		ゼミナール1	3前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平17.4)	6日
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							スポーツ情報戦略	2･3･4前	2	1		
							スポーツ政策	2･3･4後	2	1		
							情報とスポーツ	1･2･3･4後	2	1		
4	専	教授	ｻｲﾄｳ ﾏｺﾄ 齋藤　実 ＜平成31年4月＞		修士(体育学)		ゼミナール1	3前	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平18.4)	6日
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							スポーツインテリジェンス特講	2･3･4前	2	1		
							スポーツ医科学情報	2･3･4後	2	1		
							現代社会とスポーツ	1･2･3･4前	2	1		
							アドバンストスポーツ	2･3･4前・後	4	2		
							スポーツ論(健康と生涯スポーツ)	2･3･4後	2	1		
5	専	教授	ﾀｶｼﾏ ﾋﾛﾕｷ 高島　裕之 ＜平成31年4月＞		博士(歴史学)		経済ジャーナリズム論	2･3･4前	2	1	専修大学 文学部 准教授 (平22.4)	6日
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							記録・史資料調査法	2･3･4前	2	1		
							記録・史資料調査実習	2･3･4後	2	1		
							文化情報資源論(博物館)	2･3･4前	2	1		
							中期留学プログラム1	2･3･4前・後	2	1		
							中期留学プログラム2	2･3･4前・後	2	1		
							中期留学プログラム3	2･3･4前・後	2	1		
							中期留学プログラム4	2･3･4前・後	2	1		
							中期留学プログラム5	2･3･4前・後	2	1		
							中期留学プログラム6	2･3･4前・後	2	1		
							中期留学プログラム7	2･3･4前・後	2	1		
							中期留学プログラム8	2･3･4前・後	2	1		
							専修大学入門ゼミナール	1前	2	1		

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
6	専	教授	ﾀｹﾀﾞﾄｵﾙ 武田　徹 ＜平成31年4月＞		修士(文学) ※		ジャーナリズムの思想史	1･2･3後	2	1	専修大学 文学部 教授 (平29.4)	6日
							ウエブジャーナリズム論	1･2･3前	2	1		
							テキストメディア論	1･2･3後	2	1		
							市民とメディア	2･3･4前	2	1		
							宗教とメディア	2･3･4前	2	1		
							政治ジャーナリズム論	2･3･4前	2	1		
							戦争ジャーナリズム論	2･3･4後	2	1		
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
7	専	教授	ﾉｸﾞﾁ ﾀｹﾉﾘ 野口　武悟 ＜平成31年4月＞		博士(図書館情報学)		アーカイブ概論	1･2･3前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平18.4)	6日
							教育とメディア	2･3･4前	2	1		
							国際ジャーナリズム論	2･3･4後	2	1		
							情報アクセシビリティ論	2･3･4後	2	1		
							プロジェクトB	3後	2	1		
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							インターンシップ	3･4前	2	1		
							アーカイブ総合実習	3･4前	2	1		
8	専	教授	ﾋﾗﾀ ﾀﾞｲｽｹ 平田　大輔 ＜平成31年4月＞		修士(体育学)		ゼミナール1	3前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平18.4)	6日
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							心理情報とメンタルマネジメント	2･3･4後	2	1		
							スポーツ心理の情報分析	2･3･4前	2	1		
							スポーツ総合実習	3･4前	2	1		
							スポーツリテラシー	1前・後	2	2		
							スポーツウェルネス	1前・後	2	2		
9	専	教授	ﾌｸﾄﾐ ﾀﾀﾞｶｽﾞ 福冨　忠和 ＜平成31年4月＞		経営学士		パブリックメディア論	1･2･3前	2	1	専修大学 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部 教授 (平19.4)	6日
							映像ジャーナリズム論	2･3･4後	2	1		
							コンテンツ産業論	2･3･4後	2	1		
							プロジェクトA	3前	2	1		
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							メディアコンテンツ制作	2･3･4前	2	1		
							コンテンツプロデュース	2･3･4前	2	1		
							学際科目12	2･3･4前	4	1		
10	専	教授	ﾏﾂｵｶ ｲｸｺ 松岡　郁子 ＜平成31年4月＞		学士(法学)		広告学	2･3･4前	2	1	朝日新聞 教育事業担当補佐 兼 女性プロジェクト担当 (昭61.4)	6日
							PR論	2･3･4後	2	1		
							プロジェクトA	3前	2	1		
							プロジェクトB	3後	2	1		
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							世論調査	2･3･4後	2	1		
11	専	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｴｲｼﾞ 渡辺　英次 ＜平成31年4月＞		修士(人間科学)		スポーツジャーナリズム論	2･3･4後	2	1	専修大学 商学部 教授 (平21.4)	6日
							プロジェクトA	3前	2	1		
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							コンディショニングのための情報分析	2･3･4前	2	1		
							ライフステージと健康情報	2･3･4後	2	1		
							測定・調査実習	3･4後	2	1		
							スポーツ論(スポーツライフデザイン論)	2･3･4前・後	4	2		

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
12	専	准教授	イ ウヨン 李 宇謙 ＜平成31年4月＞		博士(体育科学)		プロジェクトB	3後	2	1	専修大学 法学部 准教授 (平24.4)	6日
							ゼミナール1	3前	2	1		
							ゼミナール2	3後	2	1		
							ゼミナール3	4前	2	1		
							ゼミナール4	4後	2	1		
							卒業論文・制作	4通	6	1		
							コーチング論	2・3・4後	2	1		
							コーチング実習	2・3・4前	2	1		
							スポーツ文化の国際比較研究	2・3・4前	2	1		
13	兼担	教授	ｱｵｷ ｱｷﾐﾁ 青木 章通 ＜平成32年4月＞		修士(経営学) ※		新領域科目2	2・3・4前	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平17.4)	
14	兼担	教授	ｲｲｵ ﾋﾃﾞﾕｷ 飯尾 秀幸 ＜平成32年4月＞		文学修士 ※		学際科目1	2・3・4前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平8.4)	
							学際科目2	2・3・4後	2	1		
15	兼担	教授	ｲｼｶﾜ ﾀﾂｵ 石川 達夫 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		ロシア語初級1a	1前	1	1	専修大学 文学部 教授 (平24.4)	
							ロシア語初級1b	1後	1	1		
							ロシア語上級1a	3・4前	1	1		
							ロシア語上級1b	3・4後	1	1		
16	兼担	教授	ｲｼﾂﾞｶ ﾋｻｵ 石塚 久郎 ＜平成31年4月＞		博士 (History) (英国)		Intermediate English (SW) 1a	1前	1	1	専修大学 文学部 教授 (平19.4)	
							Intermediate English (SW) 1b	1後	1	1		
17	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ ﾋﾛﾔ 石原 裕也 ＜平成31年4月＞		博士(商学)		企業と会計	1・2前	2	1	専修大学 商学部 教授 (平26.4)	
18	兼担	教授	ｲﾄｳ ﾋﾛｱｷ 伊藤 博明 ＜平成31年4月＞		修士(文学) ※		芸術学入門	1・2前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平29.4)	
19	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ﾕｷﾀｶ 井上 幸孝 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		学際科目6	2・3・4前	2	1	専修大学 文学部 教授 (平20.4)	
							スペイン語初級2a	1前	1	1		
							スペイン語初級2b	1前・後	2	2		
							言語文化研究(アメリカ)	2・3・4前・後	4	2		
							海外語学短期研修1(スペイン語)	1・2・3前	2	1		
							海外語学短期研修2(スペイン語)	1・2・3後	2	1		
							海外語学中期研修1(スペイン語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修2(スペイン語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修3(スペイン語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修4(スペイン語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修5(スペイン語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修6(スペイン語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修7(スペイン語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修8(スペイン語)	2・3・4通	2	1		
20	兼担	教授	ｲﾏｲ ﾀｶｼ 今井 上 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		日本の文学	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平26.4)	
21	兼担	教授	ｴﾊﾗ ｱﾂｼ 江原 淳 ＜平成32年4月＞		文学士		新領域科目4	2・3・4後	2	1	専修大学 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部 教授 (昭62.4)	
22	兼担	教授	ｵｳ ﾉﾌﾞｺ 王 伸子 ＜平成32年4月＞		国際学修士		教養テーマゼミナール1	2通	4	1	専修大学 文学部 教授 (平3.4)	
							教養テーマゼミナール2	3通	4	1		
							教養テーマゼミナール3	4通	4	1		
							教養テーマゼミナール論文	3・4通	2	1		
23	兼担	教授	ｵｶﾀﾞ ﾓｴｺ 岡田 もえ子 ＜平成31年4月＞		Ph. D. in Linguistics (英国)		Basics of English (RL) 1a	1前	1	1	専修大学 商学部 教授 (平14.4)	
							Basics of English (RL) 1b	1後	1	1		
							Intermediate English (SW) 1a	1前	1	1		
							Intermediate English (SW) 1b	1後	1	1		
24	兼担	教授	ｵﾑ ｷｼﾞｭ 厳 基珠 ＜平成31年4月＞		文学博士 (韓国)		コリア語初級1a	1前	1	1	専修大学 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部 教授 (平15.4)	
							コリア語初級1b	1前・後	2	2		
							コリア語初級2a	1前	1	1		
							コリア語初級2b	1前・後	2	2		
							コリア語上級1a	3・4前	1	1		
							コリア語上級1b	3・4後	1	1		
							世界の言語と文化(コリア語)	1・2・3・4前	2	1		
							言語文化研究(アジア)2	2・3・4後	2	1		
							海外語学短期研修1(コリア語)	1・2・3前	2	1		
							海外語学短期研修2(コリア語)	1・2・3後	2	1		
							海外語学中期研修1(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修2(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修3(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修4(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修5(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修6(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修7(コリア語)	2・3・4通	2	1		
							海外語学中期研修8(コリア語)	2・3・4通	2	1		

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
25	兼担	教授	カネコ ヒロシ 金子　洋之 ＜平成31年4月＞		文学修士		論理学入門 ことばと論理	1･2前･後 1･2前･後	4 4	2 2	専修大学 文学部 教授 (平3.4)	
26	兼担	教授	コバヤシ アキヒロ 小林　昭裕 ＜平成31年4月＞		博士(農学)		科学論2a 科学論2b 新領域科目5	1･2･3･4前 1･2･3･4後 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経済学部 教授 (平24.4)	
27	兼担	教授	サクマ イツオ 作間　逸雄 ＜平成31年4月＞		経済学修士 ※		現代の経済	1･2後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (昭54.4)	
28	兼担	教授	サタケ ヒロヤス 佐竹　弘靖 ＜平成32年4月＞		修士(体育学)		スポーツ論(人類とスポーツ)	2･3･4前･後	4	2	専修大学 ネットワーク情報学部 教授 (平1.4)	
29	兼担	教授	サトウ ヒロアキ 佐藤　弘明 ＜平成32年4月＞		文学修士		Screen English a Screen English b	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 教授 (平1.4)	
30	兼担	教授	サトウ ヒロシ 佐藤　暢 ＜平成31年4月＞		博士(理学)		宇宙地球科学2a 宇宙地球科学2b 新領域科目3	1･2･3･4前 1･2･3･4後 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	
31	兼担	教授	サトウ マサユキ 佐藤　雅幸 ＜平成32年4月＞		体育学修士		スポーツ論(トレーニング科学)	2･3･4後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (昭59.4)	
32	兼担	教授	サトウ ミツル 佐藤　満 ＜平成32年4月＞		博士(医学)		アドバンストスポーツ スポーツ論(オリンピックとスポーツ)	2･3･4前･後 2･3･4前･後	4 4	2 2	専修大学 経営学部 教授 (平11.4)	
33	兼担	教授	シモザワ カズヨシ 下澤　和義 ＜平成31年4月＞		修士(文学) ※		フランス語中級1a フランス語中級1b 世界の言語と文化(フランス語) 言語文化研究(ヨーロッパ)2 海外語学短期研修1(フランス語) 海外語学短期研修2(フランス語) 海外語学中期研修1(フランス語) 海外語学中期研修2(フランス語) 海外語学中期研修3(フランス語) 海外語学中期研修4(フランス語) 海外語学中期研修5(フランス語) 海外語学中期研修6(フランス語) 海外語学中期研修7(フランス語) 海外語学中期研修8(フランス語)	2･3･4前 2･3･4後 1･2･3･4前･後 2･3･4後 1･2･3前 1･2･3後 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通	1 1 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 商学部 教授 (平10.4)	
34	兼担	教授	スエヒロ ミキ 末廣　幹 ＜平成32年4月＞		修士(文学) ※		Advanced English a Advanced English b	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	専修大学 文学部 教授 (平16.4)	
35	兼担	教授	スズキ アキトシ 鈴木　章俊 ＜平成31年4月＞		経済学博士		経済と社会	1･2前	2	1	専修大学 経済学部 教授 (平25.4)	
36	兼担	教授	スナヤマ ミツコ 砂山　充子 ＜平成33年4月＞		修士(国際学) ※		スペイン語上級1a スペイン語上級1b	3･4前 3･4後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平10.4)	
37	兼担	教授	タカタ ナツコ 高田　夏子 ＜平成31年4月＞		教育学修士 ※		基礎心理学入門 応用心理学入門	1･2前 1･2後	4 4	2 2	専修大学 人間科学部 教授 (平13.4)	
38	兼担	教授	タグチ フミオ 田口　文夫 ＜平成31年4月＞		修士(法学) ※		法と社会	1･2後	2	1	専修大学 法学部 教授 (昭52.4)	
39	兼担	教授	ツチヤ マサアキ 土屋　昌明 ＜平成31年4月＞		文学修士 ※		世界の言語と文化(中国語) 言語文化研究(アジア)1	1･2･3･4前･後 2･3･4前･後	4 4	2 2	専修大学 経済学部 教授 (平11.4)	
40	兼担	教授	ナガエ マサカズ 永江　雅和 ＜平成32年4月＞		博士(経済学)		新領域科目1	2･3･4後	2	1	専修大学 経済学部 教授 (平12.4)	
41	兼担	教授	ナカガワ ユリ 仲川　裕里 ＜平成31年4月＞		博士(社会人類学)(米国)		Basics of English (RL) 1a Basics of English (RL) 1b	1前 1後	1 1	1 1	専修大学 経済学部 教授 (平11.4)	
42	兼担	教授	ナカムラ タイチ 中村　太一 ＜平成32年4月＞		Ph.D.(Linguistics) (英国)		General English	2･3･4前･後	2	2	専修大学 経営学部 教授 (平15.4)	
43	兼担	教授	ニシ タカコ 西　孝子 ＜平成31年4月＞		博士(学術)		自然科学実験演習1 自然科学実験演習2 生物科学3a 生物科学3b	1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 4 2 2	1 1 1 1	専修大学 商学部 教授 (平7.4)	

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
44	兼担	教授	ﾆｼｸﾞﾁ ﾋﾛｺ 西口　拓子 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		ドイツ語初級1a ドイツ語初級1b ドイツ語初級2a ドイツ語初級2b ドイツ語中級1a ドイツ語中級1b ドイツ語上級1a ドイツ語上級1b 世界の言語と文化(ドイツ語) 海外語学短期研修1(ドイツ語) 海外語学短期研修2(ドイツ語) 海外語学中期研修1(ドイツ語) 海外語学中期研修2(ドイツ語) 海外語学中期研修3(ドイツ語) 海外語学中期研修4(ドイツ語) 海外語学中期研修5(ドイツ語) 海外語学中期研修6(ドイツ語) 海外語学中期研修7(ドイツ語) 海外語学中期研修8(ドイツ語)	1前 1前・後 1前 1前・後 2・3・4前 2・3・4後 3・4前 3・4後 1・2・3・4後 1・2・3前 1・2・3後 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通	1 2 1 2 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 2	1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 教授 (平19.4)	
45	兼担	教授	ﾆｯﾀ ｼｹﾞﾙ 新田　滋 ＜平成31年4月＞		博士(経済学)		社会科学論	1・2前・後	4	2	専修大学 経済学部 教授 (平23.4)	
46	兼担	教授	ﾈｷﾞｼ ﾃﾂﾛｳ 根岸　徹郎 ＜平成32年4月＞		文学博士(フランス文学・文化) (仏国)		学際科目7 学際科目8	2・3・4前 2・3・4前	2 2	1 1	専修大学 法学部 教授 (平14.4)	
47	兼担	教授	ﾊｾｶﾞﾜ ﾋﾛｼ 長谷川　宏 ＜平成32年4月＞		文学修士		English Writing a English Writing b	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 教授 (平17.4)	
48	兼担	教授	ﾊﾏﾏﾂ ｼﾞｭﾝｼﾞ 濱松　純司 ＜平成32年4月＞		文学修士		English Language and Cultures a English Language and Cultures b	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 文学部 教授 (平11.4)	
49	兼担	教授	ﾋﾛｾ ﾋﾛｺ 広瀬　裕子 ＜平成31年4月＞		博士(教育学)		専修大学入門ゼミナール 子どもと社会の教育学	1前 1・2前・後	2 4	1 2	専修大学 文学部 教授 (昭63.4)	
50	兼担	教授	ﾌｼﾞﾓﾘ ｹﾝ 藤森　研 ＜平成31年4月＞		法学士		新聞学 科学とメディア 事件・災害とジャーナリズム 憲法とジャーナリズム ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業論文・制作 調査報道論 ジャーナリズム実習	1・2・3前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 3前 3後 4前 4後 4通 2・3・4後 3・4前	2 2 2 2 2 2 2 2 6 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 文学部 教授 (平22.4)	
51	兼担	教授	ﾎﾟｰｼｬｯｸ,ｼﾞｮｾﾌ W. ポーシャック，ジョセフ　W. ＜平成31年4月＞		博士(言語学) (英国)		Intermediate English (RL) 1a Intermediate English (RL) 1b English Speaking a English Speaking b	1前 1後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 経済学部 教授 (平29.4)	
52	兼担	教授	ﾏｼﾞﾏ ﾀｶｼ 間嶋　崇 ＜平成31年4月＞		博士(経営学)		はじめての経営	1・2前	2	1	専修大学 経営学部 教授 (平22.4)	
53	兼担	教授	ﾏｽｺ ｹｲｲﾁ 増子　惠一 ＜平成31年4月＞		理学博士		科学論1a 科学論1b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	2 2	専修大学 経営学部 教授 (平4.4)	
54	兼担	教授	ﾏﾂｲ ｻﾄｼ 松井　暁 ＜平成31年4月＞		博士(経済学)		社会思想	1・2前・後	4	2	専修大学 経済学部 教授 (平19.4)	
55	兼担	教授	ﾏﾂﾊﾗ ｱｷﾗ 松原　朗 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		中国語初級2a 中国語初級2b	1前 1前・後	1 2	1 2	専修大学 文学部 教授 (昭62.4)	
56	兼担	教授	ﾐｽﾞｻｷ ﾀｶﾋﾛ 水崎　高浩 ＜平成31年4月＞		博士(理学)		物理学2a 物理学2b	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	専修大学 法学部 教授 (平12.4)	
57	兼担	教授	ﾐﾔﾜｷ ﾏｻﾀｶ 宮脇　正孝 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		Intermediate English (RL) 1a Intermediate English (RL) 1b Basics of English (SW) 1a Basics of English (SW) 1b	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学 商学部 教授 (平1.4)	
58	兼担	教授	ﾔﾏｼﾀ ｷﾖﾐ 山下　清美 ＜平成31年4月＞		文学修士 ※		情報社会	1・2前	2	1	専修大学 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部 教授 (平3.4)	
59	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾐﾂﾙ 山本　充 ＜平成31年4月＞		理学博士		地理学への招待	1・2前・後	4	2	専修大学 文学部 教授 (平26.4)	
60	兼担	教授	ﾖｼｴ ﾌﾐｵ 吉江　文男 ＜平成31年4月＞		理学博士		生物科学1a 生物科学1b 生物科学2a 生物科学2b	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4 2 4	2 2 1 2	専修大学 経済学部 教授 (昭62.4)	

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
61	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ｾｲｼﾞ 吉田　清司 ＜平成31年4月＞		体育学修士		スポーツ論(スポーツコーチング)	2･3･4前･後	4	2	専修大学 法学部 教授 (昭63.4)	
62	兼担	准教授	ｱｲｻﾞﾜ ｶﾂｼﾞ 相澤　勝治 ＜平成31年4月＞		博士(体育科学)		スポーツリテラシー スポーツウェルネス	1前･後 1前･後	2 2	2 2	専修大学 文学部 准教授 (平23.4)	
63	兼担	准教授	ｱﾐﾉ ﾌｻｺ 網野　房子 ＜平成31年4月＞		文学修士 ※		異文化理解の人類学	1･2前	2	1	専修大学 文学部 准教授 (平10.4)	
64	兼担	准教授	ｳｻﾐ ﾖｼﾋﾛ 宇佐美　嘉弘 ＜平成31年4月＞		博士(学術)		データ分析入門	1前･後	4	2	専修大学 経営学部 准教授 (平5.4)	
65	兼担	准教授	ｵｵﾂｷ ｼｮｳｺ 大月　祥子 ＜平成31年4月＞		博士(理学)		宇宙地球科学1a 宇宙地球科学1b	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	専修大学 商学部 准教授 (平24.4)	
66	兼担	准教授	ｵﾀﾞｷﾘ ｹﾝﾀ 小田切　健太 ＜平成31年4月＞		博士(学術)		物理学1a 物理学1b	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	専修大学 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部 准教授 (平26.4)	
67	兼担	准教授	ｶｼﾞﾛ ﾃﾂｼ 神白　哲史 ＜平成31年4月＞		博士(教育学)		Basics of English (SW) 1a Basics of English (SW) 1b Computer Aided Instruction a Computer Aided Instruction b Computer Aided Instruction for TOEIC a Computer Aided Instruction for TOEIC b	1前 1後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	専修大学 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部 准教授 (平18.4)	
68	兼担	准教授	ｺｳﾉ ﾄｼｱｷ 河野　敏鑑 ＜平成32年4月＞		博士(経済学)		学際科目4	2･3･4後	2	1	専修大学 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部 准教授 (平26.4)	
69	兼担	准教授	ｻｶﾂﾞﾒ ｻﾄﾐ 坂詰　智美 ＜平成32年4月＞		博士(法学)		学際科目3	2･3･4前	2	1	専修大学 法学部 准教授 (平24.4)	
70	兼担	准教授	ｻｸﾏ ﾕﾘ 佐久間　由梨 ＜平成32年4月＞		Ph.D. (Literary Studies) (米国)		English Presentation a English Presentation b 海外語学中期研修1(英語) 海外語学中期研修2(英語) 海外語学中期研修3(英語) 海外語学中期研修4(英語) 海外語学中期研修5(英語) 海外語学中期研修6(英語) 海外語学中期研修7(英語) 海外語学中期研修8(英語)	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平25.4)	
71	兼担	准教授	ｻｸﾗｲ ｱﾔｺ 櫻井　文子 ＜平成31年4月＞		PhD(科学史) (英国)		学際科目9 テーマ科目 海外語学短期研修1(英語) 海外語学短期研修2(英語)	2･3･4後 2･3･4前･後 1･2･3前 1･2･3後	2 4 2 2	1 2 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平25.4)	
72	兼担	准教授	ｻﾄｳ ｺｳｲﾁﾛｳ 佐藤　康一郎 ＜平成32年4月＞		修士(商学) ※		学際科目10	2･3･4後	2	1	専修大学 経営学部 准教授 (平14.4)	
73	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾀｹｵ 鈴木　健郎 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		中国語中級1a 中国語中級1b 中国語上級1a 中国語上級1b 海外語学短期研修1(中国語) 海外語学短期研修2(中国語) 海外語学中期研修1(中国語) 海外語学中期研修2(中国語) 海外語学中期研修3(中国語) 海外語学中期研修4(中国語) 海外語学中期研修5(中国語) 海外語学中期研修6(中国語) 海外語学中期研修7(中国語) 海外語学中期研修8(中国語)	2･3･4前 2･3･4後 3･4前 3･4後 1･2･3前 1･2･3後 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通	1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 商学部 准教授 (平18.4)	
74	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾅｵﾐ 鈴木　奈穂美 ＜平成32年4月＞		博士(学術)		学際科目11	2･3･4後	4	1	専修大学 経済学部 准教授 (平21.4)	
75	兼担	准教授	ﾄﾐｶﾜ ﾏｻﾐﾂ 富川　理充 ＜平成32年4月＞		博士(体育科学)		学際科目5	2･3･4後	2	1	専修大学 商学部 准教授 (平23.4)	
76	兼担	准教授	ﾆｼﾔﾏ ﾀｶﾋﾛ 西山　貴弘 ＜平成31年4月＞		博士(理学)		数理科学3a 数理科学3b	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平25.4)	
77	兼担	准教授	ﾋﾛｶﾜ ﾜｶ 廣川　和花 ＜平成31年4月＞		博士(文学)		歴史と社会･文化	1･2前･後	4	2	専修大学 文学部 准教授 (平27.4)	
78	兼担	准教授	ﾏﾂﾓﾄ ｺｳｿﾞｳ 松本　幸三 ＜平成31年4月＞		博士(理学)		あなたと自然科学 化学1a 化学1b 化学2a 化学2b	1前･後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 2 2 2 2	2 1 1 1 1	専修大学 経営学部 准教授 (平24.4)	
79	兼担	准教授	ﾔｼﾏ ｱｷﾗ 八島　明朗 ＜平成31年4月＞		修士(経営学) ※		マーケティングベーシックス	1･2後	2	1	専修大学 商学部 准教授 (平25.4)	

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
80	兼担	講師	ｸﾎﾞﾀ ﾕｳｽｹ 久保田　祐介 ＜平成31年4月＞		法学博士		日本国憲法	1･2前	2	1	専修大学 法学部 講師 (平29.4)	
81	兼担	講師	ﾊﾔﾏ ﾀﾂｷ 巴山　竜来 ＜平成31年4月＞		博士(理学)		数理科学1a 数理科学1b 数理科学2a 数理科学2b	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学 経営学部 講師 (平27.4)	
82	兼担	助教	ﾊｾｶﾞﾜ ﾄｵﾙ 長谷川　徹 ＜平成31年4月＞		博士(哲学)		倫理学	1･2前･後	4	2	専修大学 文学部 助教 (平28.4)	
83	兼任	講師	ｲ ﾖﾝｼﾞｭ 李　英珠 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		コリア語中級1a コリア語中級1b	2･3･4前 2･3･4後	1 1	1 1	専修大学　経済学部 非常勤講師 (平14.4)	
84	兼任	講師	ｲﾄｾ ﾘｭｳ 糸瀬　龍 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		選択ドイツ語1a 選択ドイツ語1b	2･3･4前 2･3･4後	1 1	1 1	専修大学　法学部 非常勤講師 (平27.4)	
85	兼任	講師	ｲﾜｻｷ ｻﾀﾞｱｷ 岩崎　貞明 ＜平成31年4月＞		学士(文学)		メディア･コミュニケーション史 放送学 メディア批評 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業論文･制作 ジャーナリズム特講	1･2･3前 1･2･3後 2･3･4後 3前 3後 4前 4後 4通 3･4後	2 2 2 2 2 2 2 6 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	専修大学 文学部 非常勤講師 (平31.4)	
86	兼任	講師	ｳｼｼﾞﾏ ｸﾗﾋﾄ 牛島　蔵人 ＜平成32年4月＞		学士(商学)		グラフィックデザイン	2･3･4前	2	1	(株)アスタリズムデザイン 代表取締役 (平30.1)	
87	兼任	講師	ｳﾁｶﾄﾞ ﾘｮｳｺ 内門　亮子 ＜平成31年4月＞		学士(教育学)		日本の文化	1･2前	2	1	専修大学　文学部 非常勤講師 (平18.4)	
88	兼任	講師	ｳﾗﾔﾏ ｹﾝﾀﾛｳ 浦山　健太郎 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		フランス語中級2a フランス語中級2b	2･3･4前 2･3･4後	1 1	1 1	株式会社虔十社(翔進予備校) 専任講師 (平23.4)	
89	兼任	講師	ｵｵﾇｷ ﾖｼﾌﾐ 大貫　良史 ＜平成32年4月＞		修士(経済学)		スペイン語中級1a スペイン語中級1b	2･3･4前 2･3･4後	1 1	1 1	専修大学　文学部 非常勤講師 (平26.9)	
90	兼任	講師	ｵｶﾞｻﾜﾗ ｹﾝｼﾞ 小笠原　健二 ＜平成31年4月＞		修士(国際学)		インドネシア語初級1a インドネシア語初級1b インドネシア語上級1a インドネシア語上級1b	1前 1後 3･4前 3･4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学　商学部 非常勤講師 (平19.4)	
91	兼任	講師	ｵｶﾞﾜ ﾅｵﾔ 尾河　直哉 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		選択イタリア語1a 選択イタリア語1b 言語文化研究(ヨーロッパ)1	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前	1 1 2	1 1 1	専修大学　法学部 非常勤講師 (平27.4)	
92	兼任	講師	ｵﾉ ｼﾞｭﾝｲﾁ 小野　純一 ＜平成32年4月＞		修士(東洋学)		選択アラビア語1a 選択アラビア語1b	2･3･4前 2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学 客員研究員 (平24.3)	
93	兼任	講師	ｶｼﾞ ｼｹﾞｷ 梶　重樹 ＜平成31年4月＞		修士(文学)		世界の文学 文学と現代世界 ロシア語初級2a ロシア語初級2b	1･2前 1･2後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	専修大学　商学部 非常勤講師 (平7.4)	
94	兼任	講師	ｷﾑ ﾅﾋｮﾝ 金　娜玄 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		選択コリア語1a 選択コリア語1b	2･3･4前 2･3･4後	1 1	1 1	専修大学　商学部 非常勤講師 (平15.4)	
95	兼任	講師	ｷﾑ ﾐﾘﾝ 金　美林 ＜平成32年4月＞		博士(政策･メディア)		娯楽とメディア プロジェクトA プロジェクトB 知的財産権	2･3･4後 3前 3後 2･3･4後	2 2 2 2	1 1 1 1	専修大学　文学部 非常勤講師 (平30.9)	
96	兼任	講師	ｸｯﾄﾘﾙ,ｲﾒﾙﾀﾞ クットリル，イメルダ ＜平成32年4月＞		修士(教育学)		インドネシア語中級1a インドネシア語中級1b	2･3･4前 2･3･4後	1 1	1 1	専修大学　経営学部 非常勤講師 (平11.4)	
97	兼任	講師	ｺﾞｳﾀﾞ ﾕｳｼﾞﾛｳ 合田　雄治郎 ＜平成32年4月＞		法務博士(専門職)		スポーツと法	2･3･4前	2	1	合田綜合法律事務所 代表弁護士 (平24.8)	
98	兼任	講師	ｺﾞﾄｳ ﾔｽﾕｷ 後藤　康行 ＜平成31年4月＞		博士(歴史学)		歴史の視点 歴史と地域･民衆	1･2前 1･2後	2 2	1 1	専修大学　文学部 非常勤講師 (平29.4)	

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
99	兼任	講師	ｺﾇﾏ ﾖｼﾂｸﾞ 小沼　良次 ＜平成31年4月＞		学士(政治経済学)		情報表現実習(基礎) 情報表現実習(応用) 応用実習 応用実習 プロジェクトA プロジェクトB ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業論文・制作 ウエブデザイン 視覚表現論	1後 2前 2後 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通 2・3・4後 2・3・4後	6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 6 2 2	3 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	デジタルハリウッド大学大学院 非常勤講師 (平26.4)	
100	兼任	講師	ｺﾐﾔ ﾐﾁｺ 古宮　路子 ＜平成31年4月＞		博士(言語学)		ロシア語中級1a ロシア語中級1b 世界の言語と文化(ロシア語)	2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4後	1 1 2	1 1 1	日本学術振興会 特別研究員(PD) (平29.4)	
101	兼任	講師	ｻｸﾗｲ ｺｳｼﾞ 桜井　厚二 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		ロシア語中級2a ロシア語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学　経済学部 非常勤講師 (平12.6)	
102	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾏｻｵ 佐藤　雅男 ＜平成31年4月＞		修士(文学)		哲学	1・2前・後	4	2	専修大学　文学部 非常勤講師 (平7.4)	
103	兼任	講師	ｼﾗｲ ﾔｽﾋｺ 白井　康彦 ＜平成33年4月＞		学士(社会学)		映像表現技法 映像特殊実習	2・3・4後 3・4前	2 2	1 1	(有)メディアクラフト 代表取締役 (平5.3)	
104	兼任	講師	ｽｷﾞﾀ ﾖｼｷ 杉田　芳樹 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		ドイツ語中級2a ドイツ語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学　法学部 非常勤講師 (平28.4)	
105	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾐﾁｴ 高橋　美智恵 ＜平成31年4月＞		修士(キャリアデザイン学)		キャリア入門 キャリア科目1 キャリア科目2	1前・後 2・3・4前 2・3・4後	4 2 2	2 1 1	専修大学　経営学部 非常勤講師 (平26.4)	
106	兼任	講師	ﾀｷｻﾞﾜ ｻｶｴ 瀧澤　栄 ＜平成32年4月＞		立命館大学経営学科経営学部学士		メディア技術の基礎	2・3・4後	2	1	株式会社 オムニバス・ジャパン CG制作課長 CGディレクター (平23.12)	
107	兼任	講師	ﾀﾅｶ ｸﾆｺ 田中　訓子 ＜平成31年4月＞		修士(文学)		フランス語初級1a フランス語初級1b	1前 1前・後	1 2	1 2	大学書林国際語学アカデミー 講師 (平6.10)	
108	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾏｻｸﾆ 田中　正邦 ＜平成31年4月＞		修士(文学)		フランス語初級2a フランス語初級2b	1前 1前・後	1 2	1 2	専修大学　文学部 非常勤講師 (平5.4)	
109	兼任	講師	ﾀﾑﾗ ｵｻﾑ 田村　修 ＜平成32年4月＞		学士(経済学)		情報マーケティング	2・3・4後	2	1	株式会社レリバンシープラス 取締役 (平28.4)	
110	兼任	講師	ﾁｪ ｿﾝﾋ 崔　誠姫 ＜平成32年4月＞		修士(社会学)		コリア語中級2a コリア語中級2b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学　法学部 非常勤講師 (平26.4)	
111	兼任	講師	ﾃﾞﾏﾁ ｲﾁﾛｳ 出町　一郎 ＜平成32年4月＞		修士(教育学)		スポーツビジネス スポーツの社会学	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	The School of Basketball 代表 (平10.9)	
112	兼任	講師	ﾄﾘﾂｶ ｱﾕﾁ 鳥塚　あゆち ＜平成31年4月＞		修士(文学)		世界の言語と文化(スペイン語)	1・2・3・4後	2	1	青山学院大学　国際政治経済学部 助教 (平28.4)	
113	兼任	講師	ﾅｶﾞｲ ﾀｸﾐ 永井　匠 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		選択中国語1a 選択中国語1b	2・3・4前 2・3・4後	1 1	1 1	専修大学　法学部 非常勤講師 (平9.4)	
114	兼任	講師	ﾅｶﾞｴ ｱｷﾗ 永江　朗 ＜平成32年4月＞		学士(文学士)		インタビュー論 ライティング1 ライティング2	2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	公益社団法人日本文藝家協会 理事 (平25.4)	
115	兼任	講師	ﾅｶﾉ ﾊﾙﾕｷ 中野　晴行 ＜平成32年4月＞		学士(経済学)		マンガ論	2・3・4前	2	1	京都精華大学　マンガ学部 客員教授 (平22.4)	
116	兼任	講師	ﾅｶﾜ ﾏｻﾋｺ 中和　正彦 ＜平成32年4月＞		学士(文学)		アーカイブ政策 文化情報資源論(図書館)	2・3・4後 2・3・4後	2 2	1 1	専修大学　文学部 非常勤講師 (平29.9)	
117	兼任	講師	ﾊｽｲｹ ﾀｶﾋﾛ 蓮池　隆広 ＜平成31年4月＞		修士(文学)		インドネシア語初級2a インドネシア語初級2b インドネシア語中級2a インドネシア語中級2b 世界の言語と文化(インドネシア語)	1前 1後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	専修大学　法学部 非常勤講師 (平25.4)	
118	兼任	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ﾕｳｺ 長谷川　祐子 ＜平成32年4月＞		修士(体育学)		スポーツ栄養のイノベーション	2・3・4前	2	1	専修大学　経営学部 非常勤講師 (平29.4)	
119	兼任	講師	ﾊｯﾄﾘ ｱｻｺ 服部　あさこ ＜平成31年4月＞		博士(社会学)		社会学入門 現代の社会学	1・2前・後 1・2前・後	4 4	2 2	専修大学　人間科学部 非常勤講師 (平30.4)	
120	兼任	講師	ﾊﾏｶﾞ ﾕｳｺ 濱賀　祐子 ＜平成31年4月＞		修士(法学)		政治学入門 政治の世界	1・2前 1・2後	2 2	1 1	専修大学　法学部 非常勤講師 (平13.4)	
121	兼任	講師	ﾌｼﾞｻｸ ｼﾞｭﾝｲﾁ 藤咲　淳一 ＜平成33年4月＞		なし(高卒)		シナリオライティング実習	3・4後	2	1	(株)プロダクション・アイジー リーダー (平8.4)	
122	兼任	講師	ﾌﾟﾛｼｪﾇ,ﾌｨﾘｯﾌﾟ プロシェヌ, フィリップ ＜平成33年4月＞		学士(技術学)		フランス語上級1a フランス語上級1b	3・4前 3・4後	1 1	1 1	専修大学　経済学部 非常勤講師 (平14.4)	
123	兼任	講師	ﾏﾂｼﾀ ﾀｹﾋﾛ 松下　丈宏 ＜平成31年4月＞		修士(教育学)		教育学入門	1・2前	2	1	首都大学東京　都市教養学部 助教 (平20.5)	

教　員　の　氏　名　等

（文学部ジャーナリズム学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
124	兼任	講師	ﾏﾂﾓﾄ ｱﾂｼ 松本　淳 ＜平成32年4月＞		DCM修士(専門職)・修士(社会情報学)		アニメーション論	2･3･4後	2	1	専修大学　ネットワーク情報学部 非常勤講師 (平30.4)	
125	兼任	講師	ﾐｷ ﾕｷｺ 三木　由希子 ＜平成32年4月＞		学士(国際関係学)		プロジェクトA プロジェクトB アーカイブ法制 アーカイブ特講	3前 3後 2･3･4後 3･4後	2 2 2 2	1 1 1 1	特定非営利活動法人情報公開クリアリングハウス 理事長 (平23.5)	
126	兼任	講師	ﾐｻﾜ ﾐﾁｵ 三澤　三知夫 ＜平成31年4月＞		修士(文学)		中国語初級1a 中国語初級1b 中国語中級2a 中国語中級2b	1前 1前･後 2･3･4前 2･3･4後	1 2 1 1	1 2 1 1	専修大学　文学部 非常勤講師 (平20.4)	
127	兼任	講師	ﾐﾅﾐﾀﾆ ﾖｼﾐ 南谷　奉良 ＜平成31年4月＞		修士(文学)		英語圏文学への招待	1･2前	2	1	専修大学　商学部 非常勤講師 (平25.4)	
128	兼任	講師	ﾐﾉﾜ ｼｹﾞﾙ 箕輪　茂 ＜平成32年4月＞		博士(国際関係論)		スペイン語中級2a スペイン語中級2b 選択スペイン語1a 選択スペイン語1b	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後	1 1 1 1	1 1 1 1	専修大学　経済学部 非常勤講師 (平28.4)	
129	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾄｼﾋﾛ 山口　俊洋 ＜平成32年4月＞		修士(文学)		選択フランス語1a 選択フランス語1b	2･3･4前 2･3･4後	1 1	1 1	専修大学　ネットワーク情報学部 非常勤講師 (平22.4)	
130	兼任	講師	ﾖｺﾌｼﾞﾀ ﾄｼﾔｽ 横藤田　稔泰 ＜平成31年4月＞		博士(歴史学)		スペイン語初級1a スペイン語初級1b	1前 1前･後	1 2	1 2	専修大学　経営学部 非常勤講師 (平24.4)	